スピードライト
Speedlight
闪光灯
閃光燈

使用説明書
Instruction Manual
使用说明书
使用說明書

Ch

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は製品を正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

⚠ 警 告 スピードライトについて

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関（☞P.36）に修理を依頼してください。

電池を取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。電池を抜いて、販売店または当社サービス機関（☞P.36）に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

発光禁止

車の運転者等にむけてスピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと
視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと
やけどや発火の原因となります。

使用説明書に表示された電池を使用すること
正しい電池を使用しないと、液もれ、破裂、発火の原因となります。

マンガン乾電池、アルカリ電池、リチウム電池は非充電式ですので、充電しないこと
液もれ、破裂、発火の原因となります。

電池からもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること
そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと
そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠ **注 意** スピードライトについて

ぬれた手でさわらないこと
感電の原因になることがあります。

製品は幼児の手の届かない所に置くこと

なめて感電したり、ケガの原因となることがあります。

強い衝撃を与えないこと

内部が故障し、破裂、発火の原因になることがあります。

シンナーやベンジンなどの有機溶剤を使ってふかないこと
また、ナフタリン、しょうのうの入った場所に保管しないこと

プラスチックケースが割れて火災や感電の原因となることがあります。

保管するときには電池を外すこと

発火、液もれの原因となることがあります。

 警 告 電池について

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池に表示された警告・注意を守ること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使用説明書に表示された電池を使用すること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池は幼児の手の届かない所に置くこと
幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水につけたり、濡らさないこと
液もれ、発熱の原因となります。

充電式電池以外は充電しないこと
液もれ、発熱の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

はじめに

このたびはニコンスピードライトSB-30をお買い上げいただきありがとうございます。
SB-30は、TTL、外部自動調光、マニュアルの各モードによるスピードライト撮影に加え、ワイヤレスでの増灯撮影が可能な、ガイドナンバー16（照射角28mm、ISO100・m、20℃）の小型軽量、多機能スピードライトです。

次のような用途に最適です。

・スピードライトを内蔵していない一眼レフカメラのハンディなスピードライトとして。（TTL、外部自動調光、マニュアルの各モード撮影）
・デジタルカメラCOOLPIX(クールピクス）やスピードライトを内蔵する一眼レフカメラと組み合わせ、増灯用スピードライトとして。（ワイヤレス増灯撮影）
・下方バウンスによるカメラに取り付けたままの近接撮影、内蔵赤外フィルタで他のスピードライトの発光を制御する赤外線リモートコマンダー撮影も手軽に行えます。

ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みください。また、ご使用のカメラの「使用説明書」も併せてお読みいただくようお願い申し上げます。

・本機はSB-22sと同等のTTLモード機能を持っています。ご使用のカメラの使用説明書に本機が記載されていない場合は、SB-22sの内容を適用してください。
・（☞P. 00）は参照ページです。

ご確認ください

- 本製品には保証書とカスタマ登録カードが添付されていますのでご確認ください。
  - ・保証書の詳細は「アフターサービスと保証について」(☞P.34)をご覧ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、当社サービス機関(☞P.36)にて新しい使用説明書をお求めください(有料)。
- 大切な撮影(結婚式や海外旅行など)をするときには、必ず試し撮りをして、スピードライトが正常に機能するかを事前に確認してください。
  - ・本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用及び利益喪失等に関する損害)についての補償はご容赦願います。
- 本製品は、当社製のカメラ及びアクセサリーに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。
  - ・他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

目次

撮影の前に

一眼レフカメラに装着して撮影する

ハンディなスピードライトとして

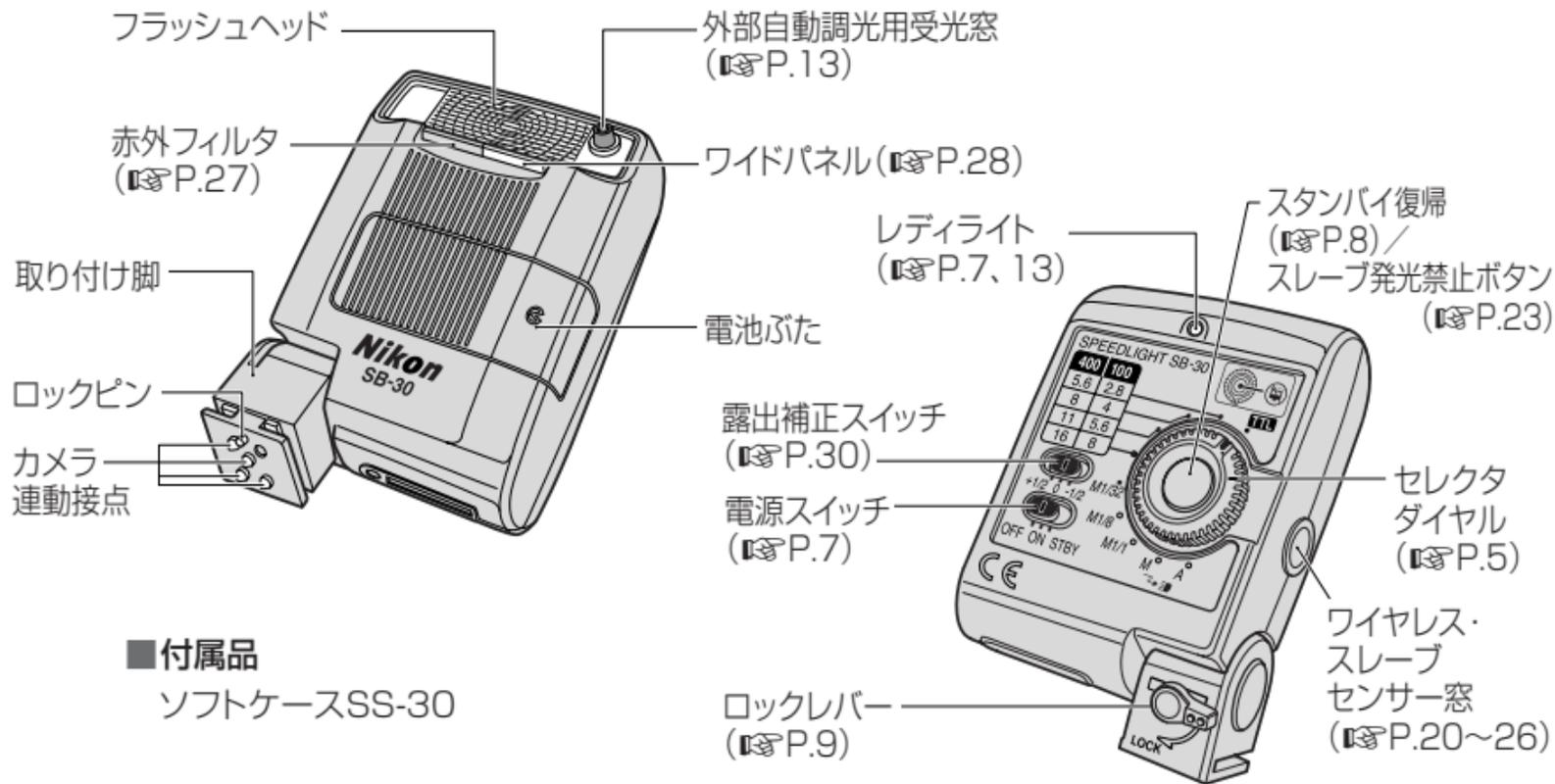
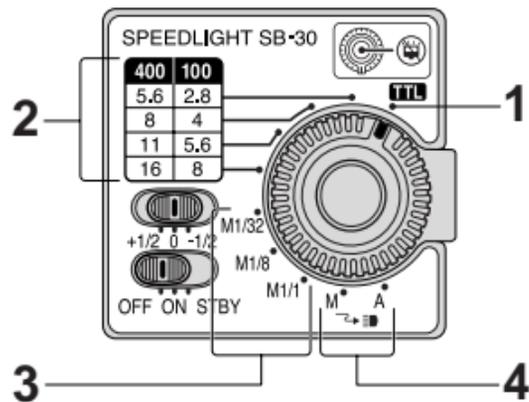
COOLPIXカメラと組み合わせ、遠くの被写体まで撮影する

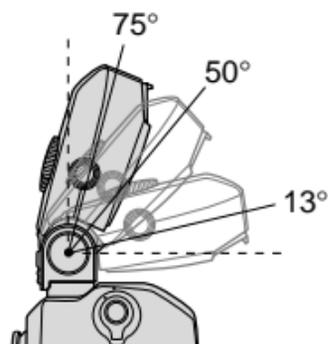
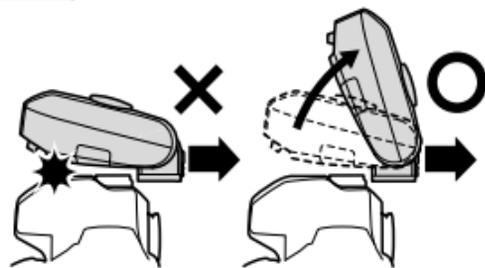
応用撮影

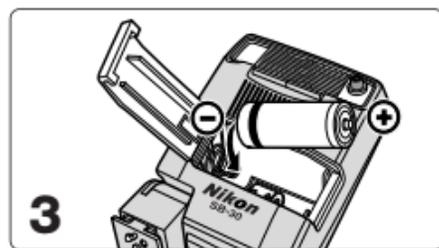
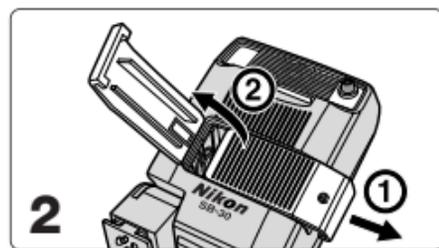
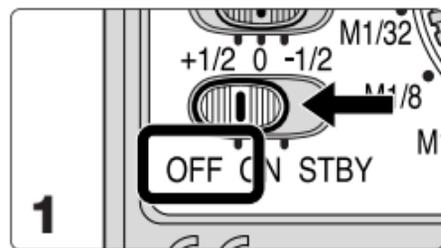
資料編

各部の名称

■付属品

ソフトケースSS-30

セレクタダイヤルのセット位置

1 TTLモード（☞P.12、14）
2 外部自動調光モード（☞P.13、16）
3 マニュアルモード（☞P.18）
4 ワイヤレス・スレーブモード（補助灯）（☞P.20）

フラッシュヘッドの回転角度

75°：通常の撮影時
50°：撮影距離が約0.4m以下の場合（☞P.29）
13°：格納時

注 意　フラッシュヘッドが13°の位置では、アクセサリーシューから引き抜かないこと。
SB-30やカメラにキズが付く原因となります。

電池の入れ方

1 電源スイッチをOFFにします。

2 電池ぶたを矢印の順に開けます。

3 +−表示の向きに電池を入れ、電池ぶたを押さえながらスライドさせて閉じます。

・3Vリチウム電池(CR123AまたはDL123Aタイプ)を1本使用します。他の電池は使用できません。

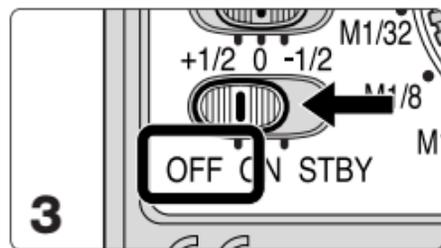
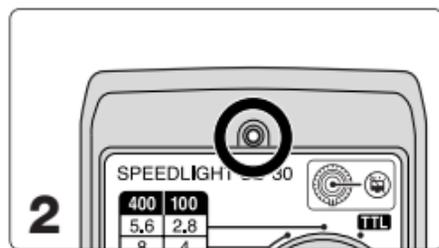
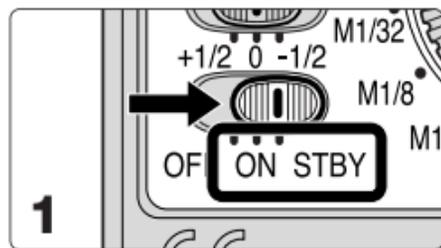
・交換の際は、必ず電源スイッチをOFFにしてください。ONまたはSTBYのまま電池を交換すると、誤って発光したり、正常に電源がONにならない場合があります。このような場合は、電源スイッチをいったんOFFにしてからON(またはSTBY)にセットしてください。(☞P.7)

発光回数、発光間隔と電池交換の目安

・発光回数は、新品電池を使用して約250回(M1/1発光時)です。

・M1/1発光後に次の発光が可能になるまでの時間は、約4秒です(新品電池使用時)。

・電源ONや発光後、レディライト点灯までの時間が30秒以上になったら、電池を交換してください。

電源のON/OFFとスタンバイ機能

1 電源スイッチをONまたはSTBYにセットします。

・電源スイッチをSTBYにセットすると、スタンバイ機能が働きます。(☞P.8)

・アクセサリーシューのないCOOLPIXカメラではSTBYは使用できません。必ずONにセットしてください。

2 レディライトの点灯を確認します。

・レディライトが点灯すると、SB-30は発光可能状態です。

3 使用しないときは、電源スイッチをOFFにセットします。

・SB-30を使用しないときは、電源スイッチは必ずOFFにセットしてください。

スタンバイ機能

・電源スイッチをSTBYにセットすると、電池の無駄な消費を防ぐスタンバイ機能が働きます（セレクタダイヤルがTTL、外部自動調光、マニュアルにセットされている場合）。

・SB-30およびカメラを操作しない状態が約40秒間続くと、スタンバイ機能により自動的に電源がOFFになります（スタンバイOFFの状態）。

・セレクタダイヤルがワイヤレス・スレーブにセットされている場合は、スタンバイ機能は働かず、電源ONのままとなります。電池の消耗にご注意ください。

スタンバイ機能でOFFになった電源は、以下の操作で電源ONになります。

・スタンバイ復帰／スレーブ発光禁止ボタンを押す。

・TTLモードでの撮影が可能なカメラに装着時は、カメラのシャッターボタンを半押しする。

アクセサリーシューへの取り付け方法

取り付け／取り外しの方法

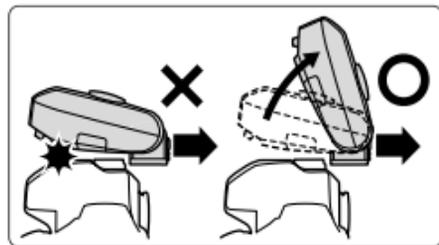
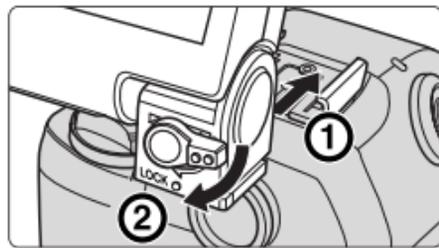
①取り付け脚をアクセサリーシューに差し込み、②ロックレバーをLOCK位置まで回します。

・スピードライト外れ防止用のピン受け穴がないアクセサリーシューに取り付けてご使用の場合は、SB-30がやや外れやすくなりますので、ご注意ください。

・取り外すときは、フラッシュヘッドを75°か50°にセットし、ロックレバーを反時計回りに90°回してロックを解除してから引き抜いてください。

スピードライト内蔵カメラに装着時のご注意

・スピードライト内蔵カメラのアクセサリーシューにSB-30を装着した場合は、内蔵スピードライトは収納したままにしてください。

・内蔵スピードライトを上げて使用すると、内蔵スピードライトまたはSB-30のいずれか一方のみが発光しますが、これは異常ではありません。

カメラ別の接続方法と使用可能なセレクタダイヤル位置、推奨発光モード

銀塩フィルム式一眼レフカメラとの組み合わせ

◎：推奨発光モード　×：使用不可

	カメラの種類／機種名	カメラとの接続方法	使用可能なセレクタダイヤル位置 TTL	外部自動調光	マニュアル	ワイヤレス(M)	ワイヤレス(A)
スピードライト非内蔵	**TTLモード可能カメラ** F5・F100・F90Xシリーズ・F90シリーズ・F4シリーズ・F-801s・F-801・F-601M・F-501・F-301・FM3A・FA・FE2・FG・F3シリーズ*1	アクセサリシュー	◎ (☞P.14)	○	○	―	―
スピードライト非内蔵	**TTLモード不可カメラ** F2*2・FM2・NewFM2・FE・FG20・EM・FM10・FE10	アクセサリシュー	×	◎ (☞P.16)	○	―	―
スピードライト内蔵	**アクセサリーシュー付** F80シリーズ*4・F70D*4・ニコンU・ニコンUs*3・プロネア600i・F-601・F60D・F50D・F-401x・F-401s・F-401	アクセサリシュー	◎ (☞P.14)	○	○	―	―
		ワイヤレス	―	―	―	◎ (☞P.21)	◎ (☞P.21)
スピードライト内蔵	**アクセサリーシューなし** プロネアS	ワイヤレス	―	―	―	◎ (☞P.21)	◎ (☞P.21)

＊1　F3カメラはTTLガンカプラーAS-17を使用。

＊2　F2カメラはTTLガンカプラーAS-1を使用。

＊3　ニコンUsカメラはアクセサリーシュー装着時はTTLモード撮影はできません。外部自動調光モードに設定してください。

＊4　F80シリーズ、F70Dカメラの内蔵スピードライトを主灯とする場合は、カメラの露出モードをマニュアルに設定してください。

デジタルカメラとの組み合わせ

◎：推奨発光モード　×：使用不可

カメラの種類／機種名	カメラとの接続方法	使用可能なセレクタダイヤル位置				
		TTL	外部自動調光	マニュアル	ワイヤレス(M)	ワイヤレス(A)
D1シリーズ*1・D100	アクセサリシュー	×	◎ (☞P.16)	○	―	―
COOLPIX5000・5700	アクセサリシュー	◎ (☞P.14)	○	○	―	―
COOLPIX900・910・950・990・995・4500	コード*2*3	◎ (☞P.14)	○	○	―	―
COOLPIX900・910・950・990・995・4500	ワイヤレス*4	―	―	―	◎ (☞P.21)	◎ (☞P.21)
COOLPIX*5 700・775・800・880・885・2000・2500・3500・4300	ワイヤレス*4	―	―	―	×	◎ (☞P.21)
COOLPIX100・300・600*6・5000*7・5700	ワイヤレス*4	―	―	―	◎ (☞P.21)	◎ (☞P.21)

＊1　SB-30にはD-TTLモード機能はありません。
＊2　COOLPIX900を除く。
＊3　ブラケットSK-E900の使用をおすすめします。
＊4　SK-9ブラケットセットの使用をおすすめします。
＊5　このグループのカメラは適正な発光量制御を行うために、内蔵スピードライトが連続して2回発光します。
＊6　COOLPIX600は専用スピードライトを使用。
＊7　COOLPIX5000の赤目軽減モードではワイヤレス（M）は使用できません。ワイヤレス（A）でご使用ください。

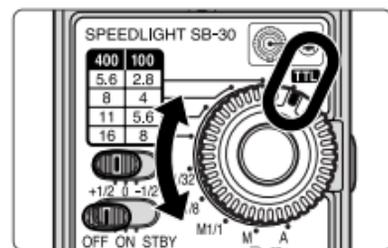
自動調光撮影について

本機では、TTLモードと外部自動調光モードの2つの自動調光撮影が行えます。

TTLモード撮影

TTLモード撮影が可能な一眼レフカメラとの組み合わせ時に可能です。カメラのシャッターを押した(SB-30が発光開始した)瞬間、被写体からの反射光をカメラのレンズを通して測光し、適正露出になるようにカメラがSB-30の発光を停止させます。

SB-30でTTLモード撮影が行えるカメラは「カメラ別の接続方法と使用可能なセレクタダイヤル位置、推奨発光モード」(☞P.10)をご覧ください。

ご使用のカメラやレンズ等の組み合わせにより、マルチBL調光、TTL-BL調光、簡易TTL-BL調光、スタンダードTTL調光などのTTLモード撮影が可能です。詳細はカメラの使用説明書をご覧ください。

・本機はモニター発光機能がないため、3D-マルチBL調光はできません。

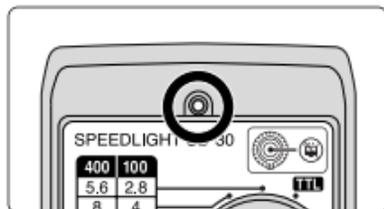
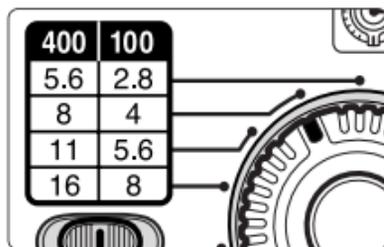
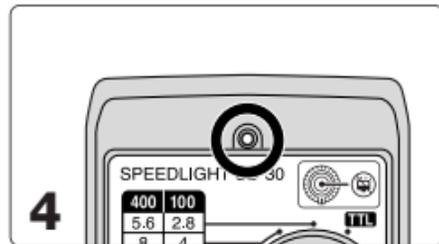
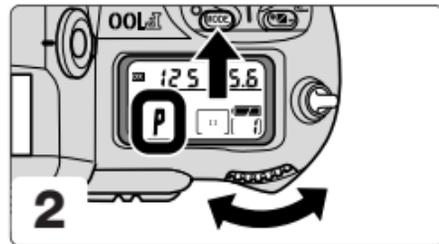
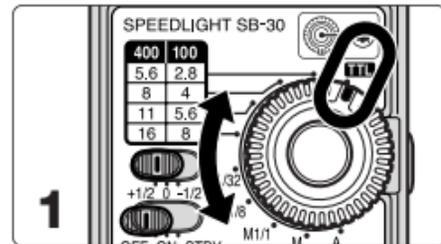
・SB-30にはD-TTLモード機能はありません。

外部自動調光モード撮影

デジタル一眼レフを含む、すべての一眼レフカメラとの組み合わせ時に可能です。カメラのシャッターを押した（SB-30が発光開始した）瞬間、SB-30が被写体からの反射光を外部自動調光用受光窓を通して測光し、適正露出になるようにSB-30が発光停止します。このため、TTLモード撮影ができないカメラとの組み合わせで自動調光撮影が行えます。

SB-30で使用可能な絞り値は、ISO100ではF2.8、4、5.6、8、ISO400ではF5.6、8、11、16です。

自動調光撮影時の露出不足警告

TTLモードまたは外部自動調光モードでの撮影時に、SB-30がフル発光して露出不足の可能性がある場合は、発光直後にレディライトが約1.5秒間点滅します。撮影距離を短くするか、カメラ側の絞り値を開放（小さい数値）側にセットするなどして、撮影し直してください。

TTLモード撮影の手順

1 SB-30のセレクタダイヤルを**TTL**にセットします。

2 カメラの露出モード、測光モード、シンクロモード、シャッタースピードなどをセットします。

・カメラ側の設定が不適切でTTLモード撮影ができない場合は、カメラファインダー内のレディライトが点滅して警告を表示します。設定を再確認してください。

3 絞り値と調光範囲を確認します。

・「絞り値と撮影可能範囲」(☞P.15)を参照して、主要被写体が調光範囲にあることを確認してください。

・カメラの露出モードが"**A**"絞り優先オート(または"**M**"マニュアル)時は、表から求めた絞り値の中から適当な絞り値をカメラにセットします。

4 SB-30のレディライトの点灯を確認して、撮影します。

・発光直後にファインダー内レディライトが点滅した場合は、(☞P.13)

絞り値と撮影可能範囲（m）

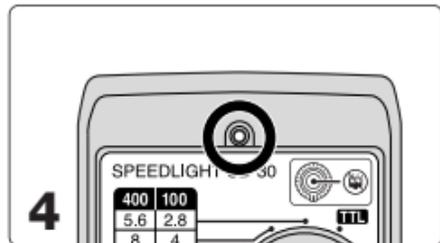
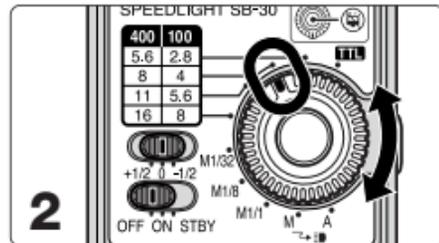
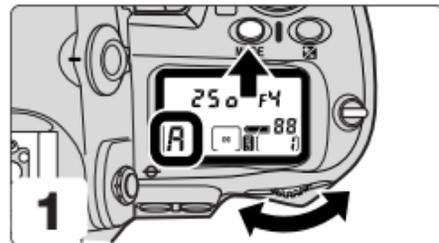
	ISO感度						撮影可能範囲（m）		
	25	50	100	200	400	800	ワイドパネルなし	ワイドパネル使用時	
	—	1.4	2	2.8	4	5.6	1～8m	0.7～5m	TTLモード撮影
外部自動調光モード撮影	1.4	2	2.8	4	5.6	8	0.7～5.6m	0.5～3.5m	TTLモード撮影
外部自動調光モード撮影	2	2.8	4	5.6	8	11	0.6～4m	0.3～2.5m	TTLモード撮影
外部自動調光モード撮影	2.8	4	5.6	8	11	16	0.6～2.8m	0.3～1.7m	TTLモード撮影
外部自動調光モード撮影	4	5.6	8	11	16	22	0.6～2m	0.3～1.2m	TTLモード撮影
	5.6	8	11	16	22	32	0.6～1.4m	0.3～0.8m	TTLモード撮影
	8	11	16	22	32	—	0.6～1m	0.3～0.6m	TTLモード撮影

・ISO感度100（200）の場合、外部自動調光モードで使用可能な絞り値はF2.8、4、5.6、8（F4、5.6、8、11）です。

・ISO感度100（400）の場合、TTLモードで使用可能な絞り値はF2～16（F4～32）の無段階です。

・約1mより近距離での撮影時は、ワイドパネルのご使用をおすすめします。（☞P.28）

・約0.4mより近距離での撮影時は、フラッシュヘッドを50°の位置にセットしてください。（☞P.5）

外部自動調光モード撮影の手順

1 カメラの露出モード、シンクロモード、シャッタースピードなどをセットします。

・FM3A、NewFM2、FEなどのカメラでシャッタースピードの設定が間違っている場合は、カメラファインダー内のレディライトが点滅して警告します。設定を再確認してください。

2「絞り値と撮影可能範囲」(☞P.15)を参照して主要被写体が撮影可能範囲内になる絞り値を求め、その値にSB-30のセレクタダイヤルをセットします。

・使用可能な絞り値は、「絞り値と撮影可能範囲」(☞P.15)をご覧ください。

3 カメラ(またはレンズ)にSB-30と同じ絞り値をセットします。

・カメラ(レンズ)の絞り値はSB-30にセットした絞り値と同じにして適正露出が得られます。

・ズーミングする(焦点距離を変える)と絞り値が変わるレンズをご使用の場合には、絞り値をセットする際に、「ズーミングによる絞りの変化」(☞P.17)を参照してください。

4 SB-30のレディライトの点灯を確認して、撮影します。

・発光直後にファインダー内レディライトが点滅した場合は(☞P.13)

ズーミングによる絞りの変化

・ズーミングする(焦点距離を変える)と絞り値が変わるレンズをご使用の場合には、絞り値をセットする際に、以下の点にご注意ください。

・詳細は、ご使用のカメラ、レンズの使用説明書をご覧ください。

カメラの表示パネルやファインダー(液晶表示)で絞り値を確認する場合

・レンズの絞りリングを最小絞り(最も大きい数値)に固定し、ズーミングして焦点距離を決めた後に、カメラの表示パネルまたはファインダーに表示される絞り値がカメラにセットされた絞り値となります。

レンズの絞りリングで絞り値を確認する場合

・ズーミングして焦点距離を決めた後に、以下の要領で読み取った絞り値が、セットされた絞り値です。

広角側の焦点距離での撮影時:緑色(または線)の絞り指標の絞り値がカメラ側(レンズ)の設定値です。

望遠側の焦点距離での撮影時:黄色(または点)の絞り指標の絞り値がカメラ側(レンズ)の設定値です。

中間の焦点距離での撮影時:2つの絞り指標の中間の絞り値がカメラ側(レンズ)の設定値です。

マニュアルモード撮影について

SB-30はM1/1、M1/8、M1/32に発光量（ガイドナンバー）を設定できます。 ガイドナンバーと撮影距離、レンズの絞り値を組み合わせて適正露出になるように撮影します。

・カメラの露出モードを"A"絞り優先オートまたは"M"マニュアル以外にセットするとシャッターがきれないカメラがありますのでご注意ください。

ガイドナンバー（m）とISO感度

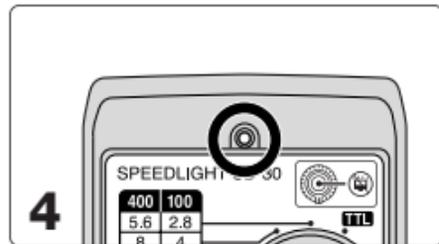
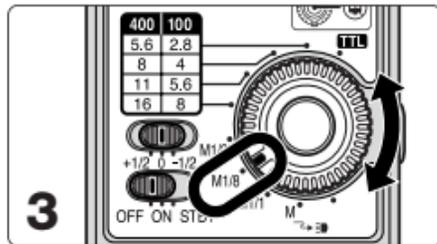
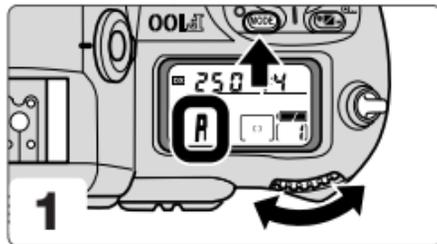
	ISO感度	25	50	100	200	400	800	1600
発 光 量	M1/1	8	11	16	22	32	45	64
	M1/8	2.8	4	5.6	8	11	16	22
	M1/32	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11
発 光 量（ワイドパネル使用時）	M1/1	5	7.1	10	14	20	28	40
	M1/8	1.8	2.5	3.5	5	7.1	10	14
	M1/32	0.9	1.3	1.8	2.5	3.5	5	7.1

・下記の計算式から、撮影距離に応じて適正な露出が得られる絞り値とガイドナンバーを求めることができます。

絞り値 ＝ ガイドナンバー ÷ 撮影距離（m）　　ガイドナンバー ＝ 絞り値 × 撮影距離（m）

・例えば、ISO感度400で撮影距離が2.5m、レンズ絞り値がF2.8の場合、7（＝F2.8×2.5m）の光量（ガイドナンバー）が必要になります。従って、ワイドパネルを装着してセレクタダイヤルをM1/8（＝ガイドナンバー7.1）にセットします。

・同様に、ISO感度400で撮影距離が4m、ワイドパネルなしで発光量M1/1で撮影する場合、ガイドナンバーは32なので、レンズ絞り値はF8（＝32÷4m）となります。

マニュアルモード撮影の手順

1 カメラの露出モード、シンクロモード、シャッタースピードなどをセットします。

2 主要被写体までの距離に見合う絞り値と発光量を求めます。

・SB-30のガイドナンバーは、セレクタダイヤルの設定とワイドパネルの有無によって、表(☞P.18)の通り変化します。

3 絞り値をカメラ(またはレンズ)に、発光量をSB-30にセットします。

4 レディライトの点灯を確認して、撮影します。

・マニュアルモードでは、撮影後の露出不足警告は行われません。

ワイヤレス・スレーブ(補助灯)撮影

ここでは、SB-30を、カメラ内蔵スピードライトやカメラに装着したスピードライト(主灯)の発光に同期して発光させる補助灯として使用するワイヤレス・スレーブ撮影について説明します。SB-30を補助灯として使用すると、以下のようなワイヤレス増灯撮影が行えます。

・ワイヤレス・スレーブにセットすると、スタンバイ機能は働きません。電池の消耗にご注意ください。(☞P.8)

COOLPIXカメラなどのカメラ内蔵スピードライトと組み合わせて、より遠くまで撮ることができます。(☞P.22)
SB-30をカメラの横に置き、内蔵スピードライトの発光に連動させてワイヤレス・スレーブで発光させると、内蔵スピードライトだけでは届かない遠い被写体まで撮影することができます。

カメラから離れた位置から補助灯の光を当てて撮影できます。(☞P.24)
カメラから離れた位置にSB-30を設置して増灯撮影を行うと、立体感を演出したり、画面全体に光が回った写真を撮ることができます。

強い光を当てて壁の影を消したり、遠い背景を浮き立たせたりすることができます。(☞P.26)
SB-30をM1/1発光させることにより、強い光を当てて影を消したり、遠い背景を浮き立たせたりすることができます。

赤外線で他のスピードライトを制御する撮影ができます。(☞P.27)
SB-30をカメラに取付けて内蔵の赤外フィルタをセットすると、他のスピードライトの発光を制御する赤外線リモートコマンダー撮影が可能です。

2つのワイヤレス・スレーブ撮影方法

SB-30はセレクタダイヤルにより、2つのワイヤレス・スレーブ撮影が可能です。

ワイヤレス・スレーブA（オート）：

・主灯の発光開始と発光停止に連動して、SB-30も発光開始と発光停止をワイヤレスで行います。

・主灯の発光開始と発光停止を感知できる距離は、直線で約5m以内です。

ワイヤレス・スレーブM（マニュアル）：

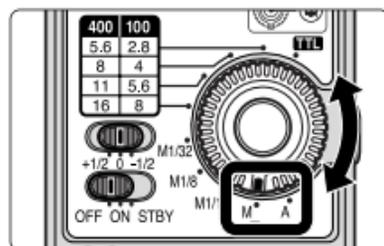
・主灯の発光開始に連動して、SB-30がワイヤレスでM1/1発光します。

・主灯の発光を感知できる距離は、直線で約40m以内です。

ワイヤレス・スレーブ撮影時のご注意

・補助灯のSB-30は、主灯の光がワイヤレス・スレーブセンサー窓に入るように配置します。特に、手持ちで撮影する場合、主灯の光が確実にワイヤレス・スレーブセンサー窓に入るように注意してください。

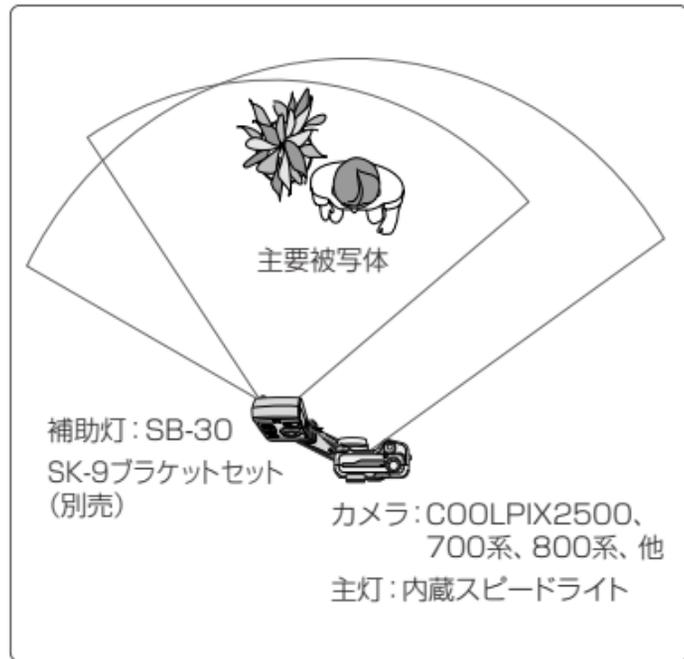
・ワイヤレス・スレーブ撮影では、主灯がモニター発光を行うと適正な露出が得られません。以下の方法で、モニター発光を止めてください。COOLPIXカメラが行う連続的な2回発光は問題ありません。

F80シリーズ、F70Dカメラ	カメラの露出モードをMマニュアルにセットする。
F5、F100、F90xシリーズ、F90シリーズカメラ	カメラに取り付けたスピードライトがモニター発光しないようにセットする。
D1シリーズカメラ	カメラに取り付けたスピードライトを外部自動調光またはマニュアル発光にセットする。

COOLPIXカメラなどのカメラ内蔵スピードライトと組み合わせて、より遠くまで撮るには

SB-30をカメラの横に置き、内蔵スピードライトの発光に連動させてワイヤレス・スレーブ撮影を行わせると、内蔵スピードライトだけでは届かない遠い被写体まで撮影することができます。セレクタダイヤルをワイヤレス・スレーブ**A**（オート）にセットすると、SB-30は自動調光撮影を行います。

・COOLPIX900や、内蔵スピードライトが2回発光するCOOLPIX2500、700系、800系でも使用できます。

・アクセサリーシューのないプロネアS、ホットシューにTTLモード機能がないニコンUsでTTLモードによる調光撮影ができます。

・SK-9ブラケットセット（別売）を使用してCOOLPIX700系、800系と組み合わせる場合は、取付け位置に注意が必要です。詳細はSK-9の使用説明書をご覧ください。

COOLPIXカメラでの撮影の手順

1 カメラを通常のスピードライト撮影と同様にセットします。

2 補助灯のSB-30をワイヤレス・スレーブA(オート)にセットします。

・ワイヤレス・スレーブ撮影では、SB-30の露出補正スイッチによる補正は行えません。カメラ側で補正してください。

3 絞りや撮影距離を確認して撮影します。

・周囲のスピードライトの発光に応答して補助灯のSB-30が発光するのを防ぐには、スタンバイ復帰／スレーブ発光禁止ボタンを押してください。ボタンを押している間、SB-30はスレーブ発光しません。

銀塩フィルム式一眼レフカメラでの撮影の手順

1 主灯(カメラ内蔵スピードライトまたはカメラに装着したスピードライト)が発光するようにセットします。

・必ず主灯のモニター発光を止めてください。(☞P.21)

2 補助灯のSB-30をワイヤレス・スレーブA(オート)にセットします。

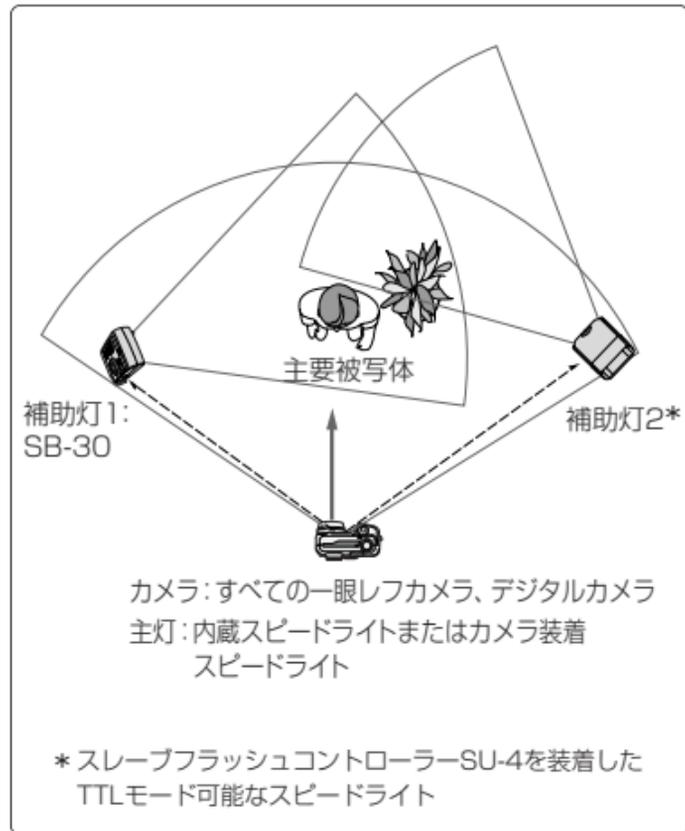
・ワイヤレス・スレーブ撮影では、SB-30の露出補正スイッチによる補正は行えません。カメラ側で補正してください。

3 絞りや撮影距離を確認して撮影します。

・周囲のスピードライトの発光に応答して補助灯のSB-30が発光するのを防ぐには、スタンバイ復帰／スレーブ発光禁止ボタンを押してください。ボタンを押している間、SB-30はスレーブ発光しません。

カメラから離れた位置から補助灯の光を当てて撮影するには

カメラから離れた位置にSB-30などの補助灯を設置して増灯撮影を行うと、立体感を演出したり、画面全体に光が回った写真を撮ることができます。SB-30をワイヤレス・スレーブ **A**（オート）にセットすると、ワイヤレスでTTLモードや外部自動調光モードを使った増灯撮影が行えます。

- COOLPIX900や、内蔵スピードライトが2回発光するCOOLPIX2500、700系、800系でも使用できます。
- 補助灯には、SB-30、SB-80DX、SB-50DX等のワイヤレス増灯機能内蔵のスピードライト、またはスレーブフラッシュコントローラー SU-4に装着したTTLモード可能スピードライトが使用できます。
- ワイヤレス・スレーブ **A**（オート）時、主灯の発光開始と発光停止を感知できる距離は、直線で約5m以内です。
- 補助灯のワイヤレス・スレーブセンサー窓には、主灯の光のみが当たるように設置してください。補助灯の反射光を含め主灯以外の光が当たるとワイヤレス・スレーブ **A**（オート）機能が正常に動作しない場合があります。

撮影の手順

1 カメラを通常のスピードライト撮影と同様にセットします。

2 補助灯のSB-30をワイヤレス・スレーブA（オート）にセットします。

・ワイヤレス・スレーブ撮影では、SB-30の露出補正スイッチによる補正は行えません。カメラ側で補正してください。

3 主灯のスピードライトの発光モードをTTLにセットします。

・必ず、主灯のモニター発光を止めてください。（☞P.21）

・主灯のモニター発光がキャンセルできない場合は、TTL以外のモードにセットします。

・D-TTLモードは使用できません。デジタル一眼レフカメラ使用時は外部自動調光または絞り連動自動調光モードにセットします。

4 絞りや撮影距離を確認して撮影します。

強い光を当てて壁の影を消したり、遠い背景を浮き立たせたりするには

SB-30をワイヤレス・スレーブ**M**(マニュアル)にセットすると、M1/1発光するため、強い光を当てて影を消したり、遠い背景を浮き立たせたりすることができます。

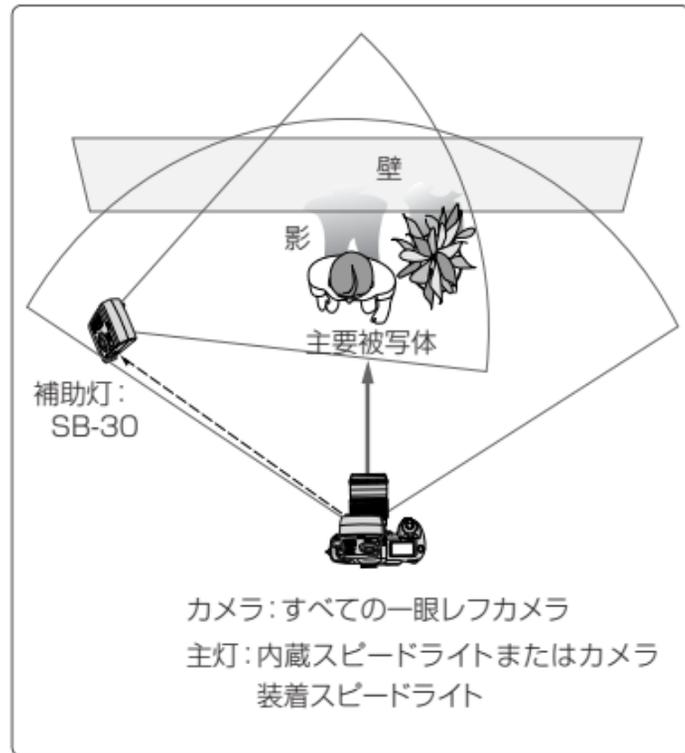
・主灯の発光を感知できる距離は、直線で約40m以内です。

撮影の手順

1 補助灯のSB-30をワイヤレス・スレーブM(マニュアル)にセットします。

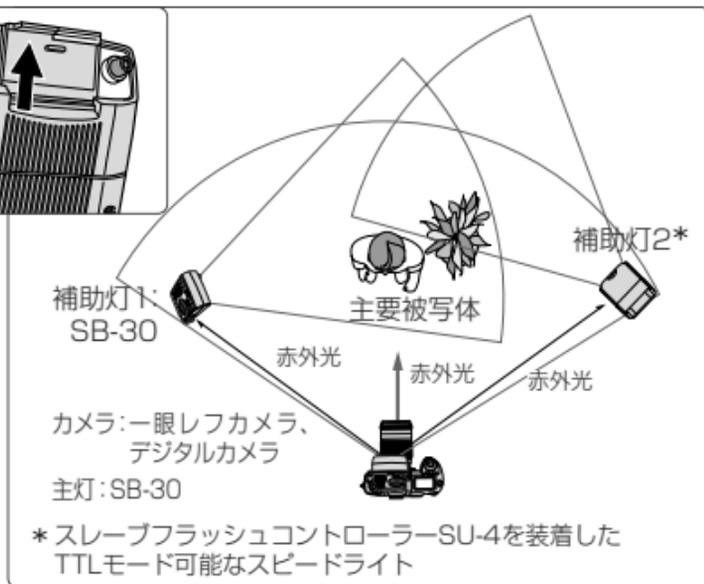
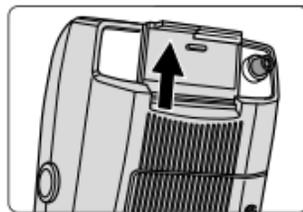
2 補助灯が照明する被写体までの距離とカメラ側(レンズ)の絞り値で露出を決めて撮影します。

・「マニュアルモード撮影について」(☞P.18)をご覧ください。

・壁にできる影を消すような場合は、影ができる壁がSB-30の光によって+2段以上オーバーになるレンズ絞り値で撮影することをおすすめします。

赤外線リモートコマンダー撮影

カメラに取り付けたSB-30（主灯）の内蔵赤外フィルタをセットすると、離れた場所のワイヤレス補助灯の発光を制御する赤外線リモートコマンダー撮影が可能です。この場合、赤外線は撮影に影響しないため、正面からのスピードライト光がない、補助灯だけのライティングとなります。

＊スレーブフラッシュコントローラーSU-4を装着したTTLモード可能なスピードライト

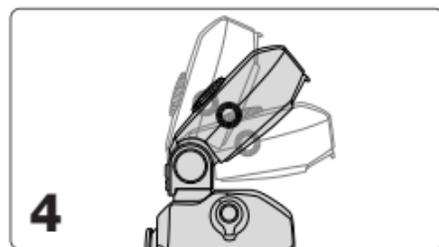
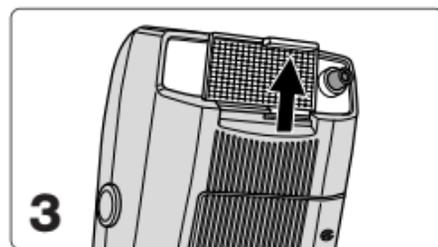
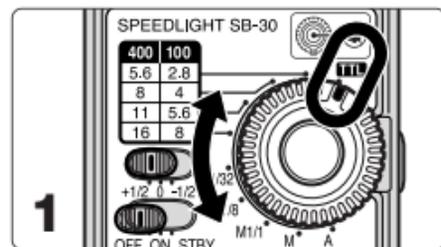
・TTLモード撮影を行ってください。外部自動調光撮影はおすすめしません。
・赤外フィルタはワイドパネルと一緒にセットされます。
・赤外フィルタの両端から光が漏れますが、撮影には影響ありません。
・赤外フィルタを使用しない場合は、通常の撮影となり、主灯の光も撮影に供します。

コード接続での増灯撮影

SB-30は、他のTTLモード可能スピードライトと同様に、TTL調光コードSC-17／SC-24（共に別売）、TTL増灯コードSC-18／SC-19（共に別売）やTTL増灯アダプターAS-10（別売）を使った、TTL増灯撮影が可能です。詳細は、アクセサリーカタログや使用するカメラ、アクセサリーの使用説明書をご覧ください。

近接撮影(約0.3〜1m)/ワイドパネル

SB-30をカメラのアクセサリーシューに固定したまま、近接撮影が行えます。

・近接撮影を行う場合には必ずワイドパネルをご使用ください。

・使用レンズの口径が大きい場合や、レンズフードを使用して近接撮影すると、レンズ先端の影が写り込むことがありますのでご注意ください。

1 SB-30のセレクタダイヤルをTTLにセットします。

・TTLモードを使用できないカメラとの組み合わせ時は、外部自動調光またはマニュアルモードにセットしてください。

2 カメラの露出モード、測光モード、シンクロモード、シャッタースピードなどをセットします。

・カメラ側の設定が不適切でTTLモード撮影ができない場合は、カメラファインダー内のレディライトが点滅して警告を表示します。設定を再確認してください。

3 ワイドパネルを引き上げて、セットします。

・赤外フィルタ(黒色)が前にかからないようにご注意ください。

4 撮影距離が約0.4m以下の場合、フラッシュヘッドを下向きにセットします。

・撮影距離が約0.4m 以下の場合は、SB-30を50°位置にセットすると、被写体の下側にもスピードライト光が充分に回るようになります。

5「絞り値と撮影可能範囲」(☞P.15)の「ワイドパネル使用時」の表から絞り値を求め、カメラ側にセットします。

・外部自動調光モード撮影時は、求めた絞り値をSB-30のセレクタダイヤルにもセットします。

6 レディライトの点灯を確認して、撮影します。

・発光直後にファインダー内レディライトが点滅した場合は(☞P.13)

ワイドパネル

・ワイドパネルは、近接撮影時以外にも使用できます。

・SB-30の照射角度は、焦点距離28mmレンズの画角をカバーしています。内蔵ワイドパネルをセットすると、照射角度は焦点距離17mmレンズの画角に広がります。ただし、ガイドナンバー(ISO100・m)が16から10に低下します。

・一般的に焦点距離17mmレンズで撮影した場合、画面周辺までの距離が著しく遠くなるため、ワイドパネルを使用しても光が十分に届かない場合があります。あらかじめご注意ください。

露出補正

セレクタダイヤルが外部自動調光あるいは、M1/32、M1/8のとき、露出補正スイッチにより発光量をコントロールすることができます。
主要被写体の明るさを、より明るくしたいときは＋1/2へ、明るさを抑えたいときは－1/2へセットします。
COOLPIXカメラでは、モニタ画面で画像を確認しながら光量を調節して撮影し直すことができるので便利です。

露出補正スイッチ

＋1/2：＋1/2段分、発光量が増加（被写体が明るく写ります）
0：補正なし。補正しない場合は、スイッチをゼロにセットしてください。
－1/2：－1/2段分、発光量が減少（被写体が暗く写ります）

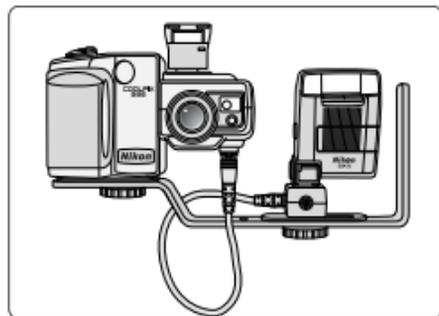
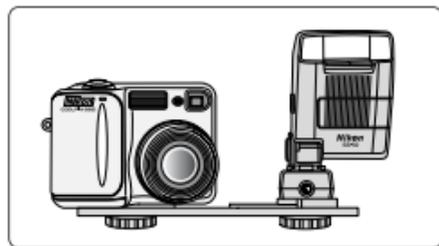
・セレクタダイヤルがTTL、M1/1、ワイヤレス･スレーブモードのときは、露出補正スイッチでの補正はできません。

別売アクセサリー

SK-9 ブラケットセット

COOLPIX700系、800系、900系カメラや一眼レフカメラの横にSB-30を並べて設置するためのブラケットセットです。ブラケットSK-9、TTL増灯アダプターAS-18、COOLPIX900系（COOLPIX900を除く）カメラとAS-18を接続するシンクロコードSC-25で構成されています。

増灯ブラケット SK-E900／増灯アダプタ AS-E900

デジタルカメラ COOLPIX900系にSK-E900を装着し、AS-E900でCOOLPIXの増灯ターミナルと接続すると、SB-30を補助灯として使用できます。
SK-E900はAS-E900を1個、標準装備しています。

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、下記をご確認ください。

故障かな？	ご確認ください	対策／参照項目
レディライトが点灯しない	電源スイッチがONまたはSTBYの状態で電池を交換しませんでしたか	「電池の入れ方」(☞P.6)
	電池の+−の方向が間違っていませんか	「電池の入れ方(☞P.6)
	電池が消耗していませんか	「電池の入れ方(☞P.6)
	スタンバイ機能で、電源が自動的にOFFになっていませんか	「電源のON/OFFとスタンバイ機能」(☞P.7)
	電池の電極またはSB-30の接触部分が汚れていませんか	乾いた布で汚れを拭き取ってください。
撮影直後、レディライトが約1.5秒間点滅する	撮影距離が調光範囲外ではありませんか	「絞り値と撮影可能範囲」(☞P.15)
レディライトが点灯するまでの時間が長い	電池が消耗していませんか	「電池の入れ方(☞P.6)
	連続発光によって、電池が発熱していませんか	熱が下がるまで、お待ちください。
レディライトが点灯しているのに、シャッターがきれない	セレクタダイヤルが外部自動調光またはマニュアルモードにセットされ、カメラの露出モードがマルチプログラムオートまたはシャッター優先オートになっていませんか	「外部自動調光モード撮影」(☞P.16) 「マニュアルモード撮影」(☞P.18)

取扱い上のご注意／電池について

■お手入れの方法

・ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。

■保管の方法

・カビや湿気による故障を防ぐため、風通しの良い乾燥したところに保管してください。

・ナフタリンや樟脳、磁気を発生する器具の近くには、置かないでください。

・極度に高温になるところ（夏期の車内やストーブなどの近く）には、置かないでください。高温になると、故障の原因となります。

・約2週間以上使用しないときは、電池の液漏れによる故障を防ぐために、電池を取り出してください。

・コンデンサー（SB-30内部の部品）の劣化を防ぐため、約1ヶ月に1回を目安に電源を入れて発光させてください。

■ご使用になる場所にご注意ください

・極端に温度差がある場所に移動すると、SB-30内部や外観部に水滴が生じることがあります。バッグやビニール袋などに入れ、周囲の温度になじませてからご使用ください。

・テレビ塔や高圧鉄塔に近い場所では、強い磁気や電波が発生しており、誤作動することがあります。

・SB-30をワイヤレス･スレーブモードに設定時は、ちらつきのある蛍光灯の近くなどでは誤発光することがあります。

■新品の3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123Aタイプ）を1本使用してください。

・大切な撮影に際しては、早めに電池を交換するか、予備の電池を携行してください。

・電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

■低温時には新しい電池を使用してください。

・低温時に消耗した電池を使用すると、SB-30が作動しなくなることがあ ります。

・低温時には新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して温めながら交互に使用してください。

・低温時は、常温時より発光間隔が長くなり、発光回数も減少します。低温のために一時的に性能が低下した電池でも、常温に戻ると性能が回復する場合があります。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問はニコンカスタマーサポートセンターでお受けしています。(☞P.36)

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

・ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。(☞P.36)

■補修用性能部品について

SB-30の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後5年間を目安としています。

・補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

・修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

・水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

製品の保証について

① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご愛用者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から1年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

④ 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します(領収書のない場合は有料となる場合があります)。

⑤ 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。

⑥ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

仕　様

型　式	直列制御方式TTL自動調光スピードライト
使用電池	3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123Aタイプ）1本
ガイドナンバー （ISO100・m）	16：照射角28mm（ワイドパネルなし） 10：照射角17mm（ワイドパネル使用時）
照射角	28mmのレンズの画角をカバー（ワイドパネルなし） 17mmのレンズの画角をカバー（ワイドパネル使用時）
電源スイッチ	OFF／ON／STBYの切換え式 ON／STBYポジションにて電源ON STBYポジションで無操作状態が約40秒間続くと、自動的に電源OFF
発光間隔／発光回数	**発光間隔**：約4秒（M1/1発光、新品電池使用時） **発光回数**：約250回（M1/1発光、新品電池使用時）
セレクタダイヤル	TTL、外部自動調光（4段階）、マニュアル（3段階）、ワイヤレス（A、M）の切換え式
レディライト	**点灯**：充電完了時 **点滅**：フル発光時の露出警告（TTL、外部自動調光モード時）/カメラ側の設定不良（TTLモード時）
スタンバイ復帰 ／スレーブ発光禁止ボタン	スタンバイ機能でOFFになった電源のON スレーブ発光の禁止
閃光時間	1/2800秒（M1/1発光）
大きさ	約58.5（幅）×83.5（高さ）×36（厚さ）mm
質量（重さ）	約92g（電池を除く）

＊仕様の内容は、すべて常温（20°）・新品電池使用時のものです。　＊仕様・外観の一部は、改良のため予告なしに変更することがあります。

資料編

J

■アフターサービスのご案内

■使い方に関するお問い合わせのご案内

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

140-0015 東京都品川区西大井1-4-25（コア・スターレ西大井第一ビル2階）

0570-02-8000 市内通話料金でご利用いただけます。

営業時間 9:30〜18:00（土・日曜日・祝日を除く毎日）
このほか年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033**におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499**におかけください。

Foreword

Thank you for purchasing the Nikon Speedlight SB-30.
The SB-30 is a compact, light, and versatile Speedlight having a guide number of 16/52 (at 28mm angle of coverage, ISO 100, m/ft, 20°C/68°F). Available flash shooting modes are TTL auto flash, Non-TTL auto flash, and Manual flash. Wireless multiple flash operation is also possible.

Major features of the SB-30

- The SB-30 is useful as a handy flash unit to perform TTL auto, Non-TTL auto, and Manual flash, when used with Nikon SLRs cameras not having a built-in Speedlight.
- The SB-30 is suitable as a slave flash unit in wireless or wired multiple flash operation when used in combination with the COOLPIX or Nikon SLRs cameras having a built-in Speedlight.
- Close-up flash photography using with the flash head tilted down is possible without detaching the Speedlight from the camera. Wireless multiple flash operation using the SB-30 as an Infrared remote commander is also possible to control the firing of other slave flash unit(s).

To get the most out of your Speedlight, please read this and your camera instruction manual thoroughly before use.

- Because the SB-30 features the same TTL flash operations as those of the SB-22s, refer to those items in the flash photography section of your camera instruction manual corresponding to SB-22s, if the SB-30 is not listed.
- (p. xx) indicates the reference page.

Tips on using the Speedlight

- Take test shots before shooting important occasions like weddings or graduations.
- The Nikon Speedlight SB-30’s performance has been optimized for use with Nikon cameras/accessories and lenses. Camera/accessories made by other manufacturers may not meet Nikon’s criteria for specifications, and nonconforming cameras/accessories could damage the SB-30’s components. Nikon cannot guarantee the SB-30’s performance when used with non-Nikon products.

Note

- The Nikon N90s, N90, N70, N60, N55, N50, N8008, N8008s, PRONEA 6i, N6006, N6000, N5005, N4004, and N4004s are sold exclusively in the U.S.A.
- The Nikon N80-Series and N65-Series are sold exclusively in the U.S.A. and Central and South America.
- The Nikon N2020 and N2000 are sold exclusively in the U.S.A and Canada.

Contents

Preparation

Using the SB-30 with SLRs cameras

As a handy Speedlight

Illuminating a distant subject using the SB-30 and cameras such as the COOLPIX

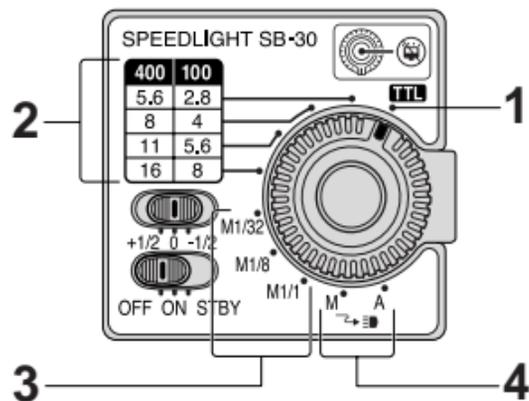
Advanced operation

Reference information

Speedlight parts

1 Flash head
2 Infrared filter (p. 63)
3 Mounting foot
4 Mount pin
5 Hot-shoe contacts
6 Light sensor window for Non-TTL auto flash (p. 49)
7 Built-in wide-flash adapter (p. 64)
8 Battery chamber lid
9 Ready-light (pp. 43, 49)
10 Exposure compensation switch (p. 66)
11 Power switch (p. 43)
12 Mode selector dial (p. 41)
13 Light sensor window for wireless slave flash (pp. 56-62)
14 Standby resume button (p. 44)/Slave flash firing cancel button (p. 59)
15 Mounting foot lock lever (p. 45)

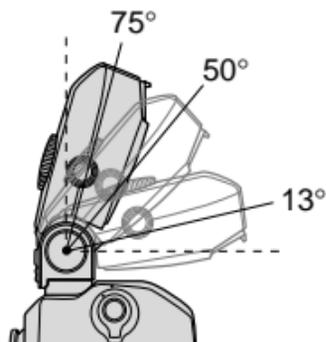
Supplied accessories
Soft Case SS-30

Mode selector dial

1 TTL auto flash mode (pp. 48, 50)

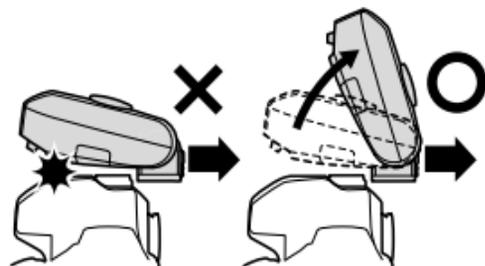
2 Non-TTL auto flash mode (pp. 49, 52)

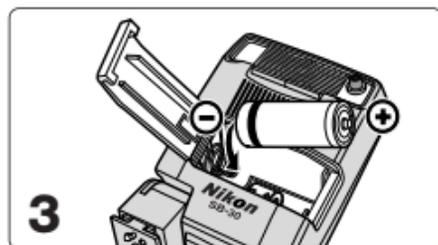
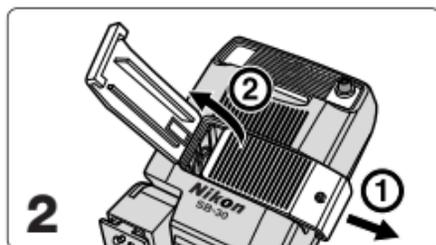
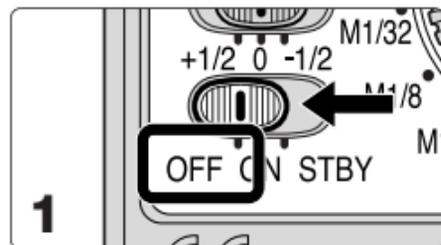
3 Manual flash mode (p. 54)

4 Wireless slave flash mode (p. 56)

Flash head tilting angle

75°: for shooting normal subjects

50°: for shooting subjects closer than 0.4m (1.3 ft.) (p. 65)

13°: when not in use.

CAUTION!
Do not detach the flash unit while it is set at the 13° position. Otherwise, the flash unit or camera might get scratched.

Installing the battery

1 Set the SB-30's power switch to the OFF position.

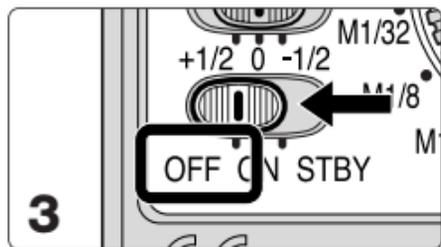
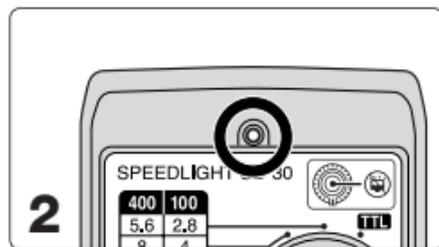
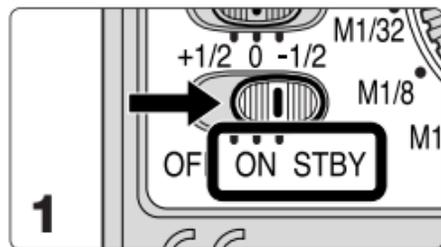
2 Open the battery chamber lid as indicated by the arrows.

3 Install the battery following the + and – marks as shown. Then close the battery chamber lid by sliding it into place while pressing down.

- Install one 3V lithium battery (CR123A or DL123A). Do not use the other types of batteries.
- When replacing the battery, be sure to set the power switch to the OFF position. If the battery is replaced while the power switch is set to the ON or STBY (standby) position, the Speedlight may fire accidentally or the power may not turn on correctly. In this case, set the SB-30's power switch to the OFF position once, then set it back to the ON or STBY position. (p. 43)

Battery performance

- When using a fresh battery, the number of flashes when the SB-30 fires at M1/1 output is approx. 250 times.
- With a fresh battery, the recycling time after the SB-30 fires at M1/1 output is approx. 4 seconds.
- Replace the battery, if the ready-light takes more than 30 seconds to light up when the unit first turned on or after firing the unit.

Turning the power ON/OFF and the Standby function

1 Set the SB-30's power switch to the ON or STBY position.

- When set to the STBY position the Standby function is activated. (p. 44)
- The Standby function does not work with COOLPIX digital cameras having no hot-shoe contacts. In this case, set the SB-30 to the ON position.

2 Make sure the ready-light comes on.

- When the ready-light lights up, the SB-30 is fully recycled and ready to fire.

3 Set the SB-30's power switch to the OFF position when not in use.

- Be sure to set the SB-30's power switch to the OFF position when not in use to conserve battery power.

Conserving battery power using the Standby function

- If the SB-30's power switch is set to the STBY position, the Standby function is activated only when the Mode selector dial is set to either TTL auto, Non-TTL auto, or Manual flash mode.
- If the SB-30 and the camera are not used for approx. 40 seconds, the Standby function activates and automatically turns the SB-30 off to conserve battery power. This is called the standby state.
- The Standby function does not work if the Mode selector dial is set to the Wireless slave flash mode. Take care that the power remains on and is consuming.

To turn the SB-30 on again after it enters in the standby state, you can:

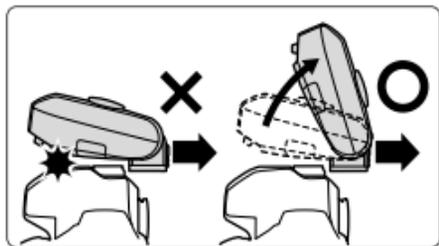
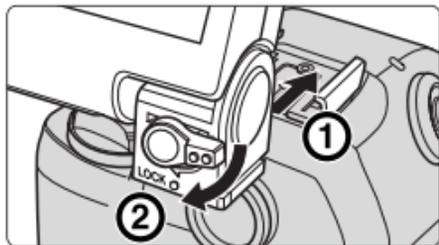
- Press the Standby resume button/Slave flash firing cancel button.
- Lightly press the shutter release button on a camera that is compatible with the TTL auto flash mode.

Attachment to the accessory shoe

Attaching and detaching the Speedlight

Slide the SB-30's mounting foot ① into the camera's accessory shoe, then turn the lock lever ② in the direction of the arrow to lock the unit.

- When the SB-30 is attached to an accessory shoe not equipped with a mount pin hole to prevent accidental detachment, take care that the SB-30 does not fall off.

- When detaching the SB-30, **set the flash head tilting angle to 75° or 50°,** turn the lock lever 90° in the opposite direction to unlock the unit, then pull the Speedlight off.

Note on attaching the SB-30 to cameras that have a built-in Speedlight

When the SB-30 is attached to the camera's accessory shoe, do not pop-up the camera's built-in Speedlight. Otherwise, only one of the Speedlights will fire. However, this is not a malfunction.

Usable cameras and available flash modes

Available flash modes with film-based SLRs cameras

◎: Recommended flash mode ○: Usable flash mode ×: Not usable —: Not applicable

	Camera type and model	Connection to the camera	Mode selector dial settings				
			TTL auto	Non-TTL auto	Manual	Wireless (M)	Wireless (A)
Without a built-in flash	**Cameras compatible with the TTL auto flash mode:** F5, F4-Series, F100, F90X/N90s, F90-Series/N90, F-801s/N8008s, F-801/N8008, F-601M/N6000, F-501/N2020, F-301/N2000, FM3A, FA, FE2, FG, F3-Series*1	Accessory shoe	◎ (p . 50)	○	○	—	—
Without a built-in flash	**Cameras incompatible with the TTL auto flash mode:** F2*2, FM2, New FM2, FE, FG20, EM, FM10, FE10	Accessory shoe	×	◎ (p .52)	○	—	—
With a built-in flash	**Cameras with an accessory shoe:** F80-Series/N80-Series*4, F70-Series/N70*4, F65-Series/N65-Series, F60-Series/N60, F55/N55*3, F50-Series/N50, F-601/N6006, F-401x/N5005, F-401s/N4004s, F-401/N4004, Pronea 600i/6i	Accessory shoe	◎ (p .50)	○	○	—	—
		Wireless	—	—	—	◎ (p .57)	◎ (p .57)
With a built-in flash	**Cameras without an accessory shoe:** Pronea S	Wireless	—	—	—	◎ (p .57)	◎ (p .57)

*1 Optional TTL Flash Unit Coupler AS-17 is required.
*2 Optional TTL Flash Unit Coupler AS-1 is required.
*3 TTL auto flash is not possible when the SB-30 is mounted on the accessory shoe. Set the flash mode to the Non-TTL auto.
*4 Set the camera’s exposure mode to Manual when the built-in Speedlight is used as a master flash unit.

Available flash modes with digital cameras

◎: Recommended flash mode ○: Usable flash mode ×: Not usable —: Not applicable

Camera type and model	Connection to the camera	Mode selector dial settings				
		TTL auto	Non-TTL auto	Manual	Wireless (M)	Wireless (A)
D1-Series*1, D100	Accessory shoe	×	◎ (p .52)	○	—	—
COOLPIX 5000/5700	Accessory shoe	◎ (p .50)	○	○	—	—
COOLPIX 900/910/950/990/995/4500	Cord*2*3	◎ (p .50)	○	○	—	—
	Wireless*4	—	—	—	◎ (p .57)	◎ (p .57)
COOLPIX*5 700/775/800/880/885/2000/2500/3500/4300	Wireless*4	—	—	—	×	◎ (p .57)
COOLPIX 100/300/600*6/5000*7/5700	Wireless*4	—	—	—	◎ (p .57)	◎ (p .57)

*1 The D-TTL auto flash mode is not possible with the SB-30.
*2 Except the COOLPIX 900
*3 Use of the Multi-Flash Bracket Unit SK-E900 is recommended.
*4 Use of the Bracket Set SK-9 is recommended.
*5 The built-in flash fires one preliminary flash before actually firing to produce the correct flash output.
*6 A dedicated Speedlight for the COOLPIX 600 is required.
*7 At the “Auto with red-eye reduction” setting, the Wireless (M) mode is not possible. Use the Wireless (A) mode instead.

Auto flash modes

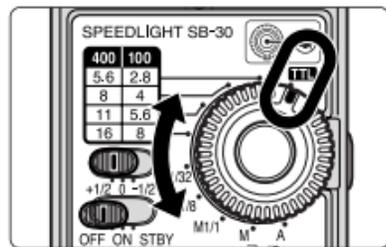
Two auto flash modes are available with the SB-30: TTL auto flash and Non-TTL auto flash

TTL auto flash mode

This mode is possible with SLRs cameras compatible with TTL auto flash. At the instant the shutter is released and the SB-30 starts firing, the camera's built-in TTL auto flash sensor measures the flash illumination through-the-lens that is reflected back from the subject and adjusts the SB-30's flash output, providing the correct exposure.

For usable cameras, refer to "Usable cameras and available flash modes" (p. 46).

Available TTL auto flash modes such as Multi-Sensor Balanced Fill-Flash, Matrix Balanced Fill-Flash, Center-Weighted Fill-Flash/Spot Fill-Flash, or Standard TTL flash vary, depending on the cameras and lenses in use. For details, refer to your camera's instruction manual.

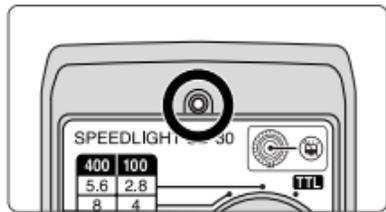
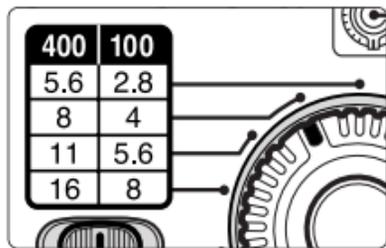
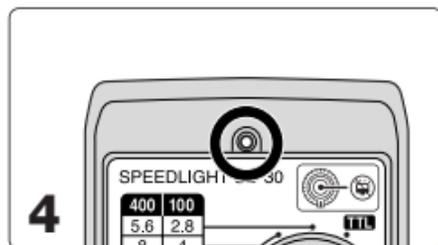
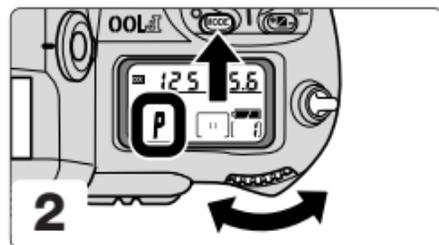
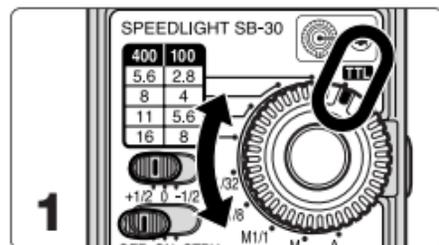
- 3D Multi-Sensor Balanced Fill-Flash is not possible, because the SB-30 does not fire a series of preflashes (Monitor Preflash).
- The D-TTL auto flash mode is not possible with the SB-30.

Non-TTL auto flash mode

This mode is possible with all Nikon SLRs cameras including Digital SLRs. At the instant the shutter is released and the SB-30 starts firing, the SB-30's built-in light sensor for Non-TTL auto flash measures the flash illumination that is reflected back from the subject, automatically controlling the SB-30's flash output to provide the correct exposure. Therefore, auto flash shooting is possible with cameras incompatible with TTL auto flash. A choice of four shooting apertures is available: f/2.8, f/4, f/5.6, and f/8 at ISO 100, and f/5.6, f/8, f/11, and f/16 at ISO 400.

Insufficient flash light warning indication in auto flash modes

When the flash has fired at its maximum output and underexposure may have occurred, the ready-light blinks for approx. 1.5 sec. To compensate, use a wider aperture or move closer to the subject and reshoot.

Basic operation

E

Taking flash pictures in the TTL auto flash mode

1 Set the SB-30's Mode selector dial to **TTL**.

2 Set the camera's exposure mode, metering system, sync mode, shutter speed, etc.
- The ready-light inside the camera's viewfinder blinks to warn you that the setting on the camera is not correct and TTL auto flash is not possible. In this case, make sure the camera settings are correct.

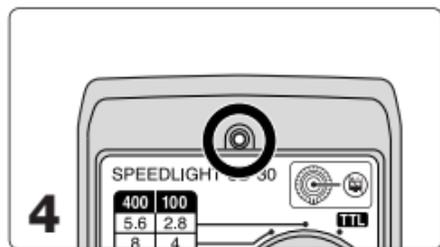
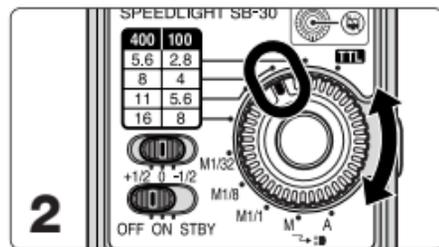
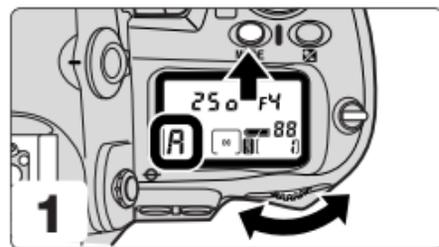
3 Check the aperture and flash shooting distance range.
- Make sure the main subject is within this range by referring to the table "Determining the aperture and flash shooting distance range" (p. 51).
- If the camera's exposure mode is set to Aperture-Priority Auto (A) or Manual (M), set one of the appropriate apertures obtained from the table on the camera.

4 Make sure the SB-30's ready-light is on, then shoot.
- Refer to page 49 if the ready-light inside the camera's viewfinder blinks after shooting.

Determining the aperture and flash shooting distance range (m/ft.)

	ISO sensitivity						Flash shooting distance range (m/ft.)		
	25	50	100	200	400	800	No wide-flash adapter in place	With wide-flash adapter in place	
	—	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	1–8/3.3–26	0.7–5/2.3–16	TTL auto flash
Non-TTL auto flash	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	0.7–5.6/2.3–18	0.5–3.5/1.6–11	
	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	0.6–4/2–13	0.3–2.5/1–8.2	
	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16	0.6–2.8/2–9.1	0.3–1.7/1–5.5	
	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16	f/22	0.6–2/2–6.5	0.3–1.2/1–3.9	
	f/5.6	f/8	f/11	f/16	f/22	f/32	0.6–1.4/2–4.5	0.3–0.8/1–2.6	
	f/8	f/11	f/16	f/22	f/32	—	0.6–1/2–3.2	0.3–0.6/1–1.9	

- At an ISO sensitivity of 100 (200), the available shooting apertures in the Non-TTL auto flash mode are: f/2.8, f/4, f/5.6, and f/8 (f/4, f/5.6, f/8, and f/11)
- At an ISO sensitivity of 100 (400), the available shooting apertures in the TTL auto flash mode are: f/2 to f/16 (f/4 to f/32).
- Use of the built-in wide-flash adapter is recommended when shooting subjects closer than approx. 1m (3.3 ft.) (p. 64)
- Set the flash head at the 50° position when shooting subjects closer than approx. 0.4m (1.3 ft.) (p. 41).

Taking flash pictures in the Non-TTL auto flash mode

1 Set the camera's exposure mode, sync mode, shutter speed, etc.

- The ready-light inside the camera's viewfinder blinks to warn you that the shutter speed is not correctly set with cameras FM3A, New FM2, and FE. In this case, make sure the camera settings are correct.

2 Determine the correct aperture to match the shooting distance range by referring to the table "Determining the aperture and flash shooting distance range" (p. 51). Set the same aperture on the SB-30's Mode selector dial.

- For the available apertures, refer to the table "Determining the aperture and flash shooting distance range." (p. 51)

3 Set the same aperture on the camera or lens as set on the SB-30.

- Otherwise, the correct exposure cannot be obtained.
- When using a zoom lens having a variable aperture, refer to "Variable apertures after zooming in or out" (p. 53) before setting the aperture.

4 Make sure the SB-30's ready-light is on, then shoot.

- Refer to page 49 if the ready-light inside the camera's viewfinder blinks after shooting.

Variable apertures after zooming in or out

- With zoom lenses having a variable aperture, take note of the following before setting the aperture on the SB-30.
- For details, refer to your camera and lens instruction manuals.

Reading the aperture on the camera's LCD panel or in the viewfinder

- Lock the lens aperture at its minimum, and after composing the picture by zooming in or out, read the aperture appearing on the camera's LCD panel or in the viewfinder.

Reading the aperture using the scale on the lens

- After zooming in or out to select the appropriate composition, read the aperture in the following way:

  At wideangle zoom settings, read the aperture value at the green index (or line).

  At telephoto settings, read the aperture value at the yellow index (or dot).

  At intermediate settings, read the aperture value between the two indexes.

Manual flash mode

The SB-30's flash output level can be set manually at M1/1, M1/8, or M1/32. In the Manual mode, you must determine the correct exposure by calculation using a combination of the guide number, shooting distance, and lens aperture.

- If the camera's exposure mode is set to other than Aperture-Priority Auto (A) or Manual (M), the shutter may not be released, depending on the cameras in use.

Guide number (m/ft.) and ISO sensitivity

ISO sensitivity		25	50	100	200	400	800	1600
Flash output level	M1/1	8/26	11/36	16/52	22/72	32/105	45/148	64/210
	M1/8	2.8/9	4/13	5.6/18	8/26	11/36	16/52	22/72
	M1/32	1.4/4.6	2/6.6	2.8/9.2	4/13	5.6/18	8/26	11/36
Flash output level (with wide-flash adapter in place)	M1/1	5/16	7.1/23	10/33	14/46	20/66	28/92	40/131
	M1/8	1.8/5.9	2.5/8.2	3.5/11	5/16	7.1/23	10/33	14/46
	M1/32	0.9/3	1.3/4.3	1.8/5.9	2.5/8.2	3.5/11	5/16	7.1/23

- To obtain the correct exposure, use the following equations to determine the aperture and guide number to match the flash shooting distance.

  f/stop (aperture) = Guide number (GN) ÷ Shooting distance (m/ft)

  Guide number (GN) = Aperture x Shooting distance (m/ft)

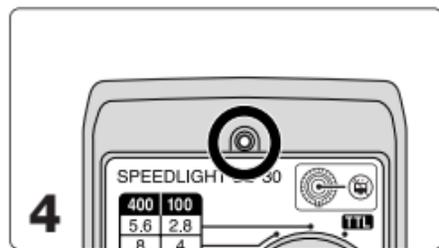
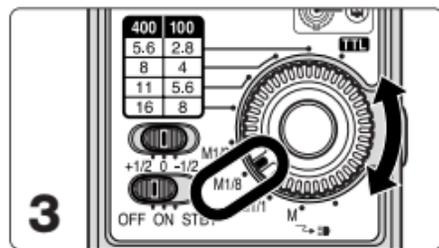
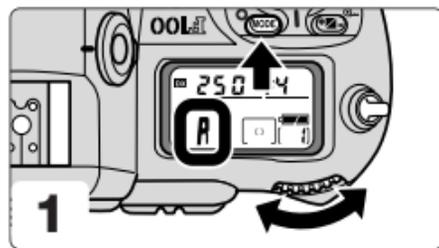
- For example, when shooting a subject at a distance of 2.5m (8.2 ft), at an ISO sensitivity of 400 and a lens aperture of f/2.8:

  Guide number = 2.8 x 2.5 = 7 (in meters) or 2.8 x 8.2 = approx. 23 (in feet).

  Therefore M1/8 is the correct flash output level with the wide-flash adapter in place.

- Likewise, when shooting a subject at a distance of 4m (13 ft.), at an ISO sensitivity of 400 and M1/1 flash output level without using the wide-flash adapter:

  f/stop = 32 ÷ 4 = 8 (in meters) or 105 ÷ 13 = approx. 8 (in feet). Therefore, f/8 is the correct lens aperture.

Taking flash pictures in the Manual flash mode

1 Set the camera's exposure mode, sync mode, shutter speed, etc.

2 Determine the aperture and flash output level to match the flash shooting distance.
- The guide number varies as shown in the guide number table on page 54, depending on the flash output level with and without the wide-flash adapter in place.

3 Set the aperture on the camera or lens and the flash output level on the SB-30.

4 Make sure the SB-30's ready-light is on, then shoot.
- In the Manual flash mode, no warning ready-light blinks to indicate that the light may have been insufficient for correct exposure after shooting.

Wireless slave flash shooting

In this section, the SB-30 is used as a slave flash unit that starts and stops firing in sync with the master Speedlight mounted on the camera or the camera's built-in Speedlight. With the SB-30, the following types of wireless slave flash shooting can be performed.

- The Standby function does not work if the Mode selector dial is set to the Wireless slave flash mode. Take care that the power remains on and is consuming.

Shooting a distant subject using cameras such as the COOLPIX that have a built-in Speedlight (P. 58)
By placing the camera and the SB-30 side-by-side to fire the SB-30 in sync with the built-in Speedlight, you can illuminate a distant subject, creating a picture not possible when using the built-in flash by itself.

Using the SB-30 as a slave flash unit placed away from the camera (p. 60)
In multiple flash, when the SB-30 is used away from the camera, you can create more natural-looking pictures with sufficient illumination throughout the picture.

Softening shadows cast on the wall by the master flash unit or lightening the background (p. 62)
By using the SB-30 at full (M1/1) output, you can eliminate unattractive shadows or lighten the background to create more natural-looking pictures.

Multiple flash operation using the infrared remote commander (p. 63)
With the built-in infrared filter in place, the SB-30 operates as an infrared remote commander to trigger other slave flash units.

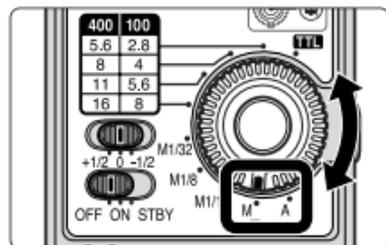
Two methods of wireless slave flash shooting

Wireless slave flash can be performed in two ways by setting the Mode selector dial:

(1) Auto wireless slave flash (A) mode:

- The SB-30 starts and stops firing in sync with the master Speedlight.
- The maximum shooting distance of the SB-30's light sensor is approx. 5m (16 ft.).

(2) Manual wireless slave flash (M) mode:

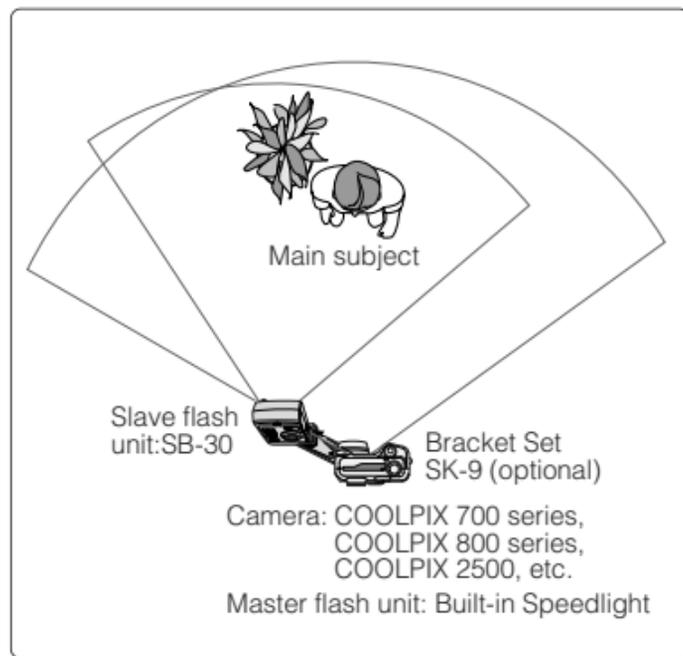
- The SB-30 only fires at M1/1 output in sync with the master Speedlight.
- The maximum shooting distance of the SB-30's light sensor is approx. 40m (131 ft.).

Notes

- Position the slave flash unit (SB-30) so that light from the master flash unit can reach the light sensor of the slave flash unit. This is particularly important when taking pictures while holding a slave flash unit in your hand.
- The correct exposure cannot be obtained if the master Speedlight fires a series of preflashes (Monitor Preflash). Cancel the Monitor Preflash of the master flash unit using the methods described below. This is necessary except for the one preliminary flash firing of the COOLPIX that does not affect the correct exposure.

F80-Series/N80-Series, F70-Series/N70	Set the camera's exposure mode to Manual (M)
F5, F100, F90X/N90s, F90-Series/N90	Cancel the Monitor Preflash of the Speedlight mounted on the camera.
D1-Series	Set the flash mode of the Speedlight mounted on the camera to Non-TTL auto or Manual flash.

Shooting a distant subject using the SB-30 in conjunction with cameras such as the COOLPIX that have a built-in Speedlight

By placing the camera and SB-30 side-by-side to fire the SB-30 in sync with the built-in Speedlight, you can illuminate a distant subject, creating pictures not possible when using the built-in Speedlight alone. Set the SB-30's Mode selector dial to the Wireless slave flash (A) mode to perform auto flash.

- The COOLPIX 900, COOLPIX 700 series, COOLPIX 800 series and COOLPIX 2500 cameras that fire one prelimi-nary flash are usable.
- With the Pronea S that has no accessory shoe or the F55/N55, which has a hot shoe but no TTL auto flash function, the SB-30 can still perform TTL auto flash.
- When attaching the SB-30 to cameras such as COOLPIX 700 series, COOLPIX 800 series, using the optional Bracket Set SK-9, refer to the SK-9 instruction manual.

Taking flash pictures with the COOLPIX

1 Make the necessary settings on the camera as with a normal Speedlight.

2 Set the SB-30's Mode selector dial to Wireless slave flash (A).

- In wireless slave flash shooting, exposure compensation using the SB-30's Exposure compensation switch is not possible. In this case, make exposure compensation on the camera.

3 Check the aperture and flash shooting distance, then shoot.

- Press the Standby resume button/Slave flash firing cancel button to avoid accidental firing in sync with other Speedlights. The SB-30 will not fire, while this button is pressed.

Taking flash pictures using film-based SLRs cameras

1 Set the master Speedlight, either the built-in Speedlight or one mounted on the camera, to fire.

- Be sure to cancel the master flash unit's Monitor Preflash (p. 57).

2 Use the SB-30 as the slave flash unit and set it to the Wireless slave flash (A) mode.

- In wireless slave flash shooting, exposure compensation using the SB-30's Exposure compensation switch is not possible. In this case, make exposure compensation on the camera.

3 Check the aperture and flash shooting distance, then shoot.

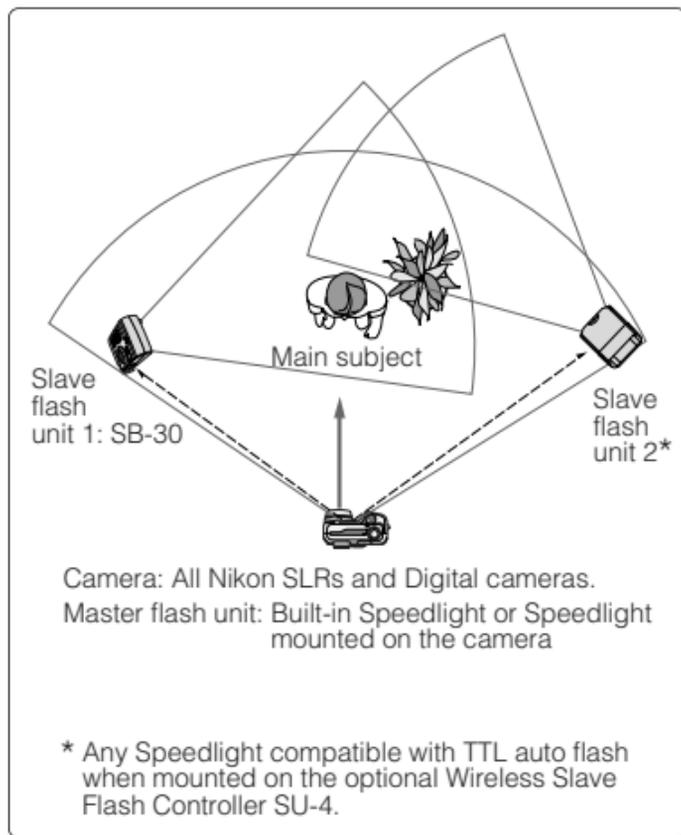
- Press the Standby resume button/Slave flash firing cancel button to avoid accidental firing in sync with other Speedlights. The SB-30 will not fire, while this button is pressed.

Shooting a subject when the SB-30 is placed away from the camera

When the SB-30 is placed away from the camera to perform multiple flash, you can take more natural-looking pictures with sufficient illumination. Set the SB-30's Mode selector dial to Wireless salve flash (**A**) to perform wireless multiple flash operation in the TTL auto or Non-TTL auto flash mode.

- The COOLPIX 900, COOLPIX 700 series, COOLPIX 800 series and COOLPIX 2500 cameras that fire one preliminary flash are usable.
- Speedlights such as the SB-30, SB-80DX, SB-50DX, etc. that feature a wireless multiple flash function can be used as the slave flash unit. Also, any other Speedlight compatible with TTL auto flash, when mounted on the optional Wireless Slave Flash Controller SU-4, is usable.
- In the wireless slave flash (**A**) mode, the maximum shooting distance of the SB-30's light sensor is approx. 5m (16 ft.).
- Position the slave flash unit so that light from the master flash unit only reaches the light sensor of the slave flash unit. If too much light from other slave flash units enters the light sensor of the slave flash unit directly or indirectly, correct operation may not be possible

Camera: All Nikon SLRs and Digital cameras.
Master flash unit: Built-in Speedlight or Speedlight mounted on the camera

* Any Speedlight compatible with TTL auto flash when mounted on the optional Wireless Slave Flash Controller SU-4.

Taking flash pictures

1 Make the necessary settings on the camera as with a normal Speedlight.

2 Set the SB-30's Mode selector dial to Wireless slave flash (**A**).

- In wireless slave flash shooting, exposure compensation using the SB-30's Exposure compensation switch is not possible. In this case, make exposure compensation on the camera.

3 Set the master Speedlight's flash mode to TTL auto flash.

- Be sure to cancel the master Speedlight's Monitor Preflash (p. 57).
- If Monitor Preflash cannot be canceled, set the flash mode to other than the TTL auto flash mode.
- The D-TTL auto flash mode is not possible with the SB-30. With Digital SLRs cameras, set the flash mode to Non-TTL auto flash or Auto Aperture flash.

4 Check the aperture and flash shooting distance, then shoot.

Softening the shadows cast on the wall by the master flash unit or lightening the background

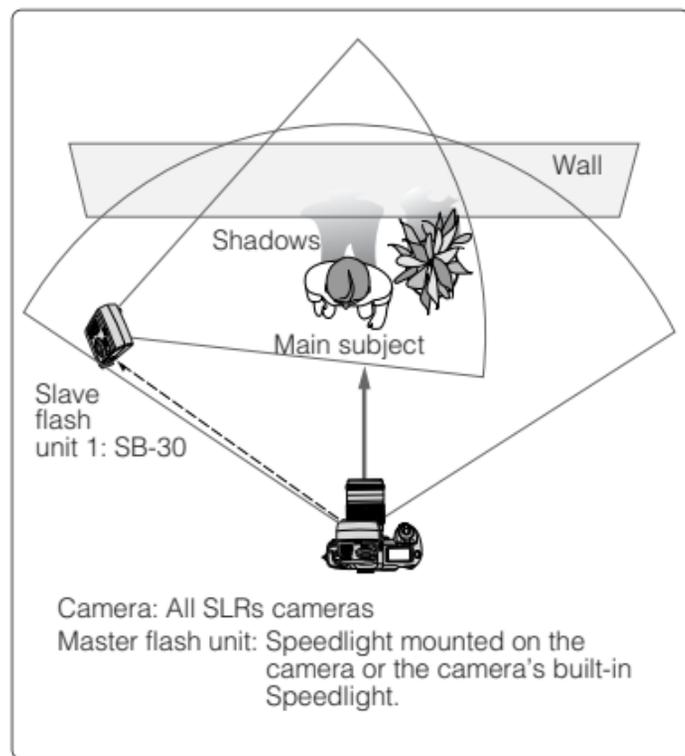
Set the SB-30's Mode selector dial to Wireless slave flash (**M**), and the Speedlight will fire at M1/1 output, allowing you to eliminate shadows or lighten the background for creating more natural-looking pictures.

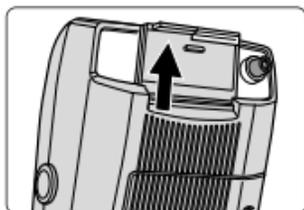
- The maximum shooting distance of the master Speedlight's light sensor is approx. 40m (131 ft.).

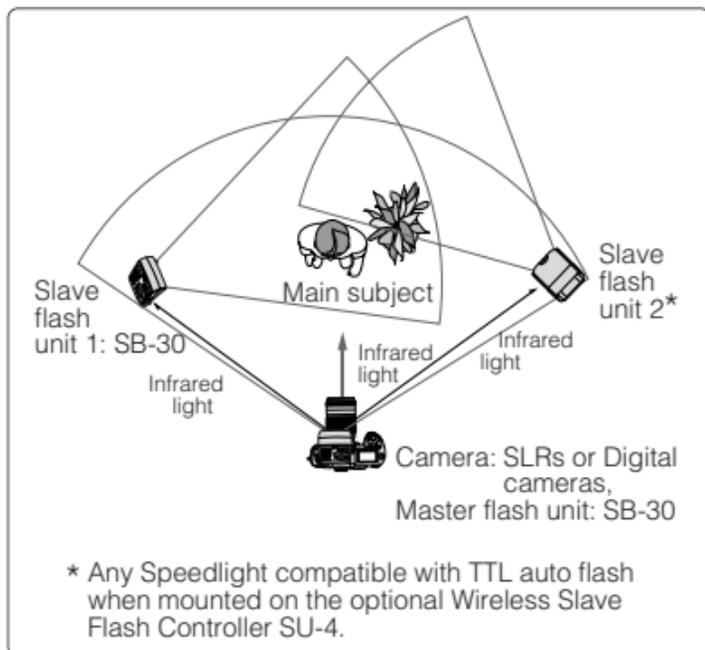
Taking flash pictures

1 Use the SB-30 as the slave flash unit and set it to the Wireless slave flash (M) mode.

2 Determine the correct exposure using the flash-to-subject distance and aperture set on the camera or lens, then shoot.

- Refer to "Manual flash mode" on page 54.
- To eliminate shadows such as those cast on the wall, use a lens aperture that makes the illumination on the wall overexposed by the equivalent of at least +2 stops.

Multiple flash operation using the SB-30 as an infrared remote commander

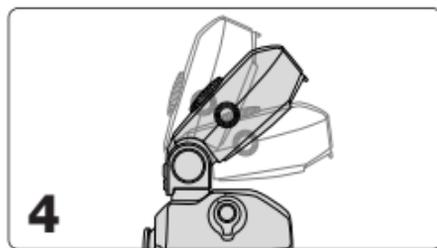
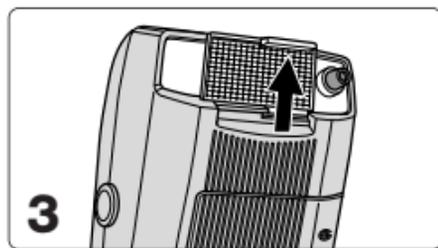
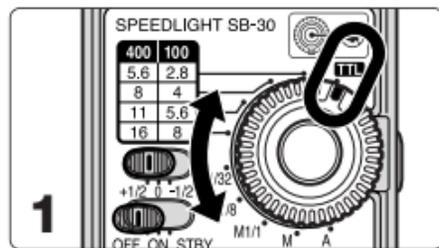
With the built-in infrared filter in place, you can use the SB-30 as an infrared remote commander to perform wireless multiple flash, using slave flash units only to illuminate the subject without the use of a master flash unit.

- Set the flash mode to TTL auto flash; Non-TTL auto flash is not recommended.
- The infrared filter can be used together with the wide-flash adapter.
- Even though light leaks from both sides of the infrared filter, this will not affect the correct exposure.
- Without using the infrared filter, the master flash unit works as a normal flash unit and the subject is also illuminated by this flash unit.

* Any Speedlight compatible with TTL auto flash when mounted on the optional Wireless Slave Flash Controller SU-4.

Multiple flash shooting using cords

Like other Speedlights compatible with the TTL auto flash mode, the SB-30 can perform TTL multiple flash using optional TTL Remote Cords SC-17/SC-24, TTL Multi-Flash Sync Cords SC-18/SC-19, or the TTL Multi-Flash Adapter AS-10. For details, refer to your camera or accessory instruction manuals or brochures.

Close-up flash operation from approx. 0.3 to 1m (1 to 3.3 ft.) with the built-in wide-flash adapter

With the SB-30 attached to the camera's accessory shoe, close-up flash shooting can be performed.

- Be sure to use the built-in wide-flash adapter when taking close-up flash photographs.
- Vignetting may occur in close-up flash shooting when using a large diameter lens, lens hood, etc.

1 Set the SB-30's Mode selector dial to **TTL**.

- With cameras incompatible with the TTL auto flash mode, set the dial to the Non-TTL auto flash or Manual flash mode.

2 Set the camera's exposure mode, metering system, sync mode, shutter speed, etc.

- The ready-light in the camera's viewfinder blinks to warn you that the settings on the camera are not correct and TTL auto flash is not possible. In this case, check the camera's settings.

3 Set the wide-flash adapter in place by pulling it up.

- Take care that the black infrared filter does not obscure the front of the flash adapter.

4 When taking close-ups where the subject is less than approx. 0.4m (1.3 ft.), tilt the flash head down.

- Tilt the flash head down to 50° when taking a subject closer than 0.4m (1.3 ft.) to illuminate the subject sufficiently.

5 Use the table "Determining the aperture and flash shooting distance range (m/ft.)" (p. 51) to determine the proper aperture, and set the same aperture on the camera.

- In the Non-TTL auto flash mode, set the same aperture on the SB-30's Mode selector dial as well.

6 Check that the SB-30's ready-light is on, then shoot.

- Refer to page 49, if the ready-light inside the camera's viewfinder blinks after shooting.

Built-in wide-flash adapter

- The wide-flash adapter can also be used in other than close-up flash shooting.
- The angle of coverage of the SB-30 matches a 28mm lens. The built-in wide-flash adapter increases the angle to match a 17mm lens. The guide number decreases from 16/52 to 10/33 (ISO 100, m/ft)
- When using a 17mm lens with the built-in wide-flash adapter in place, the distance between the camera and subject becomes increasingly pronounced from the center of the frame to the periphery, so the peripheral area might not be sufficiently illuminated in certain cases.

Exposure compensation

Adjusting the SB-30's flash output is possible by using the Exposure compensation switch when the Mode selector dial is set to Non-TTL auto, M1/32, or M1/8.
Set the Exposure compensation switch to +1/2 position to make the main subject brighter, or to –1/2 to make the subject darker.
With COOLPIX cameras, you can adjust the flash output by checking the brightness of the images on the monitor, then reshoot.

Exposure compensation switch

+1/2: Increases the flash output by +1/2 EV to make the subject brighter

0: No compensation. Set the switch to zero (0) when no exposure compensation is desired.

–1/2: Decreases the flash output by –1/2 EV to make the subject darker

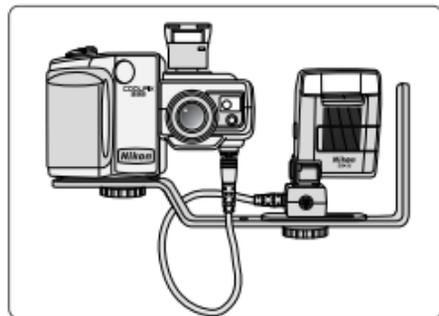
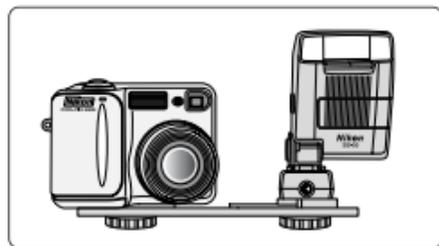
- Making exposure compensation using the switch is not possible, if the Mode selector dial is set to the TTL auto flash, M1/1, or Wireless slave mode.

Optional accessories

Bracket Set SK-9

The SK-9 allows COOLPIX (COOLPIX 700 series, 800 series, and 900 series) or SLR cameras and the SB-30 to be positioned side-by-side. This Bracket Set includes the Bracket SK-9, TTL Multi-Flash Adapter AS-18, and Sync Cord SC-25 for connecting COOLPIX 900 series cameras except the COOLPIX 900 to the AS-18.

Multi-Flash Bracket Unit SK-E900/Multi-Flash Adapter AS-E900

The SB-30 can be used as a slave flash unit with Nikon COOLPIX 900 series cameras by attaching the COOLPIX to Multi-Flash Bracket Unit SK-E900 and connecting the SB-30 to the multi-flash terminal of the COOLPIX using the Multi-Flash Adapter AS-E900.
One AS-E900 Multi-Flash Adapter is included with the SK-E900.

Troubleshooting

Use the following chart to determine the cause of the problem before you take your Speedlight to a Nikon service center for repair.

Problem	Possible cause	Reference/remedy
The ready-light does not light up.	The battery is replaced while the power switch is set to ON or the STBY position.	Installing the battery (p. 42)
	The battery is not correctly installed.	Installing the battery (p. 42)
	Battery power is weak.	Installing the battery (p. 42)
	The standby function is activated and operating.	Turning the power ON/OFF and the Standby function (p. 43)
	The battery terminals or SB-30's battery contacts are dirty.	Clean the terminals or contacts.
The ready-light blinks for approx. 1.5 sec. after firing.	The shooting distance is out of the available flash shooting distance range.	Determining the aperture and flash shooting distance range (m/ft.) (p. 51)
The ready-light takes a long time to light up.	Battery power is weak.	Installing the battery (p. 42)
	The battery generates heat due to continuous firing.	Wait until the SB-30 cools off.
The shutter cannot be released, although the ready-light comes on.	The Mode selector dial is set to Non-TTL auto or Manual, and camera's exposure mode is set to Programmed Auto or Shutter-Priority Auto.	Non-TTL auto flash mode (p. 52) Manual flash mode (p. 54)

Tips on Speedlight care and Notes on batteries

Cleaning

- Use a blower brush to remove dirt and dust from the SB-30 and clean it with a soft, clean cloth. After using the SB-30 near saltwater, wipe the SB-30 with a soft, clean cloth slightly moistened with plain water to remove salt, and then dry it using a dry cloth.

Storage

- Store the SB-30 in a cool, dry place to prevent malfunctions, due to high humidity, as well as the growth of mold or mildew.
- Keep the SB-30 away from chemicals such as camphor or naphthalene.
- Do not use or leave the SB-30 in locations subject to high temperatures such as those encountered near a heater or stove, as this may cause damage to the unit.
- When not using the SB-30 for more than two weeks, be sure to remove the battery before storage to prevent malfunction due to battery leakage.
- Take the SB-30 out about once a month, insert the battery, and fire the unit several times to reform the capacitor.

Operating location

- An extreme temperature change can cause condensation inside the SB-30. When taking the SB-30 to a very hot place from a very cold place or vice versa, place it inside an airtight container such as plastic bag. Leave it inside for a while, then expose the SB-30 gradually to the outside temperature.
- Avoid exposing the SB-30 to strong magnetism or radio waves from TVs or high-voltage power transmission towers, as this may cause it to malfunction.
- While the SB-30's flash mode is set to wireless slave flash, the flash unit may accidentally fire in locations containing flickering fluorescent lights.

Install one 3V lithium battery (CR123A or DL123A).

- Replace the battery in advance or carry extra batteries with you when photographing important events.
- Use a dry cloth to clean the battery terminals if they become soiled by perspiration or oils from your hand. Dirty contacts may cause a bad connection.

Use a fresh battery at low temperatures

- The SB-30 may not work correctly when using an exhausted battery at low temperatures.
- Battery power tends to weaken as the temperature drops, resulting in slower recycling times and reduced number of flashes. Battery power may recover when the temperature returns to normal.
- Use a fresh battery, or keep spare batteries warm and use them when the temperature becomes low.

Specifications

Electronic construction
Automatic Insulated Gate Bipolar Transistor (IGBT) and series circuitry

Battery
One 3V lithium battery (CR123A or DL123A)

Guide number (ISO 100, m/ft.)
16/52 at 28mm angle of coverage (without wide-flash adapter)
10/33 at 17mm angle of coverage (with wide-flash adapter in place)

Angle of coverage
Covers the picture angle of 28mm lens (without wide-flash adapter)
Covers the picture angle of 17mm lens (with wide-flash adapter in place)

Power switch
Three positions provided: OFF/ON/STBY
ON/STBY position: Power is turned on.
STBY position: the SB-30 automatically turns itself off to conserve battery when flash unit is not used for approx. 40 sec.

Recycling times and number of flashes
Minimum recycling time: Approx. 4 sec. (when fired at M1/1 output using a fresh battery)
No. of flashes: Approx. 250 times (when fired at M1/1 output using a fresh battery)

Mode selector dial
Four positions provided: TTL auto flash, Non-TTL auto flash (4 steps), Manual flash (3 steps), Wireless slave flash (A or M)

Ready-light
Lights up when SB-30 is recycled and ready to fire. Blinks when flash fires at its maximum output, indicating light may have been insufficient (in TTL auto flash, Non-TTL auto flash modes) The ready-light inside the camera's viewfinder blinks when the camera settings are not correct in TTL auto flash mode.

Standby resume button/Slave flash firing cancel button
Turns SB-30 on again after it enters standby state.
Prevents SB-30 from firing accidentally in slave flash operation.

Flash duration
1/2800 sec. at M1/1 output

Dimensions (W x H x D)
Approx. 58.5 x 83.5 x 36 mm (2.3 x 3.3 x 1.4 in.)

Weight (without battery)
Approx. 92g (3.2 oz.)

All performance data and specifications are applicable when a fresh battery is used at normal temperatures (20°C/68°F). Specifications and design are subject to change without notice.

前言

多谢阁下购买这一具尼康闪光灯SB-30。
这一具SB-30是小巧、轻盈、以及多功能的闪光灯，闪光指数为GN 16/52（于28mm涵盖角度，ISO 100，米/英尺，20℃/68˚F）。它拥有多种闪光模式，包括TTL自动闪光，非TTL自动闪光、以及手动闪光。此外，它亦可以用作无线多重闪光操作。

SB-30的主要特点

- 这一具SB-30是十分有用的随身闪光灯，当您使用没有内置闪光灯的尼康单镜反光相机时，它可以随时为您提供TTL自动、非TTL自动，以及手动闪光。
- 当配合有内置闪光灯的COOLPIX或尼康单镜反光相机时，SB-30可以用作从属闪光灯作无线或连线的多重闪光操作之用。
- 当要进行近距闪光摄影时，它的闪光灯头可以向下俯低而不需要把闪光灯由相机上拆出。这一具SB-30亦可以在无线多重闪光操作中用作红外线遥控的控制器，用以控制其他从属闪光灯作闪光。

要尽情发挥您的闪光灯，请在使用前先详细阅读您的相机的使用说明书。

- 由于SB-30的TTL闪光操作与SB-22s的是相同的，因此，假如您的相机使用说明书的闪光摄影部分中并没有列出SB-30，请参阅SB-22s的部分。
- （第XX页）显示要参考的页面。

使用本闪光灯的提示

- 在拍摄重要的场合前，例如婚礼或毕业礼，请先进行试拍。
- 这一具尼康闪光灯SB-30与尼康相机/配件及镜头一并使用时，可以达到最佳的效能。使用其他生产商制造的相机/配件或不能达到尼康的规格标准，而使用不适配的相机/配件更可能会损坏SB-30的零件。当配合非尼康品牌的产品使用时，尼康便不能保证SB-30的效能。

注意

- 尼康N90s、N90、N70、N60、N55、N50、N8008、N8008s、PRONEA 6i、N6006、N6000、N5005、N4004、及N4004s是只在美国出售的型号。
- 尼康N80系列及N65系列只在美国、中美及南美出售。
- 尼康N2020及N2000只在美国及加拿大出售。

目录

预备

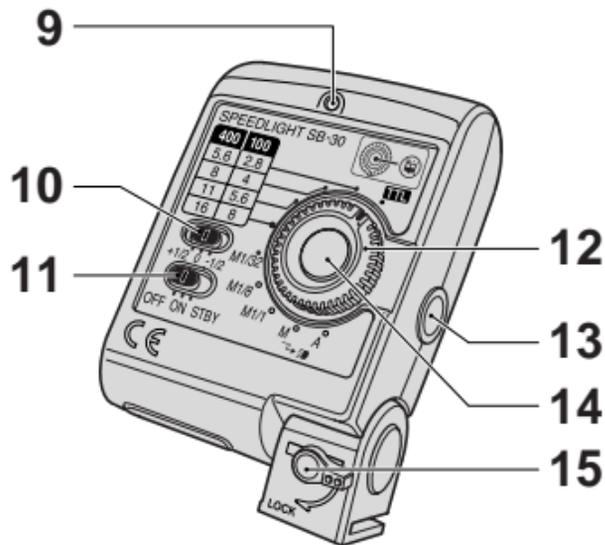
配合单镜反光相机使用SB-30作为随身的闪光灯

使用SB-30及相机例如COOLPIX照明远距的主体

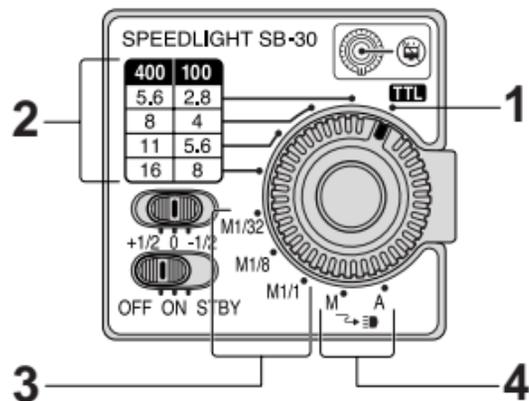
先进操作

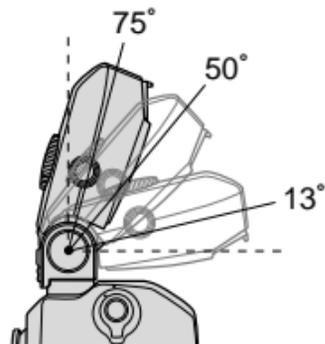
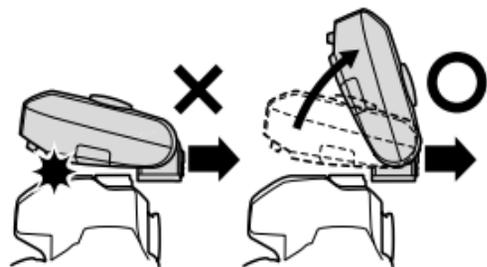
参考资料

闪光灯各部分名称

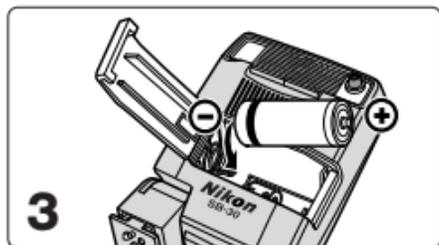
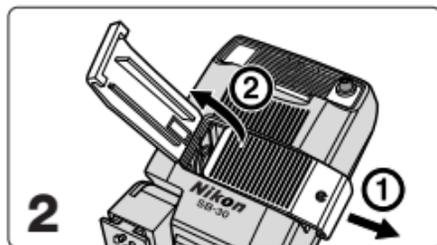
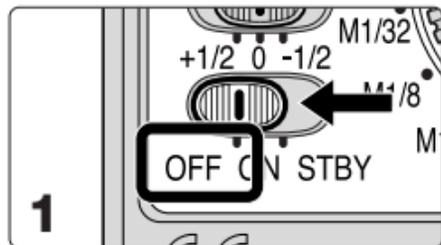
1 闪光灯头
2 红外线滤镜（第97页）
3 接驳脚
4 接驳针
5 热脚触点
6 供非TTL自动闪光（第83页）用的光线感应窗
7 内置广角闪光扩射片（第98页）
8 电池室盖
9 预备灯（第77、83页）
10 曝光补偿掣（第100页）
11 电源开关掣（第77页）
12 模式选择盘（第75页）
13 无线从属闪光用的光线感应窗（第90-96页）
14 备用重新启动按钮（第78页）/从属闪光发射取消按钮（第93页）
15 接驳脚锁杆（第79页）

附同配件

软套SS-30

模式选择盘

1 TTL自动闪光模式（第82、84页）
2 非TTL自动闪光模式（第83、86页）
3 手动闪光模式（第88页）
4 无线从属闪光模式（第90页）

闪光灯头俯仰角度

75°：供拍摄正常主体之用
50°：供拍摄0.4m（1.3英尺）内的主体之用（第99页）
13°：不使用时的位置

注意！
若闪光灯头置于13°的位置时，切勿把闪光灯拆除，否则闪光灯或相机可能会被刮花。

预备

Ck

安装电池

1 把SB-30的电源开关掣设定到关闭的OFF位置。

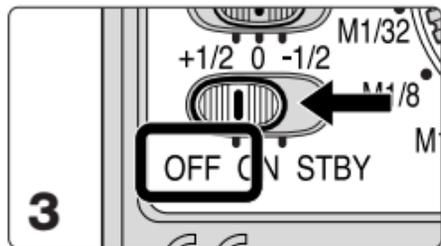
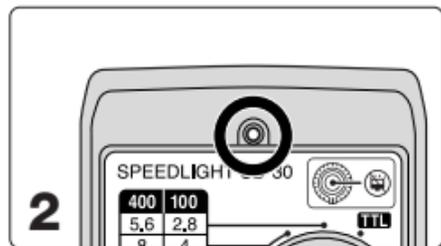
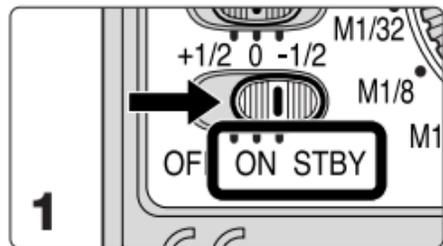
2 按照箭头所指的方向把电池室盖打开。

3 如图示的 + 及 – 极方向安装电池。之后在按下它的同时把它推回原位，以便把电池室盖关好。

- 安装一枚3V锂电（CR123A或DL123A）。请勿使用其他类型的电池。
- 当更换电池的时候，请确保把电源开关掣设定到关上的OFF位置。假如当电池开关掣设定在开启ON或STBY（备用）时更换电池，闪光灯便有可能意外地闪光或电源有可能未能正确地打开。在此情况下，可以把SB-30的电源开关掣设定到关闭的OFF位置，之后再把它设定回开启ON或STBY位置（第77页）。

电池表现

- 当使用新的电池时，如SB-30以M1/1输出闪光，大约可以闪光250次。
- 当安装了新的电池时，SB-30在以M1/1输出后的回电时间大约是4秒。
- 当闪光灯刚打开时或于闪光后，假如预备灯需充电多于30秒才能够亮起，请更换电池。

设定电源开关ON/OFF及备用功能

1 把SB-30的电源开关掣设定到ON或STBY的位置。

・当设定到STBY的位置时，备用功能便会被启动（第78页）。

・没有热靴接触点的COOLPIX数码相机不能配合备用功能工作。在此情况下，把SB-30设定到ON的位置。

2 确定预备灯已亮起。

・当预备灯亮起时，表示SB-30已完全充电及预备闪光。

3 当不使用SB-30时，把它的电源开关设定到OFF的位置。

・当不使用SB-30时请确保把它的电源开关设定到OFF位置，以节省电池能源。

利用备用功能节省电源

- 假如这一具SB-30的电源开关是设定到STBY位置，只有当模式选择盘已设定到TTL自动、非TTL自动、或手动闪光模式时，备用功能才会启动。
- 假如这一具SB-30与相机均有大约40秒没有使用，这一项备用功能便会启动，并自动把SB-30关掉以节省电池能量。这一情况称为备用状态。
- 假如模式选择盘已设定到无线从属闪光模式，备用功能便不能发生功效。请注意电源仍然接通而且一直在耗电。

当SB-30已进入备用状态时要把它再次启动，您可以：

- 按下备用重新启动按钮/从属闪光发射取消按钮。
- 轻按兼容TTL自动闪光模式的相机上的快门释放钮。

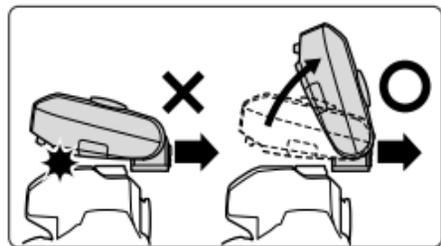
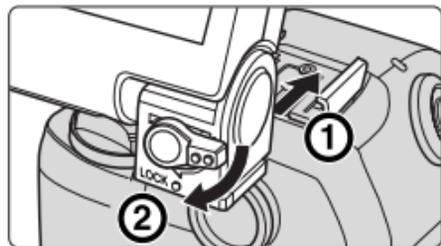
安装到配件插座

安装及拆除闪光灯

把SB-30的接驳脚①推入相机的配件插座，然后按照箭咀的方向旋转锁杆②把闪光灯锁紧。

- 当要把SB-30安装到并没有防止意外松脱的接驳针孔的配件插座时，则请小心勿让SB-30跌出。

- 当要拆除SB-30时，**把闪光灯头设定到上仰75°或50°**，之后把锁杆以反方向转90°使闪光灯的锁解开，之后便可以把闪光灯抽出。

预备

把SB-30安装到有内置闪光灯的相机时的注意事项

当要把SB-30安装到相机的配件插座时，请勿升起相机的内置闪光灯。否则，只有其中之一个闪光灯会发出闪光。可是，这并非一种故障。

可使用的相机及可获得的闪光模式

配合使用菲林的单镜反光相机时可获得的闪光模式

◎：建议闪光模式　○：可使用闪光模式　×：不可使用　—：不适用

	相机类型及型号	连接到相机	模式选择盘的设定：TTL自动	非TTL自动	手动	无线（M）	无线（A）
并没有内置闪光灯	**兼容TTL自动闪光模式** F5、F4系列、F100、F90X/N90s、F90系列/N90、F-801s/N8008s、F-801/N8008、F-601M/N6000、F-501/N2020、F-301/N2000、FM3A、FA、FE2、FG、F3系列[*1]	配件座	◎（第84页）	○	○	—	—
并没有内置闪光灯	**不兼容TTL自动闪光模式的相机** F2[*2]、FM2、New FM2、FE、FG20、EM、FM10、FE10	配件座	×	◎（第86页）	○	—	—
有内置闪光灯	**有配件插座的相机** F80系列/N80系列[*4]、F70系列/N70[*4]、F65系列/N65系列、F60系列/N60、F55/ N55[*3]、F50系列/N50、F-601/N6006、F-401x/N5005、F-401s/N4004s、F-401/N4004、Pronea 600i/6i	配件座	◎（第84页）	○	○	—	—
有内置闪光灯	（同上）	无线	—	—	—	◎（第91页）	◎（第91页）
有内置闪光灯	**没有配件插座的相机** Pronea S	无线	—	—	—	◎（第91页）	◎（第91页）

[*1] 需要附加的TTL闪光灯耦合器AS-17。
[*2] 需要附加的TTL闪光灯耦合器AS-1。
[*3] 当SB-30安装到配件插座时并不能作TTL自动闪光。把闪光模式设定到非TTL自动。
[*4] 当内置的闪光灯用作主体闪光灯时把相机的曝光模式设定到手动。

配合数码相机可获得的闪光模式

◎：建议闪光模式　○：可使用闪光模式　×：不可使用　—：不适用

相机类型及型号	连接到相机	模式选择盘的设定				
		TTL自动	非TTL自动	手动	无线（M）	无线（A）
D1系列[*1]、D100	配件插座	×	◎（第86页）	○	—	—
COOLPIX 5000/5700	配件插座	◎（第84页）	○	○	—	—
COOLPIX 900/910/950/990/995/4500	连线[*2 *3]	◎（第84页）	○	○	—	—
	无线[*4]	—	—	—	◎（第91页）	◎（第91页）
COOLPIX[*5] 700/775/800/880/885/2000/2500/3500/4300	无线[*4]	—	—	—	×	◎（第91页）
COOLPIX 100/300/600[*6]/5000[*7]/5700	无线[*4]	—	—	—	◎（第91页）	◎（第91页）

[*1] 配合SB-30没有D-TTL自动闪光模式
[*2] COOLPIX 900除外
[*3] 建议使用多重闪光托架套件SK-E900
[*4] 建议使用托架套件SK-9

[*5] 内置闪光灯会在正式闪光前先发出一下预闪光以达致正确的闪光输出
[*6] 需要专供COOLPIX 600使用的闪光灯
[*7] 在“防红眼自动闪光”设定时，无法使用无线（M）模式，请改换使用无线（A）模式。

自动闪光模式

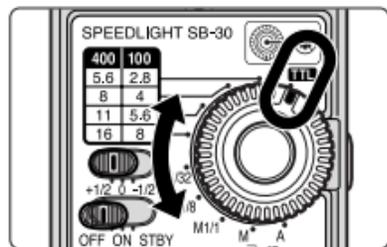
这一具SB-30备有两种自动闪光模式：TTL自动闪光及非TTL自动闪光

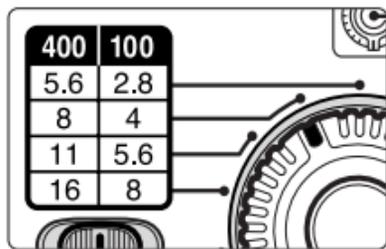
TTL自动闪光模式

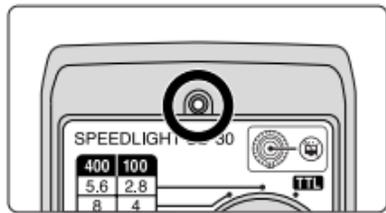
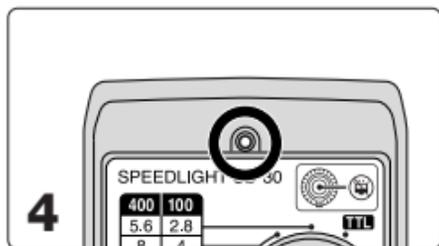
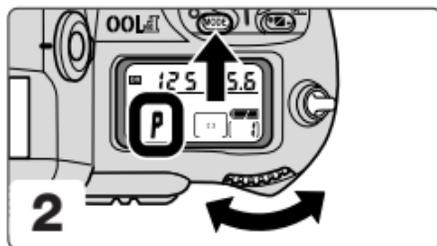
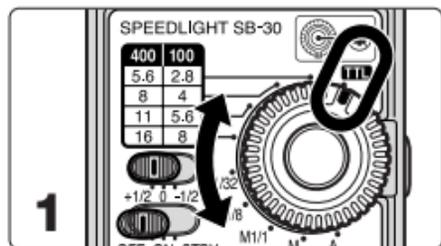
这一个模式可以配合兼容TTL自动闪光的单镜反光相机。在快门释放的同一时间，SB-30会开始发出闪光。相机的内置TTL自动闪光感应器会以透过镜头的方式量度由主体反射的光线，并调节SB-30的闪光输出以提供正确曝光。

关于可以配合使用的相机，请参阅「可使用的相机及可获得的闪光模式」(第80页)。

视乎所使用的相机及镜头，可以获得的TTL自动闪光模式例如多重感应均衡补充闪光、矩阵均衡补充闪光、偏重中央补充闪光/重点补充闪光，或标准TTL闪光。有关详情，请参阅您的相机的使用说明书。

- 并不可作3D多重感应均衡补充闪光，因为这一具SB-30并不会发出连串的预闪光（监察预闪）。
- 这一具SB-30不能提供D-TTL自动闪光模式。

非TTL自动闪光模式

这一个模式可以配合所有尼康单镜反光相机包括数码单镜反光相机。在快门释放的一刹那及SB-30开始闪光时，SB-30内供非TTL自动闪光的内置光线测量器会量度由主体反射而来的闪光照明，并自动控制SB-30的闪光输出，以提供正确的曝光。因此，可以配合不兼容TTL自动闪光的相机作自动闪光拍摄。可以运用的四级拍摄光圈：在ISO 100时有f/2.8、f/4、f/5.6及f/8，而在ISO 400时则有f/5.6、f/8、f/11及f/16。

于各自动闪光模式中的闪光光线不足够警告

当此闪光灯以最高的输出发出闪光或有可能曝光不足时，其预备灯便会闪烁大约1.5秒。要作出补救，请使用较大的光圈或向主体靠近，然后重拍。

于TTL自动闪光模式拍摄闪光照片

1 把SB-30的模式选择盘设定到TTL。

2 设定相机的曝光模式、测光系统、同步模式及快门速度等。

・相机取景器内的预备灯闪烁是向您提醒相机的设定并不正确，使TTL自动闪光没法工作。在此情况下，请确定相机的各项设定均已正确。

3 检查光圈及闪光拍摄距离范围。

・参阅「决定光圈及闪光拍摄距离范围」图表（第85页）确认主体是于这范围内。

・假如相机的曝光模式设定到光圈先决自动（A）或手动（M），在相机上设定其中一个由相机上的图表获得的适当光圈。

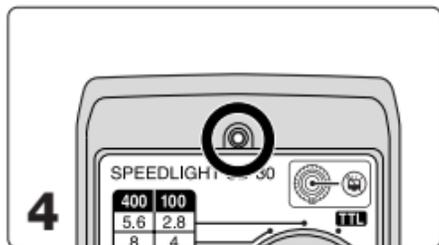
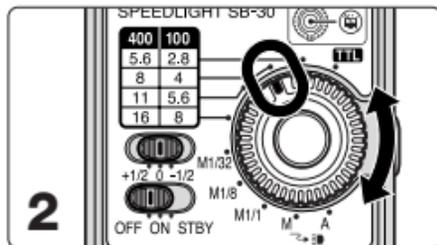
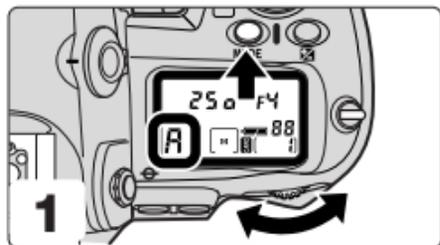
4 确定SB-30的预备灯已亮起，之后拍摄。

・假如在相机的取景器内的预备灯在拍摄后闪烁，请参阅第83页。

决定光圈及闪光拍摄距离范围（米/英尺）

	ISO感光度						闪光拍摄距离范围（米/英尺）		
	25	50	100	200	400	800	没有安装广角闪光扩射片	安装了广角闪光扩射片	
	—	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	1–8/3.3–26	0.7–5/2.3–16	TTL自动闪光
非TTL自动闪光	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	0.7–5.6/2.3–18	0.5–3.5/1.6–11	
	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	0.6–4/2–13	0.3–2.5/1–8.2	
	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16	0.6–2.8/2–9.1	0.3–1.7/1–5.5	
	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16	f/22	0.6–2/2–6.5	0.3–1.2/1–3.9	
	f/5.6	f/8	f/11	f/16	f/22	f/32	0.6–1.4/2–4.5	0.3–0.8/1–2.6	
	f/8	f/11	f/16	f/22	f/32	—	0.6–1/2–3.2	0.3–0.6/1–1.9	

- 于ISO感光度100（200），在非TTL自动闪光模式中可以使用的拍摄光圈是：f/2.8、f/4、f/5.6及f/8（f/4、f/5.6、f/8及f/11）。
- 于ISO感光度100（400），在TTL自动闪光模式中可以使用的拍摄光圈是：由f/2到f/16（f/4到f/32）。
- 当拍摄的主体近至大约1米（3.3英尺）时，建议使用内置的广角闪光扩射片（第98页）。
- 当拍摄近于大约0.4米（1.3英尺）的主体时，把闪光灯头设定到50°的位置（第75页）。

于非TTL自动闪光模式中拍摄闪光照片

1 设定相机的曝光模式、同步模式及快门速度等。

- 使用FM3A、New FM2及FE时，在相机的取景器内闪动的预备灯是提示您相机的快门速度并没有正确设定。在此情况下，确定相机的设定是正确的。

2 按照“决定光圈及闪光拍摄距离范围”图表（第85页）决定正确光圈以配合拍摄距离范围。在SB-30的模式选择盘上设定相同的光圈。

- 关于可获得的光圈，请参阅“决定光圈及闪光拍摄距离范围”图表（第85页）

3 在相机或镜头上设定与SB-30相同的光圈。

- 否则，不可以获得正确的曝光。
- 当使用拥有可变光圈的变焦镜头时，请参阅“于远近变焦后的光圈改变”（第87页）后才设定光圈。

4 确定SB-30的预备灯已亮起后才拍摄。

- 假如在相机取景器内的预备灯于拍摄后闪烁，请参阅第83页。

于变焦远近后的光圈改变

・ 使用拥有可变光圈的变焦镜头，请在设定SB-30的光圈时注意以下要点。
・ 有关详情，请参阅您的相机及镜头的使用说明书。

在相机的LCD屏或于取景器内读取光圈

・ 把镜头的光圈锁定到其最细小，并于变焦远近作构图之后，在相机的LCD屏或在取景器内读取所出现的光圈。

使用镜头上的尺度读出光圈

・ 于远近变焦选择出适合的构图后，用以下的方式读出光圈：
于广角变焦设定，以绿色指示（或线）读取光圈值。
于远摄设定，以黄色指示（或点）读取光圈值。
于中间设定，以两个指示间读取光圈。

手动闪光模式

这一具SB-30的闪光输出水平可以手动地设定到M1/1、M1/8或M1/32。在手动模式之中，您必需综合闪光指数、拍摄距离及镜头光圈以计算出正确的曝光。

・假如相机的曝光模式设定到光圈先决自动（A）或手动（M）以外的模式，快门则有可能无法打开，此点会视乎不同的相机而定。

闪光指数（米/英尺）及ISO感光度

ISO感光度		25	50	100	200	400	800	1600
闪光输出水平	M1/1	8/26	11/36	16/52	22/72	32/105	45/148	64/210
	M1/8	2.8/9	4/13	5.6/18	8/26	11/36	16/52	22/72
	M1/32	1.4/4.6	2/6.6	2.8/9.2	4/13	5.6/18	8/26	11/36
闪光输出水平（安装了广角闪光扩射片）	M1/1	5/16	7.1/23	10/33	14/46	20/66	28/92	40/131
	M1/8	1.8/5.9	2.5/8.2	3.5/11	5/16	7.1/23	10/33	14/46
	M1/32	0.9/3	1.3/4.3	1.8/5.9	2.5/8.2	3.5/11	5/16	7.1/23

・要获得正确的曝光，可以使用以下的方程式计算出光圈及闪光指数以配合闪光拍摄距离

　　f/值（光圈）＝闪光指数（GN）÷拍摄距离（米/英尺）

　　闪光指数（GN）＝光圈X拍摄距离（米/英尺）

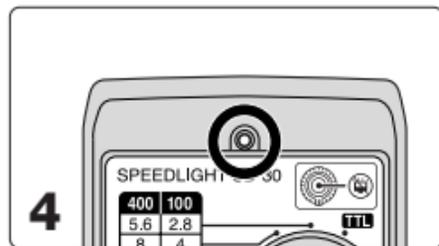
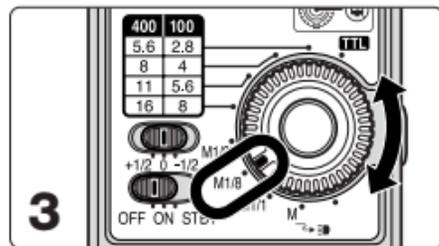
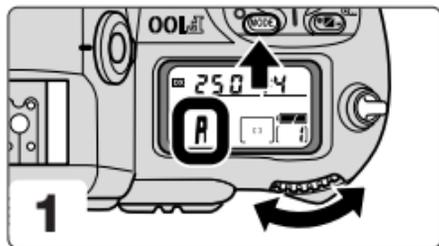
・举例说，当拍摄的主体位于2.5米（8.2英尺）的距离，ISO感光度为400，以及镜头的光圈是f/2.8时：

　　闪光指数＝2.8 × 2.5＝7（以米计算）或2.8 × 8.2＝大约23（以英尺计）

　因此M 1/8是当安装了广角闪光扩射片时的正确闪光输出

・又例如，当拍摄的主体位于4米（13英尺）的距离，ISO感光度为400，M1/1闪光输出，并没有使用广角闪光扩射片：

　　f/值＝32 ÷ 4 ÷ 8（以米计算）或105 ÷ 13＝大约8（以英尺计）。因此，f/8是正确的镜头光圈。

于手动闪光模式拍摄闪光照片

1 **设定相机的曝光模式、同步模式、快门速度等。**

2 **决定光圈及闪光输出水平以配合闪光拍摄距离。**

・正如第88页的闪光指数图表所示，闪光指数是可变化的，视乎闪光的输出水平及是否安装了广角闪光扩射片。

3 **在相机或镜头上设定光圈及在SB-30上设定闪光输出水平。**

4 **确定SB-30的预备灯已亮起，然后拍摄。**

・于手动闪光模式，在拍摄后预备灯并不会闪烁作为光线有可能不足够作正确曝光的提示。

无线从属闪光拍摄

在此情况下，SB-30会用作从属闪光灯，与安装在相机上的主体闪光灯或其内置闪光灯同步发出及停止闪光。使用这一具SB-30，可以提供以下类型的无线从属闪光拍摄。

・ 假如模式选择盘被设定到无线从属闪光模式，则备用功能便不可以工作。
注意电源仍然接通及正在耗电。

使用有内置闪光灯的相机例如COOLPIX拍摄远距离的主体（第92页）
把相机及这一具SB-30并排摆放，并使SB-30与内置闪光灯同步发出闪光，您便可以照明远处的主体，可以拍摄出只利用内置闪光灯本身不能拍摄到的照片。

使用SB-30作为从属闪光灯作离机使用（第94页）
在多重闪光中，若以离机方式使用SB-30，您可以创造出更为自然的照片，使整张照片均有充份照明。

以主体闪光灯把墙上造成的阴影柔化或把背景照明（第96页）
使用SB-30作全光（M1/1）输出，您可以把碍眼的阴影消除，或把背景照明，以拍摄出自然的照片。

利用红外线遥远控制器作多重闪光操作（第97页）。
当安装了红外线滤镜后，SB-30便可以用作红外线遥远控制器，用以引发其他从属闪光灯。

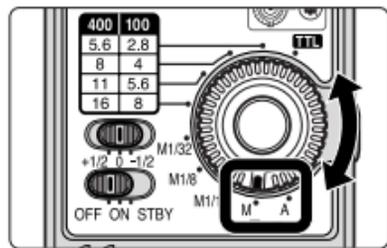
无线从属闪光拍摄的两种方法

利用模式选择盘的设定可以作两种无线从属闪光的操作：

（1）自动无线从属闪光（A）模式：

- SB-30会与主体闪光灯同步地开始及停止发出闪光。
- SB-30的光线感应器的最远拍摄距离大约是5米（16英尺）。

（2）手动无线从属闪光（M）模式：

- 这一具SB-30只可以用M 1/1输出与主体闪光灯同步。
- 这一具SB-30的光线测量器的最远距离大约是40米（131英尺）。

注意

- 摆放这一具从属闪光灯（SB-30）时要注意主体闪光灯的光线需要可以到达从属闪光灯的光线感应器。当您以手持从属闪光灯拍摄时此点尤为重要。
- 假如主体闪光灯射出一连串预闪光（监察预闪）便不能达致正确的曝光。利用以下所载的方法取消主体闪光灯的监察预闪。此点为必须的步骤，但由于COOLPIX的预闪光不会影响正确曝光，故此得以例外。

F80系列/N80系列、F70系列/N70	把相机的曝光模式设定到手动（M）
F5、F100、F90X/N90s、F90系列/N90	取消安装在相机上的闪光灯的监察预闪光。
D1系列	把安装在相机上的闪光灯的闪光模式设定到非TTL自动或手动。

使用SB-30与有内置闪光灯的相机例如COOLPIX一起拍摄远距的主体

把相机及这一具SB-30并排摆放，并使SB-30与内置闪光灯同步发出闪光，您便可以照明远处的主体，可以拍摄出只利用内置闪光灯本身不能拍摄到的照片。把SB-30的模式选择盘设定到无线从属闪光（A）模式以执行自动闪光。

- COOLPIX 900、COOLPIX 700系列、COOLPIX 800系列及COOLPIX 2500相机均只会发出一次预闪，故均可以使用。
- Pronea S并没有配件插座，而F55/N55的配件座并没有TTL自动闪光功能，但仍可以配合SB-30作TTL自动闪光。
- 当安装SB-30到例如COOLPIX 700系列、COOLPIX 800系列，可使用另外选购的托架套件SK-9，请参阅SK-9使用说明书。

以COOLPIX拍摄闪光照片

1 正如配合正常的闪光灯在相机上作出必需的设定。

2 把SB-30的模式选择盘设定到无线从属闪光（A）。

・于无线从属闪光拍摄之中，并不可以使用SB-30的曝光补偿掣作曝光补偿。在此情况下，在相机上作曝光补偿。

3 检查光圈及闪光拍摄距离，然后拍摄。

・按下备用重新启动按钮/从属闪光发射取消按钮以避免因与其他闪光灯同步意外闪光。当这一个掣按下时，SB-30将不会闪光。

使用菲林单镜反光相机拍摄闪光照片

1 设定主体闪光灯，以及相机内置闪光灯或安装在相机上的闪灯来闪光。

・请确定把主体闪光灯的监察预闪取消（第91页）。

2 把SB-30用作为从属闪光灯并设定到无线从属闪光（A）模式。

・于无线从属闪光拍摄时，使用SB-30的曝光补偿掣作曝光补偿是不可能的，在此情况，请在相机上作曝光补偿。

3 检查光圈及闪光拍摄距离，之后拍摄。

・按下备用重新启动按钮/从属闪光发射取消按钮以避免因与其他闪光灯同步意外闪光。当这一个掣按下时，SB-30将不会闪光。

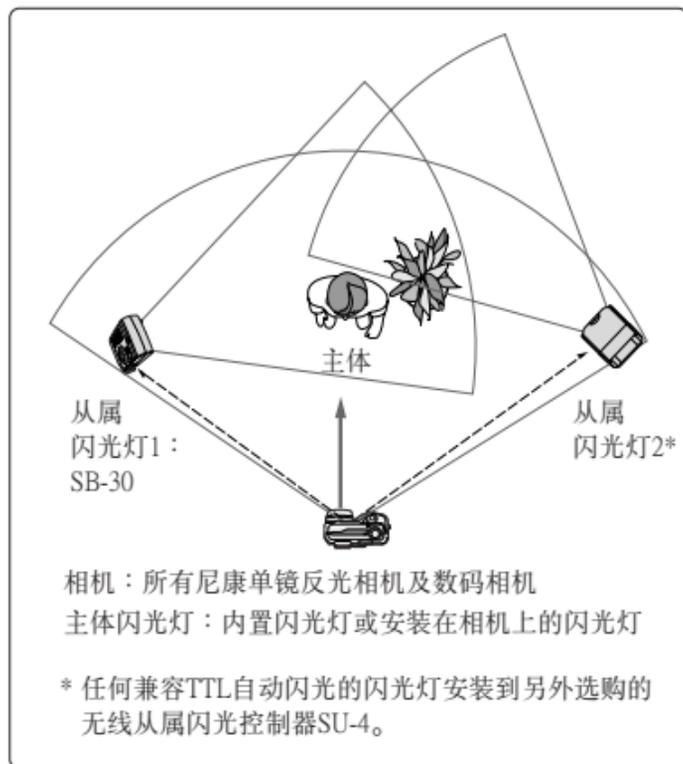
以与相机分开的SB-30拍摄主体

当SB-30置于离开相机的位置以提供多重闪光，您可以拍摄有足够照明的更自然的照片。于TTL自动或非TTL自动闪光模式中把SB-30的模式选择盘设定到无线从属闪光（**A**）以提供无线多重闪光操作。

- COOLPIX 900、COOLPIX 700系列、COOLPIX 800系列及COOLPIX 2500相机只会发出一次预闪光，故均可以使用。
- 备有无线多重闪光功能的闪光灯，例如SB-30、SB-80DX、SB-50DX等均可以用作从属闪光灯。此外，任何其他闪光灯若可以兼容TTL自动闪光，当安装了另外选购的无线从属闪光控制器SU-4时，亦可以使用。
- 于无线从属闪光（**A**）模式中，SB-30的光线感应器的最远拍摄距离大约是5米（16英尺）。
- 把从属闪光灯置于只有主体闪光灯的光线可以到达其光线感应器的地方。假如有太多其他从属闪光灯的光线直接或间接进入从属闪光灯的光线感应器，便有可能无法进行正确的操作。

相机：所有尼康单镜反光相机及数码相机

主体闪光灯：内置闪光灯或安装在相机上的闪光灯

* 任何兼容TTL自动闪光的闪光灯安装到另外选购的无线从属闪光控制器SU-4。

拍摄闪光照片

1 **如配合正常闪光灯般在相机上进行的必需的设定。**

2 **把SB-30的模式选择盘设定到无线从属闪光（A）。**

- 于无线从属闪光拍摄中，不能利用SB-30曝光补偿掣进行曝光补偿。在此情况下，可在相机上进行曝光补偿。

3 **把主体闪光灯的闪光模式设定到TTL自动闪光。**

- 请确保取消主体闪光灯的监察预闪（第91页）。
- 假如监察预闪不能够取消，可把闪光模式设定到TTL自动闪光模式以外的其他闪光模式。
- SB-30没有D-TTL自动闪光模式。当配合数码单镜反光相机时，把闪光模式设定到非TTL自动闪光或自动光圈闪光。

4 **检查光圈及闪光拍摄距离，然后拍摄。**

利用主体闪光灯柔化在墙上的阴影或把背景照明

把SB-30的模式选择盘设定到无线从属闪灯（**M**），而闪光灯会以M1/1的输出发出闪光，可以让您把阴影消除或把背景照亮，以便拍摄出看来更自然的照片。

・ 主体闪光灯的光线感应器的最远拍摄距离大约是40米（131英尺）。

相机：所有单镜反光相机

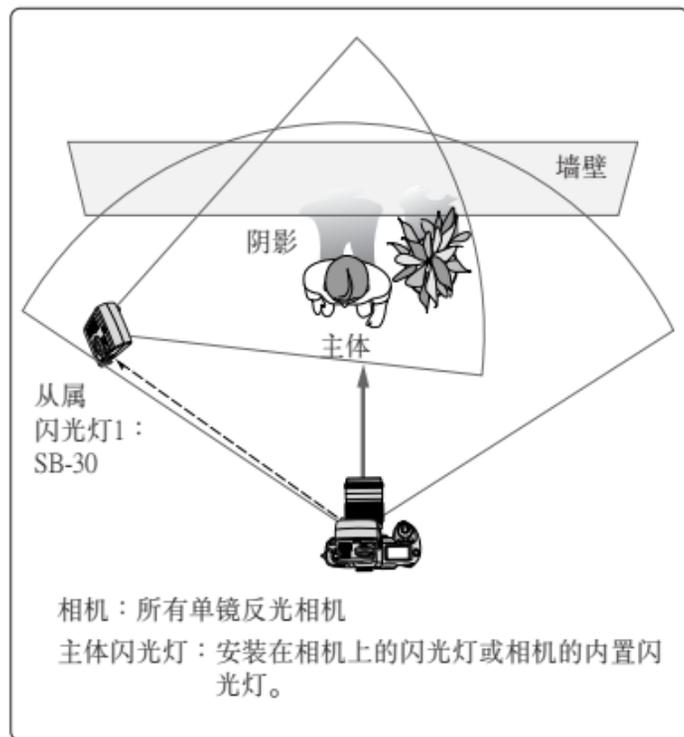
主体闪光灯：安装在相机上的闪光灯或相机的内置闪光灯。

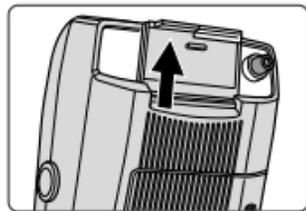
拍摄闪光照片

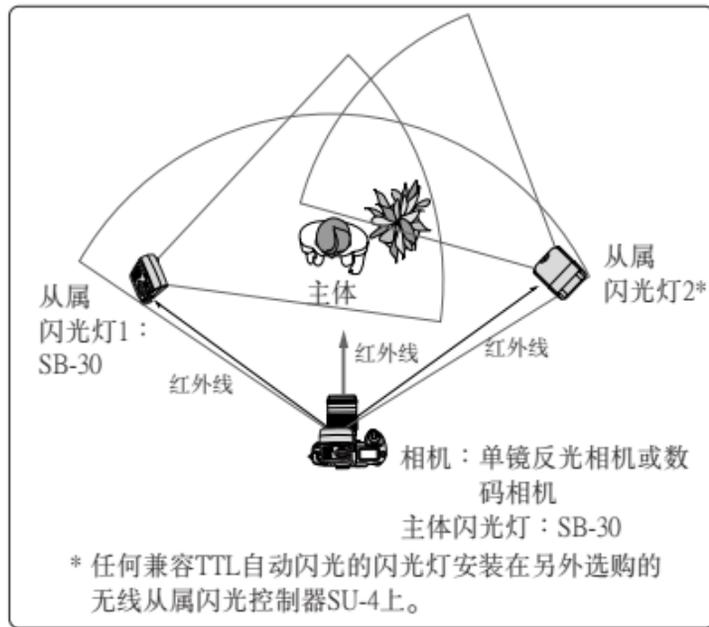
1 把SB-30用作从属闪光灯并把它设定到无线从属闪光（M）模式。

2 利用闪光灯到主体间的距离及设定在相机或镜头上的光圈，决定正确的曝光，然后拍摄。

・ 请参阅第88页的“手动闪光模式”。

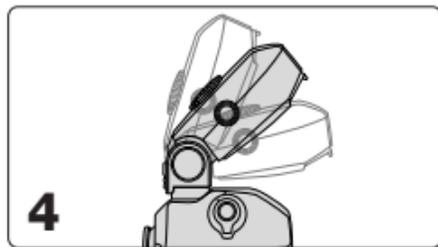
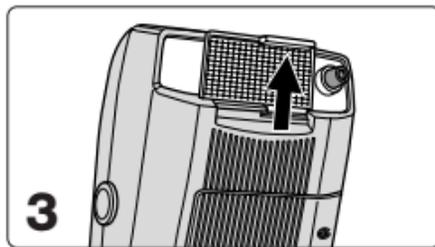
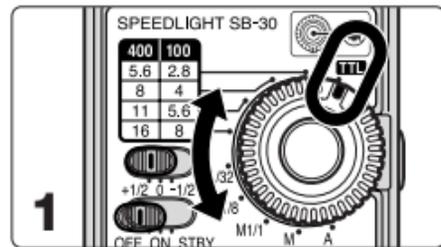
・ 要消除例如投射在墙壁上的阴影，可使用相当于拍摄墙壁上的照明度的两级或以上的曝光过度。

利用SB-30作红外线遥远控制器作多重闪光操作

当安装了内置的红外线滤镜，您可以把SB-30用作红外线遥远控制器以执行无线多重闪光，只是利用从属闪光灯照明主体而并没有使用主体闪光灯作照明。

- 把闪光模式设定到TTL自动闪光；不建议使用非TTL自动闪光。
- 红外线滤镜可以和广角闪光扩射片一并使用。
- 虽然在红外线滤镜的两旁会有闪光溢出，但此举不会影响正确的曝光。
- 假如没有使用这红外线滤镜，主体闪光灯便会如正常闪光灯般工作，而主体亦会被此闪光灯所照明。

* 任何兼容TTL自动闪光的闪光灯安装在另外选购的无线从属闪光控制器SU-4上。

利用连线作多重闪光操作

与其他兼容TTL自动闪光模式的闪光灯一样，这一具SB-30亦都可以利用另外选购的TTL遥控线SC-17/SC-24、TTL多重闪光同步线SC-18/SC-19或TTL多重闪光适配器AS-10作TTL多重闪光。有关详情，请参阅您的相机或配件的使用说明书或有关产品小册子。

利用内置广角闪光扩射片进行大约0.3到1米（1到3.3英尺）的近距闪光摄影

把SB-30安装到相机的配件插座，便可以进行近距闪光拍摄。
・ 当拍摄近距闪光照片时，请紧记要使用内置的广角闪光扩射片。
・ 当使用大直径的镜头或遮光罩等作近距闪光拍摄时，有可能出现晕影现象。

1 把SB-30的模式选择盘设定到TTL。
- 如使用不兼容TTL自动闪光模式的闪光灯，把选择盘设定到非TTL自动闪光或手动闪光模式。

2 设定相机的曝光模式、测光系统、同步模式，及快门速度等。
- 在相机取景器内的预备灯会闪烁提示您相机的设定并不正确，使TTL自动闪光无法进行。在此情况下，请检查相机的各项设定。

3 把广角闪光扩射片抽出并设定到位。
- 小心黑色的红外线滤片并没有在闪光扩射片前造成障碍。

4 当进行少于大约0.4米（1.3英尺）的近摄时，把闪光灯头俯低。

・ 当拍摄距离少于0.4米（1.3英尺）的主体时，把闪光灯头俯低到50°的位置以便作有效的照明。

5 利用“决定光圈及闪光拍摄距离范围（米/英尺）”（第85页）以决定正确的光圈，以及在相机上设定相同的光圈。

・ 于非TTL自动闪光模式中，亦要在SB-30的模式选择盘上设定相同的光圈。

6 检查SB-30的预备灯已亮起，然后拍摄。

・ 假如在相机取景器内的预备灯于拍摄后闪烁，请参阅第83页。

内置广角闪光扩射片

・ 内置广角闪光扩射片亦可以在近距闪光拍摄以外的情况下使用。
・ SB-30的涵盖角度可以配合28mm镜头，利用内置广角闪光扩射片更可以把涵盖角度扩阔到配合17mm镜头，但闪光指数则会由16/52降低到10/33（ISO 100米/英尺）。
・ 当安装了内置广角闪光扩射片使用17mm镜头时，相机与主体间的距离由画面的中央到边缘便有极大的差异，因此，在某些情况下边缘的位置便会有照明不足的情况。

曝光补偿

当SB-30的模式选择盘设定到非TTL自动，M 1/32，或M 1/8时，便可以利用曝光补偿掣调节SB-30的输出。
把曝光补偿掣设定到+1/2的位置可以使主体更明亮，而设定到-1/2则会使主体暗一些。
当配合COOLPIX相机使用时，您可以在显示屏上监看影像的光度以设定闪光的输出，然后再次拍摄。

曝光补偿掣

+1/2： 增加闪光灯的输出到+1/2 EV以使主体更明亮
0： 并没有补偿。当曝光无需作补偿时，把此掣设定到零（0）
-1/2： 减低闪光灯的输出到-1/2 EV以使主体暗一些

・ 假如模式选择盘设定到TTL自动闪光，M1/1或无线从属模式，便不可以使用此掣作曝光补偿。

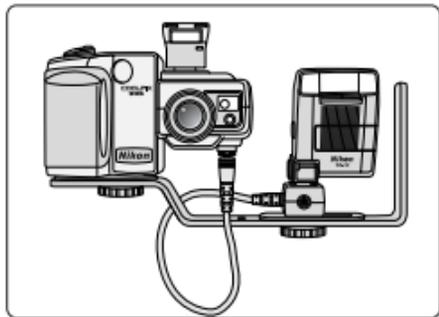
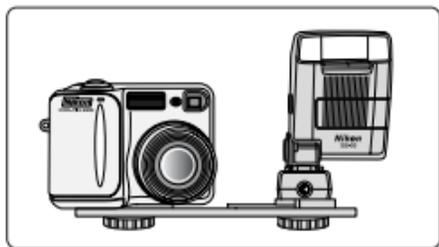
另购配件

托架套件 SK-9

这一个SK-9可以让COOLPIX（COOLPIX 700系列、800系列及900系列）或各款单镜反光相机与SB-30并排安装在一起。这一个托架套件包括托架SK-9、TTL多重闪光适配器AS-18，以及同步线SC-25以便把COOLPIX 900以外的各款COOLPIX 900系列相机连接到AS-18。

多重闪光托架 SK-E900/多重闪光适配器 AS-E900

把COOLPIX安装到多重闪光托架SK-E900并利用多重闪光适配器AS-E900把SB-30连接到COOLPIX的多重闪光终端，则SB-30便可以用于尼康COOLPIX 900系列相机作为从属闪光灯。

SK-E900包括了一个AS-E900多重闪光适配器。

疑难排解

在您把您的闪光灯送往尼康服务中心修理前，请先阅读下表找出引致问题的原因。

问题	可能的原因	参考/补救
预备灯没有亮起	当电源开关掣设定到ON或者STBY的位置时更换电池	安装电池（第76页）
	电池没有正确地安装	安装电池（第76页）
	电池微弱	安装电池（第76页）
	备用功能正在启动及正在操作	调校电源开关及备用功能（第77页）
	电池终端或SB-30的电池触点不清洁	把终端或触点清洁
于发出闪光后预备灯闪烁约1.5秒	拍摄距离超出了可获的闪光拍摄距离范围	确认光圈及闪光拍摄距离范围（米/英尺）（第85页）
预备灯需要较长时间才亮起	电池微弱	安装电池（第76页）
	由于连续闪光使电池发热	等候SB-30冷却
虽然预备灯已亮起，但快门不能释放	模式选择盘设定到非TTL自动或手动，而相机的曝光模式设定到程式自动或快门先决自动	非TTL自动闪光模式（第86页） 手动闪光模式（第88页）

闪光灯护理提示及电池注意事项

清洁

・ 使用气泵扫来清除SB-30上的污垢及尘埃，并使用柔软、洁净的布来抹拭。于接近咸水的地方使用SB-30之后，使用轻微沾了清水、柔软和洁净的布来轻轻抹拭，然后再用干布把它抹干。

贮存

・ 把SB-30贮存于阴凉、干燥的地方，以防止因湿度高而引致故障，并可以防止发霉或结露。
・ 把SB-30贮藏于远离化学物品的地方，例如臭丸或樟脑。
・ 不应把SB-30存放于高温的地方或在高温的地方使用，例如暖炉和[illegible]炉，因为此举会导致闪光灯损坏。
・ 若有多于两个星期不使用SB-30，请确保把它贮藏之前先行把电池移去，以免因电池泄漏液体而导致故障。
・ 应每月把SB-30取出，放入电池并让它闪光数次，使电容器保持状态。

操作地点

・ 突然的温度变化会引致SB-30内部凝结水珠。当把SB-30由非常冷的地方拿到非常热的地方或在相反的情况下，应把它先放入密封的容器内，例如塑胶袋内，待一段时间后才慢慢把SB-30曝露于外间温度中。
・ 避免把SB-30曝露于强烈磁场或来自电视或高压输电塔的辐射，因为此举会导致它出现故障。
・ 当SB-30的闪光模式设定到无线从属闪光时，这一具闪光灯便有可能在有闪烁萤光管的环境中意外地发出闪光。

安装一枚3V锂电池（CR123A或DL123A）

・ 当拍摄重要项目时，应先行更换电池，或带备额外的电池。
・ 假如电池的电极受污了，或被您的手油所弄污，请使用干布清洁电极，受污的电极会引致接触不良。

于低温下使用新的电池

・ 当在低温下使用已消耗的电池，SB-30有可能无法正常操作。
・ 当温度下降时电池能量会减弱，使回电的时间增加，并减少可以闪光的数目。当温度回升到正常时，电池能量便会恢复。
・ 当低温时，使用新的电池，或保持后备电池温暖及使用它们。

规格

电子结构：
自动绝缘闸二极晶体管（IGBT）及串联电路

电池：
一枚3V锂电池（CR123A或DL123A）

闪光指数（ISO 100，米/英尺）：
于28mm的涵盖角度时为16/52（没有使用广角闪光扩射片）
于17mm的涵盖角度时为10/33（使用了广角闪光扩射片）

涵盖角度：
涵盖28mm镜头的画面角度（并没有安装广角闪光扩射片）
涵盖17mm镜头的画面角度（安装了广角闪光扩射片）

电源开关：
提供（关/开/备用）三个位置：OFF/ON/STBY
ON/STBY位置：电源接通
STBY：当闪光灯闲置约40秒的时候，SB-30便会自动关掉以节省电池

回电时间及闪光数目：
最短回电时间：大约4秒（当使用全新电池并以M1/1输出闪光）
闪光数目：大约250次（当使用全新电池并以M1/1输出闪光）

模式选择盘：
共有四档：TTL自动闪光，非TTL自动闪光（4级），手动闪光（3级），无线从属闪光（A或M）

预备灯：
当SB-30回电完成并预备闪光时便会亮起。当它以全光输出便会闪烁，显示闪光的光线可能并不足够（于TTL自动闪光及非TTL自动闪光模式）。当相机在TTL自动闪光模式的设定并不正确时，在相机的取景器内的预备灯便会闪动。

备用重新启动按钮/从属闪光发射取消按钮：
当SB-30进入备用状态后把它重新启动。防止SB-30在从属闪光操作时意外地发出闪光。

闪光时间
于M1/1输出时为1/2800秒

体积（阔×高×厚）
大约58.5×83.5×36mm（2.3×3.3×1.4英寸）

重量（不连电池）
大约92克（3.2安士）

所有表现数据及规格以在常温（20℃/68℉）下使用全新的电池为准。规格及设计如有变更恕不另行通知

前言

多謝閣下購買這一具尼康閃光燈SB-30。
這一具SB-30是小巧、輕盈、以及多功能的閃光燈，閃光指數為GN 16/52（於28mm涵蓋角度，ISO 100，米/英呎，20℃/68˚F）。它擁有多種閃光模式，包括TTL自動閃光，非TTL自動閃光、以及手動閃光。此外，它亦可以用作無線多重閃光操作。

SB-30的主要特點

・這一具SB-30是十分有用的隨身閃光燈，當您使用沒有內置閃光燈的尼康單鏡反光相機時，它可以隨時為您提供TTL自動、非TTL自動，以及手動閃光。
・當配合有內置閃光燈的COOLPIX或尼康單鏡反光相機時，SB-30可以用作從屬閃光燈作無線或連線的多重閃光操作之用。
・當要進行近距閃光攝影時，它的閃光燈頭可以向下俯低而不需要把閃光燈由相機上拆出。這一具SB-30亦可以在無線多重閃光操作中用作紅外線遙控的控制器，用以控制其他從屬閃光燈作閃光。

要盡情發揮您的閃光燈，請在使用前先詳細閱讀您的相機的使用說明書。
・由於SB-30的TTL閃光操作與SB-22s的是相同的，因此，假如您的相機使用說明書的閃光攝影部分中並沒有列出SB-30，請參閱SB-22s的部分。
・（第XX頁）顯示要參考的頁面。

使用本閃光燈的提示

- 在拍攝重要的場合前，例如婚禮或畢業禮，請先進行試拍。
- 這一具尼康閃光燈SB-30與尼康相機/配件及鏡頭一併使用時，可以達到最佳的效能。使用其他生產商製造的相機/配件或不能達到尼康的規格標準，而使用不適配的相機/配件更可能會損壞SB-30的零件。當配合非尼康品牌的產品使用時，尼康便不能保證SB-30的效能。

注意

- 尼康N90s、N90、N70、N60、N55、N50、N8008、N8008s、PRONEA 6i、N6006、N6000、N5005、N4004、及N4004s是只在美國出售的型號。
- 尼康N80系列及N65系列只在美國、中美及南美出售。
- 尼康N2020及N2000只在美國及加拿大出售。

目錄

預備

配合單鏡反光相機使用SB-30作為隨身的閃光燈

使用SB-30及相機例如COOLPIX照明遠距的主體

先進操作

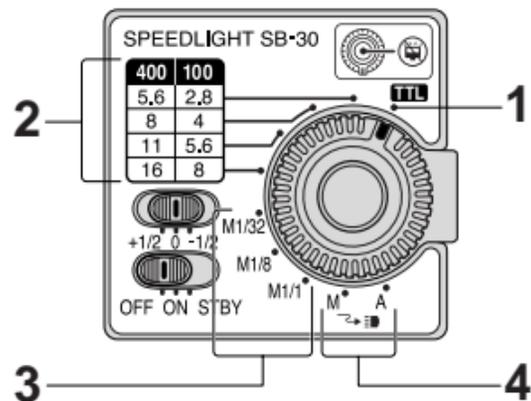
參考資料

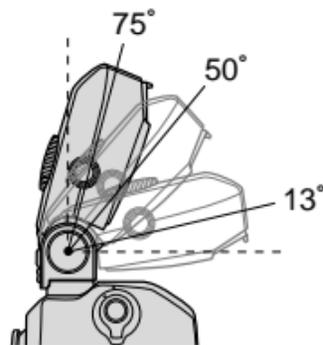
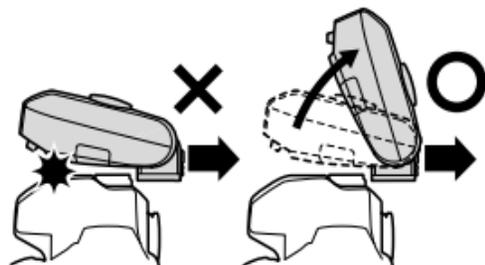
閃光燈各部分名稱

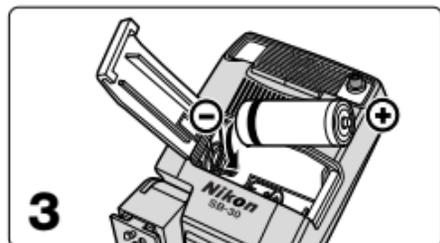
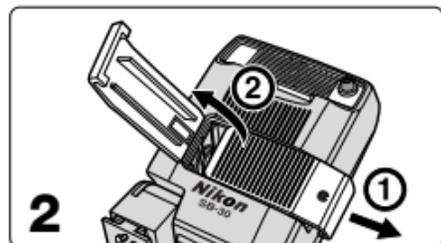
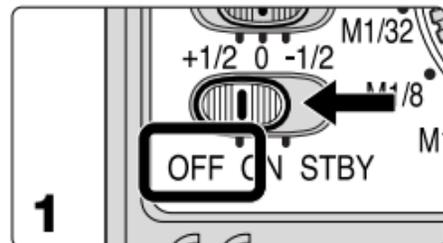
1 閃光燈頭
2 紅外線濾鏡（第131頁）
3 接駁腳
4 接駁針
5 熱腳觸點
6 供非TTL自動閃光（第117頁）用的光線感應窗
7 內置廣角閃光擴射片（第132頁）
8 電池室蓋
9 預備燈（第111、117頁）
10 曝光補償掣（第134頁）
11 電源開關掣（第111頁）
12 模式選擇盤（第109頁）
13 無線從屬閃光用的光線感應窗（第124-130頁）
14 備用重新啟動按鈕（第112頁）/ 從屬閃光發射取消按鈕（第127頁）
15 接駁腳鎖桿（第113頁）

附同配件

軟套SS-30

模式選擇盤

1 TTL自動閃光模式（第116、118頁）
2 非TTL自動閃光模式（第117、120頁）
3 手動閃光模式（第122頁）
4 無線從屬閃光模式（第124頁）

閃光燈頭俯仰角度

75°：供拍攝正常主體之用
50°：供拍攝0.4m（1.3英呎）內的主體之用（第133頁）
13°：不使用時的位置

注意！
若閃光燈頭置於13°的位置時，切勿把閃光燈拆除，否則閃光燈或相機可能會被刮花。

安裝電池

1 把SB-30的電源開關掣設定到關閉的OFF位置。

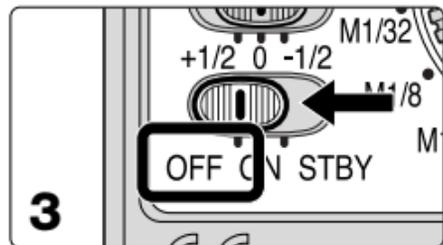
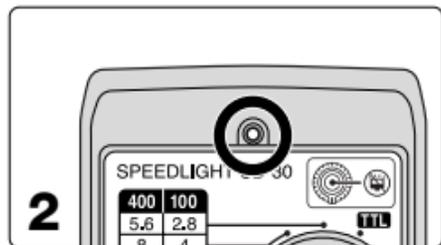
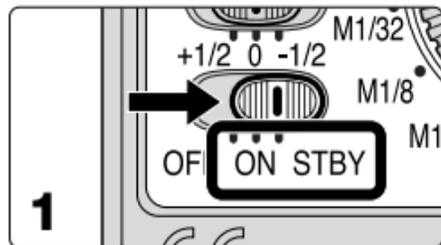
2 按照箭頭所指的方向把電池室蓋打開。

3 如圖示的＋及－極方向安裝電池。之後在按下它的同時把它推回原位，以便把電池室蓋關好。

- 安裝一枚3V鋰電（CR123A或DL123A）。請勿使用其他類型的電池。
- 當更換電池的時候，請確保把電源開關掣設定到關上的OFF位置。假如當電池開關掣設定在開啟ON或STBY（備用）時更換電池，閃光燈便有可能意外地閃光或電源有可能未能正確地打開。在此情況下，可以把SB-30的電源開關掣設定到關閉的OFF位置，之後再把它設定回開啟ON或STBY位置（第111頁）。

電池表現

- 當使用新的電池時，如SB-30以M1/1輸出閃光，大約可以閃光250次。
- 當安裝了新的電池時，SB-30在以M1/1輸出後的回電時間大約是4秒。
- 當閃光燈剛打開時或於閃光後，假如預備燈需充電多於30秒才能夠亮起，請更換電池。

設定電源開關ON/OFF及備用功能

1 把SB-30的電源開關掣設定到ON或STBY的位置。

- 當設定到STBY的位置時，備用功能便會被啟動（第112頁）。
- 沒有熱靴接觸點的COOLPIX數碼相機不能配合備用功能工作。在此情況下，把SB-30設定到ON的位置。

2 確定預備燈已亮起。

- 當預備燈亮起時，表示SB-30已完全充電及預備閃光。

3 當不使用SB-30時，把它的電源開關設定到OFF的位置。

- 當不使用SB-30時請確保把它的電源開關設定到OFF位置，以節省電池能源。

利用備用功能節省電源

- 假如這一具SB-30的電源開關是設定到STBY位置，只有當模式選擇盤已設定到TTL自動、非TTL自動、或手動閃光模式時，備用功能才會啟動。
- 假如這一具SB-30與相機均有大約40秒沒有使用，這一項備用功能便會啟動，並自動把SB-30關掉以節省電池能量。這一情況稱為備用狀態。
- 假如模式選擇盤已設定到無線從屬閃光模式，備用功能便不能發生功效。請注意電源仍然接通而且一直在耗電。

當SB-30已進入備用狀態時要把它再次啟動，您可以：

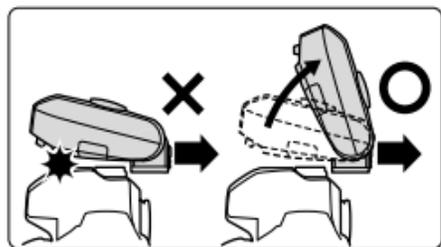
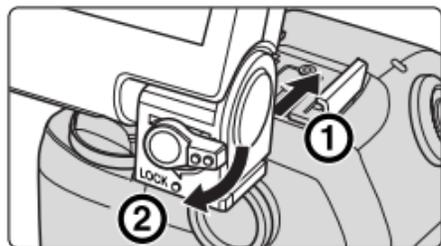
- 按下備用重新啟動按鈕/從屬閃光發射取消按鈕。
- 輕按兼容TTL自動閃光模式的相機上的快門釋放鈕。

安裝到配件插座

安裝及拆除閃光燈

把SB-30的接駁腳①推入相機的配件插座，然後按照箭咀的方向旋轉鎖桿②把閃光燈鎖緊。

・ 當要把SB-30安裝到並沒有防止意外鬆脫的接駁針孔的配件插座時，則請小心勿讓SB-30跌出。

・ 當要拆除SB-30時，**把閃光燈頭設定到上仰75°或50°**，之後把鎖桿以反方向轉90°使閃光燈的鎖解開，之後便可以把閃光燈抽出。

把SB-30安裝到有內置閃光燈的相機時的注意事項

當要把SB-30安裝到相機的配件插座時，請勿升起相機的內置閃光燈。否則，只有其中之一個閃光燈會發出閃光。可是，這並非一種故障。

可使用的相機及可獲得的閃光模式

配合使用菲林的單鏡反光相機時可獲得的閃光模式

◎：建議閃光模式　◯：可使用閃光模式　×：不可使用　—：不適用

相機類型及型號		連接到相機	模式選擇盤的設定				
			TTL自動	非TTL自動	手動	無線（M）	無線（A）
並沒有內置閃光燈	**兼容TTL自動閃光模式** F5、F4系列、F100、F90X/N90s、F90系列/N90、F-801s/N8008s、F-801/N8008、F-601M/N6000、F-501/N2020、F-301/N2000、FM3A、FA、FE2、FG、F3系列[*1]	配件座	◎（第118頁）	◯	◯	—	—
	不兼容TTL自動閃光模式的相機 F2[*2]、FM2、New FM2、FE、FG20、EM、FM10、FE10	配件座	×	◎（第120頁）	◯	—	—
有內置閃光燈	**有配件插座的相機** F80系列/N80系列[*4]、F70系列/N70[*4]、F65系列/N65系列、F60系列/N60、F55/ N55[*3]、F50系列/N50、F-601/N6006、F-401x/N5005、F-401s/N4004s、F-401/N4004、Pronea 600i/6i	配件座	◎（第118頁）	◯	◯	—	—
		無線	—	—	—	◎（第125頁）	◎（第125頁）
	沒有配件插座的相機 Pronea S	無線	—	—	—	◎（第125頁）	◎（第125頁）

[*1] 需要附加的TTL閃光燈耦合器AS-17。

[*2] 需要附加的TTL閃光燈耦合器AS-1。

[*3] 當SB-30安裝到配件插座時並不能作TTL自動閃光。把閃光模式設定到非TTL自動。

[*4] 當內置的閃光燈用作主體閃光燈時把相機的曝光模式設定到手動。

配合數碼相機可獲得的閃光模式

◎：建議閃光模式　◯：可使用閃光模式　×：不可使用　—：不適用

相機類型及型號	連接到相機	模式選擇盤的設定				
		TTL自動	非TTL自動	手動	無線（M）	無線（A）
D1系列[*1]、D100	配件插座	×	◎（第120頁）	◯	—	—
COOLPIX 5000/5700	配件插座	◎（第118頁）	◯	◯	—	—
COOLPIX 900/910/950/990/995/4500	連線[*2] [*3]	◎（第118頁）	◯	◯	—	—
	無線[*4]	—	—	—	◎（第125頁）	◎（第125頁）
COOLPIX[*5] 700/775/800/880/885/2000/2500/3500/4300	無線[*4]	—	—	—	×	◎（第125頁）
COOLPIX 100/300/600[*6]/5000[*7]/5700	無線[*4]	—	—	—	◎（第125頁）	◎（第125頁）

[*1] 配合SB-30沒有D-TTL自動閃光模式
[*2] COOLPIX 900除外
[*3] 建議使用多重閃光托架套件SK-E900
[*4] 建議使用托架套件SK-9

[*5] 內置閃光燈會在正式閃光前先發出一下預閃光以達致正確的閃光輸出
[*6] 需要專供COOLPIX 600使用的閃光燈
[*7] 在“防紅眼自動閃光”設定時，無法使用無線（M）模式，請改換使用無線（A）模式。

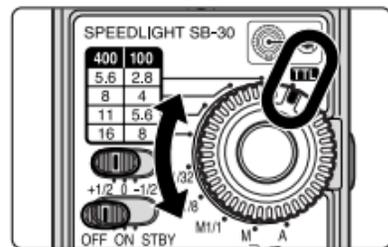
自動閃光模式

這一具SB-30備有兩種自動閃光模式：TTL自動閃光及非TTL自動閃光

TTL自動閃光模式

這一個模式可以配合兼容TTL自動閃光的單鏡反光相機。在快門釋放的同一時間，SB-30會開始發出閃光。相機的內置TTL自動閃光感應器會以透過鏡頭的方式量度由主體反射的光線，並調節SB-30的閃光輸出以提供正確曝光。

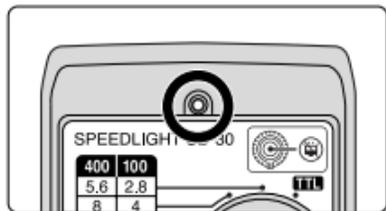
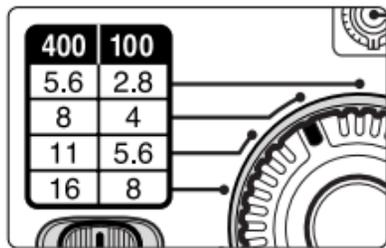
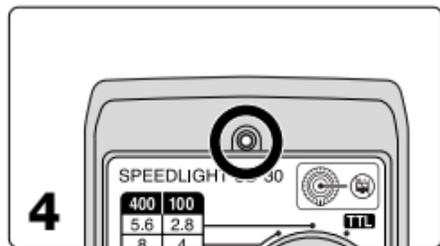
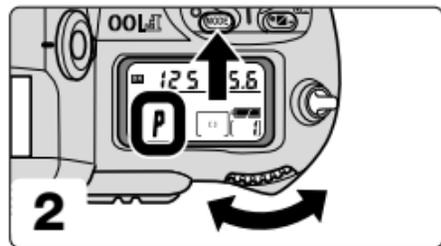
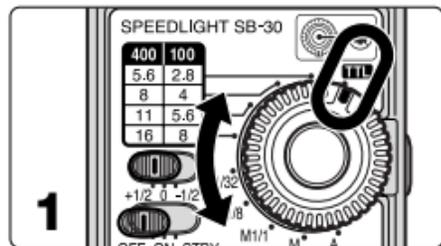
關於可以配合使用的相機，請參閱「可使用的相機及可獲得的閃光模式」（第114頁）。

視乎所使用的相機及鏡頭，可以獲得的TTL自動閃光模式例如多重感應均衡補充閃光、矩陣均衡補充閃光、偏重中央補充閃光/重點補充閃光，或標準TTL閃光。有關詳情，請參閱您的相機的使用說明書。

- 並不可作3D多重感應均衡補充閃光，因為這一具SB-30並不會發出連串的預閃光（監察預閃）。
- 這一具SB-30不能提供D-TTL自動閃光模式。

非TTL自動閃光模式

這一個模式可以配合所有尼康單鏡反光相機包括數碼單鏡反光相機。在快門釋放的一剎那及SB-30開始閃光時，SB-30內供非TTL自動閃光的內置光線測量器會量度由主體反射而來的閃光照明，並自動控制SB-30的閃光輸出，以提供正確的曝光。因此，可以配合不兼容TTL自動閃光的相機作自動閃光拍攝。可以運用的四級拍攝光圈：在ISO 100時有f/2.8、f/4、f/5.6及f/8，而在ISO 400時則有f/5.6、f/8、f/11及f/16。

於各自動閃光模式中的閃光光線不足夠警告

當此閃光燈以最高的輸出發出閃光或有可能曝光不足時，其預備燈便會閃爍大約1.5秒。要作出補救，請使用較大的光圈或向主體靠近，然後重拍。

於TTL自動閃光模式拍攝閃光照片

1 把SB-30的模式選擇盤設定到TTL。

2 設定相機的曝光模式、測光系統、同步模式及快門速度等。

・ 相機取景器內的預備燈閃爍是向您提醒相機的設定並不正確，使TTL自動閃光沒法工作。在此情況下，請確定相機的各項設定均已正確。

3 檢查光圈及閃光拍攝距離範圍。

・ 參閱「決定光圈及閃光拍攝距離範圍」圖表（第119頁）確認主體是於這範圍內。

・ 假如相機的曝光模式設定到光圈先決自動（A）或手動（M），在相機上設定其中一個由相機上的圖表獲得的適當光圈。

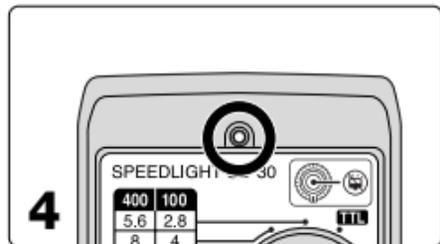
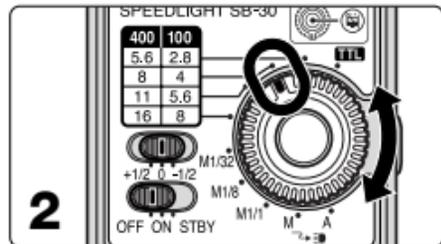
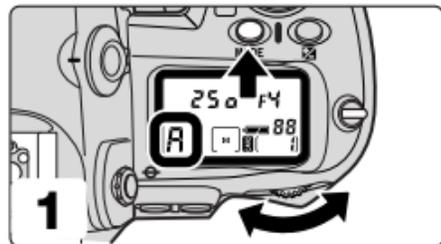
4 確定SB-30的預備燈已亮起，之後拍攝。

・ 假如在相機的取景器內的預備燈在拍攝後閃爍，請參閱第117頁。

決定光圈及閃光拍攝距離範圍（米/英呎）

	ISO感光度						閃光拍攝距離範圍（米/英呎）		
	25	50	100	200	400	800	沒有安裝廣角閃光擴射片	安裝了廣角閃光擴射片	
	—	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	1–8/3.3–26	0.7–5/2.3–16	TTL自動閃光
非TTL自動閃光	f/1.4	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	0.7–5.6/2.3–18	0.5–3.5/1.6–11	
	f/2	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	0.6–4/2–13	0.3–2.5/1–8.2	
	f/2.8	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16	0.6–2.8/2–9.1	0.3–1.7/1–5.5	
	f/4	f/5.6	f/8	f/11	f/16	f/22	0.6–2/2–6.5	0.3–1.2/1–3.9	
	f/5.6	f/8	f/11	f/16	f/22	f/32	0.6–1.4/2–4.5	0.3–0.8/1–2.6	
	f/8	f/11	f/16	f/22	f/32	—	0.6–1/2–3.2	0.3–0.6/1–1.9	

- 於ISO感光度100（200），在非TTL自動閃光模式中可以使用的拍攝光圈是：f/2.8、f/4、f/5.6及f/8（f/4、f/5.6、f/8及f/11）。
- 於ISO感光度100（400），在TTL自動閃光模式中可以使用的拍攝光圈是：由f/2到f/16（f/4到f/32）。
- 當拍攝的主體近至大約1米（3.3英呎）時，建議使用內置的廣角閃光擴射片（第132頁）。
- 當拍攝近於大約0.4米（1.3英呎）的主體時，把閃光燈頭設定到50°的位置（第109頁）。

於非TTL自動閃光模式中拍攝閃光照片

1 設定相機的曝光模式、同步模式及快門速度等。

・使用FM3A、New　FM2及FE時，在相機的取景器內閃動的預備燈是提示您相機的快門速度並沒有正確設定。在此情況下，確定相機的設定是正確的。

2 按照“決定光圈及閃光拍攝距離範圍”圖表（第119頁）決定正確光圈以配合拍攝距離範圍。在SB-30的模式選擇盤上設定相同的光圈。

・關於可獲得的光圈，請參閱“決定光圈及閃光拍攝距離範圍”圖表（第119頁）

3 在相機或鏡頭上設定與SB-30相同的光圈。

・否則，不可以獲得正確的曝光。
・當使用擁有可變光圈的變焦鏡頭時，請參閱“於遠近變焦後的光圈改變”（第121頁）後才設定光圈。

4 確定SB-30的預備燈已亮起後才拍攝。

・假如在相機取景器內的預備燈於拍攝後閃爍，請參閱第117頁。

於變焦遠近後的光圈改變

- 使用擁有可變光圈的變焦鏡頭，請在設定SB-30的光圈時注意以下要點。
- 有關詳情，請參閱您的相機及鏡頭的使用說明書。

在相機的LCD屏或於取景器內讀取光圈

- 把鏡頭的光圈鎖定到其最細小，並於變焦遠近作構圖之後，在相機的LCD屏或在取景器內讀取所出現的光圈。

使用鏡頭上的尺度讀出光圈

- 於遠近變焦選擇出適合的構圖後，用以下的方式讀出光圈：

  於廣角變焦設定，以綠色指示（或線）讀取光圈值。

  於遠攝設定，以黃色指示（或點）讀取光圈值。

  於中間設定，以兩個指示間讀取光圈。

手動閃光模式

這一具SB-30的閃光輸出水平可以手動地設定到M1/1、M1/8或M1/32。在手動模式之中，您必需綜合閃光指數、拍攝距離及鏡頭光圈以計算出正確的曝光。

・ 假如相機的曝光模式設定到光圈先決自動（A）或手動（M）以外的模式，快門則有可能無法打開，此點會視乎不同的相機而定。

閃光指數（米/英呎）及ISO感光度

ISO感光度		25	50	100	200	400	800	1600
閃光輸出水平	M1/1	8/26	11/36	16/52	22/72	32/105	45/148	64/210
	M1/8	2.8/9	4/13	5.6/18	8/26	11/36	16/52	22/72
	M1/32	1.4/4.6	2/6.6	2.8/9.2	4/13	5.6/18	8/26	11/36
閃光輸出水平（安裝了廣角閃光擴射片）	M1/1	5/16	7.1/23	10/33	14/46	20/66	28/92	40/131
	M1/8	1.8/5.9	2.5/8.2	3.5/11	5/16	7.1/23	10/33	14/46
	M1/32	0.9/3	1.3/4.3	1.8/5.9	2.5/8.2	3.5/11	5/16	7.1/23

・ 要獲得正確的曝光，可以使用以下的方程式計算出光圈及閃光指數以配合閃光拍攝距離

f/值（光圈）＝閃光指數（GN）÷拍攝距離（米/英呎）

閃光指數（GN）＝光圈X拍攝距離（米/英呎）

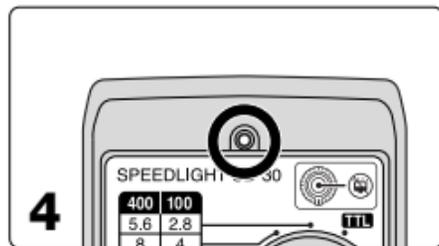
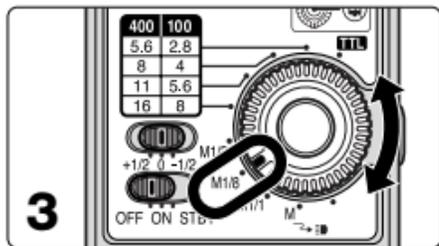
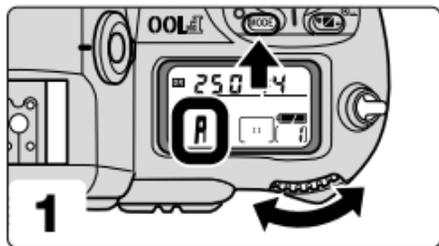
・ 舉例說，當拍攝的主體位於2.5米（8.2英呎）的距離，ISO感光度為400，以及鏡頭的光圈是f/2.8時：

閃光指數＝2.8×2.5＝7（以米計算）或2.8×8.2＝大約23（以英呎計）

因此M1/8是當安裝了廣角閃光擴射片時的正確閃光輸出

・ 又例如，當拍攝的主體位於4米（13英呎）的距離，ISO感光度為400，M1/1閃光輸出，並沒有使用廣角閃光擴射片：

f/值＝32÷4÷8（以米計算）或105÷13＝大約8（以英呎計）。因此，f/8是正確的鏡頭光圈。

於手動閃光模式拍攝閃光照片

1 設定相機的曝光模式、同步模式、快門速度等。

2 決定光圈及閃光輸出水平以配合閃光拍攝距離。

- 正如第122頁的閃光指數圖表所示，閃光指數是可變化的，視乎閃光的輸出水平及是否安裝了廣角閃光擴射片。

3 在相機或鏡頭上設定光圈及在SB-30上設定閃光輸出水平。

4 確定SB-30的預備燈已亮起，然後拍攝。

- 於手動閃光模式，在拍攝後預備燈並不會閃爍作為光線有可能不足夠作正確曝光的提示。

無線從屬閃光拍攝

在此情況下，SB-30會用作從屬閃光燈，與安裝在相機上的主體閃光燈或其內置閃光燈同步發出及停止閃光。使用這一具SB-30，可以提供以下類型的無線從屬閃光拍攝。

・ 假如模式選擇盤被設定到無線從屬閃光模式，則備用功能便不可以工作。
  注意電源仍然接通及正在耗電。

使用有內置閃光燈的相機例如COOLPIX拍攝遠距離的主體（第126頁）
把相機及這一具SB-30並排擺放，並使SB-30與內置閃光燈同步發出閃光，您便可以照明遠處的主體，可以拍攝出只利用內置閃光燈本身不能拍攝到的照片。

使用SB-30作為從屬閃光燈作離機使用（第128頁）
在多重閃光中，若以離機方式使用SB-30，您可以創造出更為自然的照片，使整張照片均有充份照明。

以主體閃光燈把牆上造成的陰影柔化或把背景照明（第130頁）
使用SB-30作全光（M1/1）輸出，您可以把礙眼的陰影消除，或把背景照明，以拍攝出自然的照片。

利用紅外線遙遠控制器作多重閃光操作（第131頁）。
當安裝了紅外線濾鏡後，SB-30便可以用作紅外線遙遠控制器，用以引發其他從屬閃光燈。

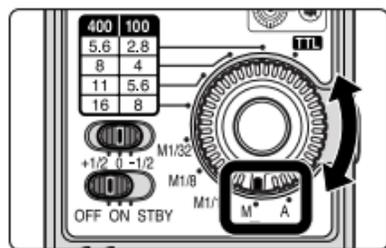
無線從屬閃光拍攝的兩種方法

利用模式選擇盤的設定可以作兩種無線從屬閃光的操作：

（1）自動無線從屬閃光（A）模式：

・ SB-30會與主體閃光燈同步地開始及停止發出閃光。
・ SB-30的光線感應器的最遠拍攝距離大約是5米（16英呎）。

（2）手動無線從屬閃光（M）模式：

・ 這一具SB-30只可以用M1/1輸出與主體閃光燈同步。
・ 這一具SB-30的光線測量器的最遠距離大約是40米（131英呎）。

注意

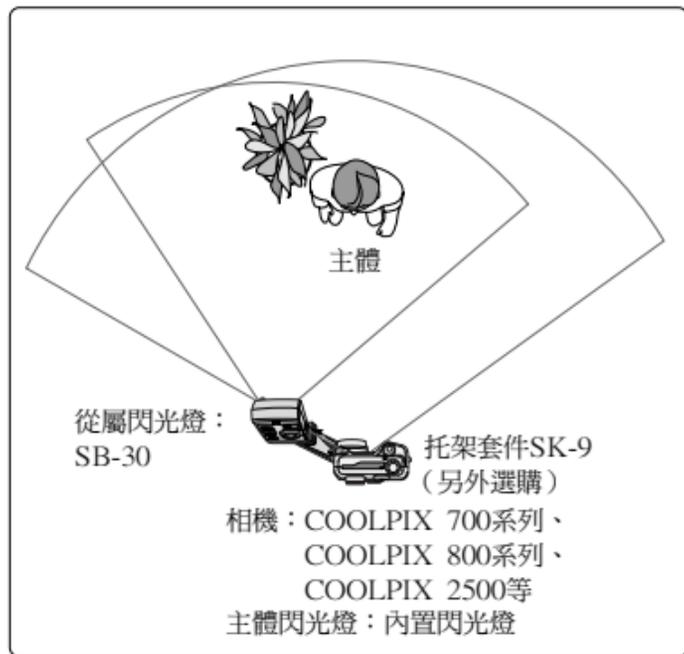
・ 擺放這一具從屬閃光燈（SB-30）時要注意主體閃光燈的光線需要可以到達從屬閃光燈的光線感應器。當您以手持從屬閃光燈拍攝時此點尤為重要。

・ 假如主體閃光燈射出一連串預閃光（監察預閃）便不能達致正確的曝光。利用以下所載的方法取消主體閃光燈的監察預閃。此點為必須的步驟，但由於COOLPIX的預閃光不會影響正確曝光，故此得以例外。

F80系列/N80系列、F70系列/N70	把相機的曝光模式設定到手動（M）
F5、F100、F90X/N90s、F90系列/N90	取消安裝在相機上的閃光燈的監察預閃光。
D1系列	把安裝在相機上的閃光燈的閃光模式設定到非TTL自動或手動。

使用SB-30與有內置閃光燈的相機例如COOLPIX一起拍攝遠距的主體

把相機及這一具SB-30並排擺放，並使SB-30與內置閃光燈同步發出閃光，您便可以照明遠處的主體，可以拍攝出只利用內置閃光燈本身不能拍攝到的照片。把SB-30的模式選擇盤設定到無線從屬閃光（A）模式以執行自動閃光。

- COOLPIX 900、COOLPIX 700系列、COOLPIX 800系列及COOLPIX 2500相機均只會發出一次預閃，故均可以使用。
- Pronea S並沒有配件插座，而F55/N55的配件座並沒有TTL自動閃光功能，但仍可以配合SB-30作TTL自動閃光。
- 當安裝SB-30到例如COOLPIX 700系列、COOLPIX 800系列，可使用另外選購的托架套件SK-9，請參閱SK-9使用說明書。

以COOLPIX拍攝閃光照片

1 正如配合正常的閃光燈在相機上作出必需的設定。

2 把SB-30的模式選擇盤設定到無線從屬閃光（A）。

- 於無線從屬閃光拍攝之中，並不可以使用SB-30的曝光補償製作曝光補償。在此情況下，在相機上作曝光補償。

3 檢查光圈及閃光拍攝距離，然後拍攝。

- 按下備用重新啟動按鈕/從屬閃光發射取消按鈕以避免因與其他閃光燈同步意外閃光。當這一個掣按下時，SB-30將不會閃光。

使用菲林單鏡反光相機拍攝閃光照片

1 設定主體閃光燈，以及相機內置閃光燈或安裝在相機上的閃燈來閃光。

- 請確定把主體閃光燈的監察預閃取消（第125頁）。

2 把SB-30用作為從屬閃光燈並設定到無線從屬閃光（A）模式。

- 於無線從屬閃光拍攝時，使用SB-30的曝光補償製作曝光補償是不可能的，在此情況，請在相機上作曝光補償。

3 檢查光圈及閃光拍攝距離，之後拍攝。

- 按下備用重新啟動按鈕/從屬閃光發射取消按鈕以避免因與其他閃光燈同步意外閃光。當這一個掣按下時，SB-30將不會閃光。

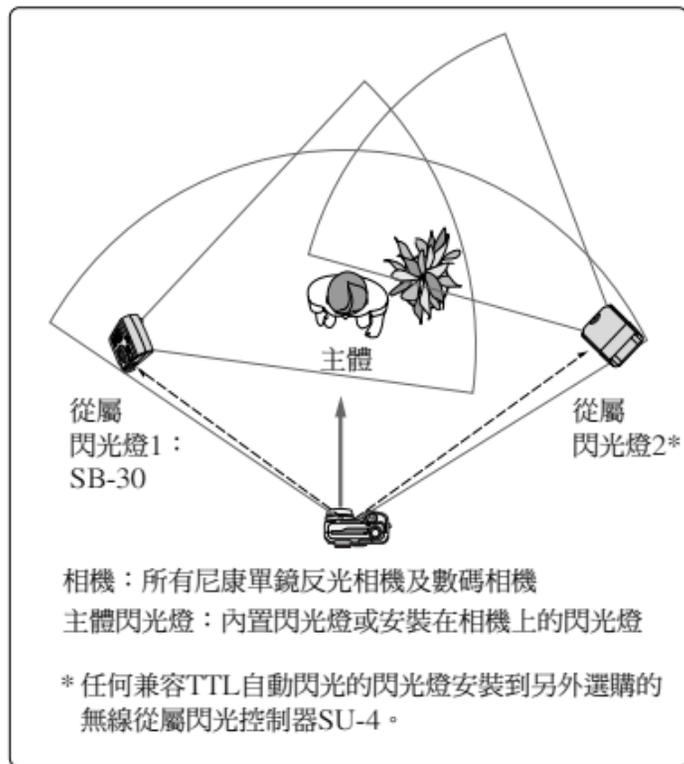
以與相機分開的SB-30拍攝主體

當SB-30置於離開相機的位置以提供多重閃光，您可以拍攝有足夠照明的更自然的照片。於TTL自動或非TTL自動閃光模式中把SB-30的模式選擇盤設定到無線從屬閃光（**A**）以提供無線多重閃光操作。

- COOLPIX 900、COOLPIX 700系列、COOLPIX 800系列及COOLPIX 2500相機只會發出一次預閃光，故均可以使用。
- 備有無線多重閃光功能的閃光燈，例如SB-30、SB-80DX、SB-50DX等均可以用作從屬閃光燈。此外，任何其他閃光燈若可以兼容TTL自動閃光，當安裝了另外選購的無線從屬閃光控制器SU-4時，亦可以使用。
- 於無線從屬閃光（**A**）模式中，SB-30的光線感應器的最遠拍攝距離大約是5米（16英呎）。
- 把從屬閃光燈置於只有主體閃光燈的光線可以到達其光線感應器的地方。假如有太多其他從屬閃光燈的光線直接或間接進入從屬閃光燈的光線感應器，便有可能無法進行正確的操作。

相機：所有尼康單鏡反光相機及數碼相機

主體閃光燈：內置閃光燈或安裝在相機上的閃光燈

* 任何兼容TTL自動閃光的閃光燈安裝到另外選購的無線從屬閃光控制器SU-4。

拍攝閃光照片

1 如配合正常閃光燈般在相機上進行的必需的設定。

2 把SB-30的模式選擇盤設定到無線從屬閃光（A）。

- 於無線從屬閃光拍攝中，不能利用SB-30曝光補償掣進行曝光補償。在此情況下，可在相機上進行曝光補償。

3 把主體閃光燈的閃光模式設定到TTL自動閃光。

- 請確保取消主體閃光燈的監察預閃（第125頁）。
- 假如監察預閃不能夠取消，可把閃光模式設定到TTL自動閃光模式以外的其他閃光模式。
- SB-30沒有D-TTL自動閃光模式。當配合數碼單鏡反光相機時，把閃光模式設定到非TTL自動閃光或自動光圈閃光。

4 檢查光圈及閃光拍攝距離，然後拍攝。

利用主體閃光燈柔化在牆上的陰影或把背景照明

把SB-30的模式選擇盤設定到無線從屬閃燈（**M**），而閃光燈會以M1/1的輸出發出閃光，可以讓您把陰影消除或把背景照亮，以便拍攝出看來更自然的照片。

・ 主體閃光燈的光線感應器的最遠拍攝距離大約是40米（131英呎）。

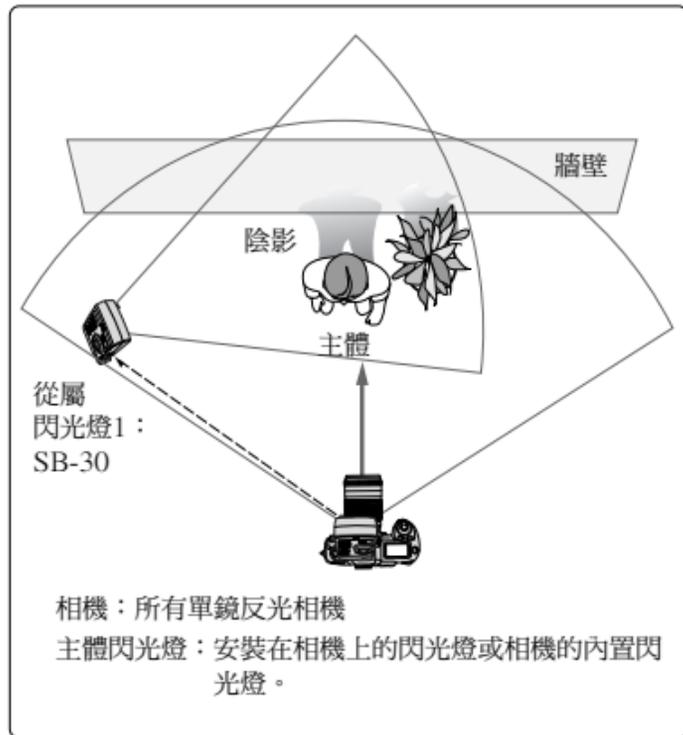
相機：所有單鏡反光相機

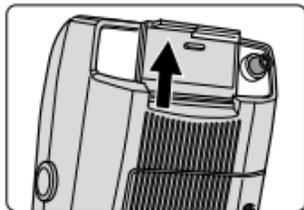
主體閃光燈：安裝在相機上的閃光燈或相機的內置閃光燈。

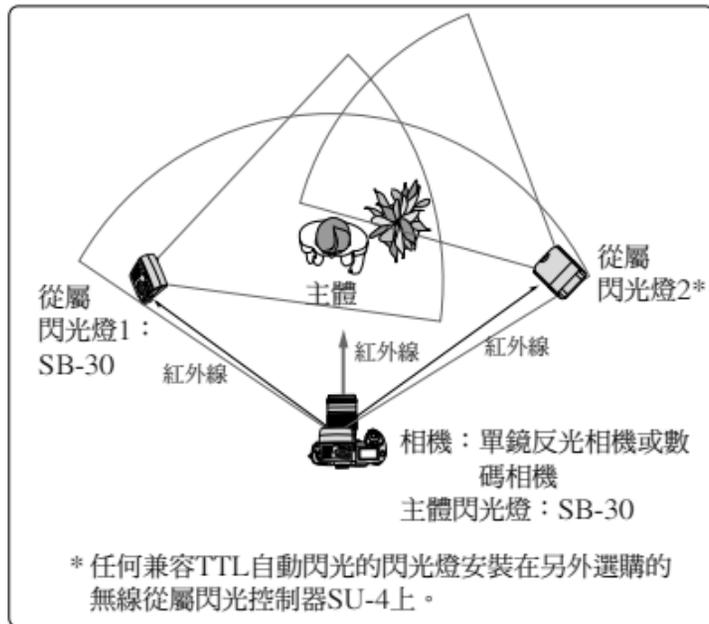
拍攝閃光照片

1 把SB-30用作從屬閃光燈並把它設定到無線從屬閃光（M）模式。

2 利用閃光燈到主體間的距離及設定在相機或鏡頭上的光圈，決定正確的曝光，然後拍攝。

- ・ 請參閱第122頁的“手動閃光模式”。
- ・ 要消除例如投射在牆壁上的陰影，可使用相當於拍攝牆壁上的照明度的兩級或以上的曝光過度。

利用SB-30作紅外線遙遠控制器作多重閃光操作

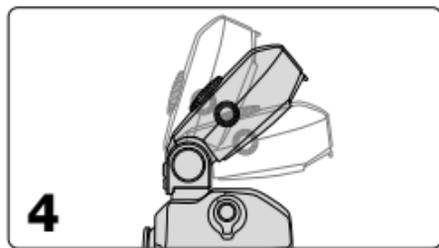
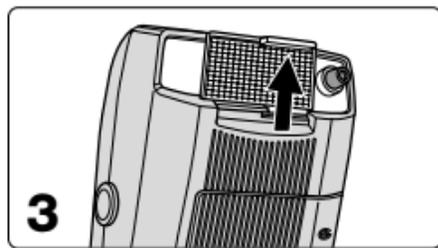
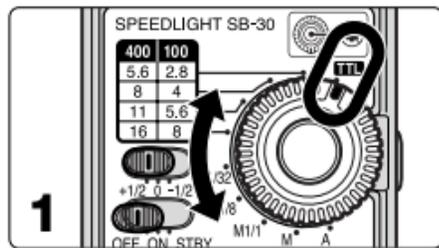
當安裝了內置的紅外線濾鏡，您可以把SB-30用作紅外線遙遠控制器以執行無線多重閃光，只是利用從屬閃光燈照明主體而並沒有使用主體閃光燈作照明。

- 把閃光模式設定到TTL自動閃光；不建議使用非TTL自動閃光。
- 紅外線濾鏡可以和廣角閃光擴射片一併使用。
- 雖然在紅外線濾鏡的兩旁會有閃光溢出，但此舉不會影響正確的曝光。
- 假如沒有使用這紅外線濾鏡，主體閃光燈便會如正常閃光燈般工作，而主體亦會被此閃光燈所照明。

* 任何兼容TTL自動閃光的閃光燈安裝在另外選購的無線從屬閃光控制器SU-4上。

利用連線作多重閃光操作

與其他兼容TTL自動閃光模式的閃光燈一樣，這一具SB-30亦都可以利用另外選購的TTL遙控線SC-17/SC-24、TTL多重閃光同步線SC-18/SC-19或TTL多重閃光適配器AS-10作TTL多重閃光。有關詳情，請參閱您的相機或配件的使用說明書或有關產品小冊子。

利用內置廣角閃光擴射片進行大約0.3到1米（1到3.3英呎）的近距閃光攝影

把SB-30安裝到相機的配件插座，便可以進行近距閃光拍攝。

・ 當拍攝近距閃光照片時，請緊記要使用內置的廣角閃光擴射片。
・ 當使用大直徑的鏡頭或遮光罩等作近距閃光拍攝時，有可能出現暈影現象。

1 把SB-30的模式選擇盤設定到 TTL 。

・ 如使用不兼容TTL自動閃光模式的閃光燈，把選擇盤設定到非TTL自動閃光或手動閃光模式。

2 設定相機的曝光模式、測光系統、同步模式，及快門速度等。

・ 在相機取景器內的預備燈會閃爍提示您相機的設定並不正確，使TTL自動閃光無法進行。在此情況下，請檢查相機的各項設定。

3 把廣角閃光擴射片抽出並設定到位。

・ 小心黑色的紅外線濾片並沒有在閃光擴射片前造成障礙。

4 當進行少於大約0.4米（1.3英呎）的近攝時，把閃光燈頭俯低。

・當拍攝距離少於0.4米（1.3英呎）的主體時，把閃光燈頭俯低到50°的位置以便作有效的照明。

5 利用"決定光圈及閃光拍攝距離範圍（米/英呎）"（第119頁）以決定正確的光圈，以及在相機上設定相同的光圈。

・於非TTL自動閃光模式中，亦要在SB-30的模式選擇盤上設定相同的光圈。

6 檢查SB-30的預備燈已亮起，然後拍攝。

・假如在相機取景器內的預備燈於拍攝後閃爍，請參閱第117頁。

內置廣角閃光擴射片

・內置廣角閃光擴射片亦可以在近距閃光拍攝以外的情況下使用。

・SB-30的涵蓋角度可以配合28mm鏡頭，利用內置廣角閃光擴射片更可以把涵蓋角度擴闊到配合17mm鏡頭，但閃光指數則會由16/52降低到10/33（ISO 100米/英呎）。

・當安裝了內置廣角閃光擴射片使用17mm鏡頭時，相機與主體間的距離由畫面的中央到邊緣便有極大的差異，因此，在某些情況下邊緣的位置便會有照明不足的情況。

曝光補償

當SB-30的模式選擇盤設定到非TTL自動，M1/32，或M1/8時，便可以利用曝光補償掣調節SB-30的輸出。
把曝光補償掣設定到+1/2的位置可以使主體更明亮，而設定到-1/2則會使主體暗一些。
當配合COOLPIX相機使用時，您可以在顯示屏上監看影像的光度以設定閃光的輸出，然後再次拍攝。

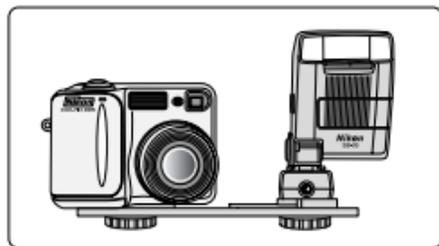
曝光補償掣

+1/2： 增加閃光燈的輸出到+1/2 EV以使主體更明亮
0： 並沒有補償。當曝光無需作補償時，把此掣設定到零（0）
-1/2： 減低閃光燈的輸出到-1/2 EV以使主體暗一些

・ 假如模式選擇盤設定到TTL自動閃光，M1/1或無線從屬模式，便不可以使用此掣作曝光補償。

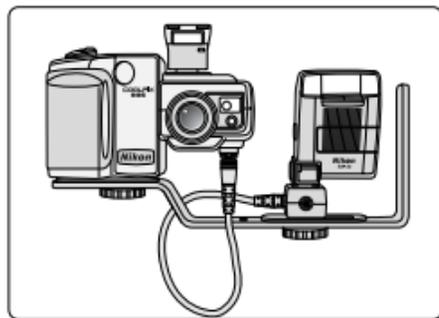
另購配件

托架套件 SK-9

這一個SK-9可以讓COOLPIX（COOLPIX700系列、800系列及900系列）或各款單鏡反光相機與SB-30並排安裝在一起。這一個托架套件包括托架SK-9、TTL多重閃光適配器AS-18，以及同步線SC-25以便把COOLPIX 900以外的各款COOLPIX 900系列相機連接到AS-18。

多重閃光托架 SK-E900/多重閃光適配器 AS-E900

把COOLPIX安裝到多重閃光托架SK-E900並利用多重閃光適配器AS-E900把SB-30連接到COOLPIX的多重閃光終端，則SB-30便可以用於尼康COOLPIX 900系列相機作為從屬閃光燈。

SK-E900包括了一個AS-E900多重閃光適配器。

參考資料

疑難排解

在您把您的閃光燈送往尼康服務中心修理前，請先閱讀下表找出引致問題的原因。

問題	可能的原因	參考/補救
預備燈沒有亮起	當電源開關掣設定到ON或者STBY的位置時更換電池	安裝電池（第110頁）
	電池沒有正確地安裝	安裝電池（第110頁）
	電池微弱	安裝電池（第110頁）
	備用功能正在啟動及正在操作	調校電源開關及備用功能（第111頁）
	電池終端或SB-30的電池觸點不清潔	把終端或觸點清潔
於發出閃光後預備燈閃爍約1.5秒	拍攝距離超出了可獲的閃光拍攝距離範圍	確認光圈及閃光拍攝距離範圍（米/英呎）（第119頁）
預備燈需要較長時間才亮起	電池微弱	安裝電池（第110頁）
	由於連續閃光使電池發熱	等候SB-30冷卻
雖然預備燈已亮起，但快門不能釋放	模式選擇盤設定到非TTL自動或手動，而相機的曝光模式設定到程式自動或快門先決自動	非TTL自動閃光模式(第120頁） 手動閃光模式（第122頁）

閃光燈護理提示及電池注意事項

清潔
・ 使用氣泵掃來清除SB-30上的污垢及塵埃，並使用柔軟、潔淨的布來抹拭。於接近鹹水的地方使用SB-30之後，使用輕微沾了清水、柔軟和潔淨的布來輕輕抹拭，然後再用乾布把它抹乾。

貯存
・ 把SB-30貯存於陰涼、乾燥的地方，以防止因濕度高而引致故障，並可以防止發霉或結露。
・ 把SB-30貯藏於遠離化學物品的地方，例如臭丸或樟腦。
・ 不應把SB-30存放於高溫的地方或在高溫的地方使用，例如暖爐和焗爐，因為此舉會導致閃光燈損壞。
・ 若有多於兩個星期不使用SB-30，請確保把它貯藏之前先行把電池移去，以免因電池洩漏液體而導致故障。
・ 應每月把SB-30取出，放入電池並讓它閃光數次，使電容器保持狀態。

操作地點
・ 突然的溫度變化會引致SB-30內部凝結水珠。當把SB-30由非常冷的地方拿到非常熱的地方或在相反的情況下，應把它先放入密封的容器內，例如塑膠袋內，待一段時間後才慢慢把SB-30曝露於外間溫度中。
・ 避免把SB-30曝露於強烈磁場或來自電視或高壓輸電塔的輻射，因為此舉會導致它出現故障。
・ 當SB-30的閃光模式設定到無線從屬閃光時，這一具閃光燈便有可能在有閃爍螢光管的環境中意外地發出閃光。

安裝一枚3V鋰電池（CR123A或DL123A）
・ 當拍攝重要項目時，應先行更換電池，或帶備額外的電池。
・ 假如電池的電極受污了，或被您的手油所弄污，請使用乾布清潔電極，受污的電極會引致接觸不良。

於低溫下使用新的電池
・ 當在低溫下使用已消耗的電池，SB-30有可能無法正常操作。
・ 當溫度下降時電池能量會減弱，使回電的時間增加，並減少可以閃光的數目。當溫度回升到正常時，電池能量便會恢復。
・ 當低溫時，使用新的電池，或保持後備電池溫暖及使用它們。

規格

電子結構：
自動絕緣閘二極晶體管（IGBT）及串聯電路

電池：
一枚3V鋰電池（CR123A或DL123A）

閃光指數（ISO 100，米/英呎）：
於28mm的涵蓋角度時為16/52（沒有使用廣角閃光擴射片）
於17mm的涵蓋角度時為10/33（使用了廣角閃光擴射片）

涵蓋角度：
涵蓋28mm鏡頭的畫面角度（並沒有安裝廣角閃光擴射片）
涵蓋17mm鏡頭的畫面角度（安裝了廣角閃光擴射片）

電源開關：
提供（關/開/備用）三個位置：OFF/ON/STBY
ON/STBY位置：電源接通
STBY：當閃光燈閒置約40秒的時候，SB-30便會自動關掉以節省電池

回電時間及閃光數目：
最短回電時間：大約4秒（當使用全新電池並以M1/1輸出閃光）
閃光數目：大約250次（當使用全新電池並以M1/1輸出閃光）

模式選擇盤：
共有四檔：TTL自動閃光，非TTL自動閃光（4級），手動閃光（3級），無線從屬閃光（A或M）

預備燈：
當SB-30回電完成並預備閃光時便會亮起。當它以全光輸出便會閃爍，顯示閃光的光線可能並不足夠（於TTL自動閃光及非TTL自動閃光模式）。當相機在TTL自動閃光模式的設定並不正確時，在相機的取景器內的預備燈便會閃動。

備用重新啟動按鈕/從屬閃光發射取消按鈕：
當SB-30進入備用狀態後把它重新啟動。防止SB-30在從屬閃光操作時意外地發出閃光。

閃光時間
於M1/1輸出時為1/2800秒

體積（闊×高×厚）
大約58.5×83.5×36mm（2.3×3.3×1.4英吋）

重量（不連電池）
大約92克（3.2安士）

所有表現數據及規格以在常溫（20℃/68℉）下使用全新的電池為準。規格及設計如有變更恕不另行通知

Nikon

NIKON CORPORATION

FUJI BLDG., 2-3, MARUNOUCHI 3-CHOME,
CHIYODA-KU, TOKYO 100-8331, JAPAN

T2I03 (40)